

講義コード (Course Code)	210013N0J
授業名 (Course Title)	応用言語学
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	米崎 啓和
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』 山内進 (編著) 大修館書店 2003 必要に応じて別途課題プリントを配布する
参考文献 (References)	『The Routledge Applied Linguistics Reader』 Li Wei (Ed.) Routledge 2011 『Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics 4th Edition』 Jack C. Richards & Richard Schmidt Routledge 2010 ハンドアウト、雑誌・論文など必要に応じてその都度配布する
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文・文献の購読を通じて、応用言語学で扱われる種々の分野を総論的に扱う。社会言語学で扱われる諸問題より始め、言語習得にまつわる問題、言語と脳の問題、外国語教授法などの諸分野を俯瞰し、現在の日本の教育現場において英語教育実践を考える際に必要な専門的知識の習得を目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文購読を通じて、以下の諸点についての理解を深める。

1. 言語と文化、言語と社会、言語とジェンダーなどの社会言語学的観点
2. 母語習得と第二言語習得
3. 言語と脳
4. 外国語教授法
5. 日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本授業は、テキスト以外にも「応用言語学と英語教育」に関連した文献 (プリント配布) の購読を中心として進める。教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生は輪番で課題文献の要約を発表し、全員で討議する。また、受講生は指示された内容について、レポートの提出が個別に求められる。これらの課題・レポートに関しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各授業の準備段階においては、課題論文を熟読し内容をよく理解した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で扱われる各テーマに関して自分なりの問題意識と自らの研究テーマにどのように生かしていくのかを考えたいうえで出席すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加及び平常レポート (60%)、期末レポート課題 (40%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業方法についての説明と応用言語学についての導入
- 第2回 言語と社会
- 第3回 異文化コミュニケーション
- 第4回 言語と文化
- 第5回 言語とジェンダー
- 第6回 世界の言語
- 第7回 L1、ESL、EFLとしての英語
- 第8回 言語政策と言語教育
- 第9回 英語帝国主義と英語の未来
- 第10回 母語習得と第二言語習得
- 第11回 言語と脳
- 第12回 外国語教授法—文法訳読法・オーディオリンガル・メソッド・コミュニカティブ・アプローチ—
- 第13回 小学校における英語教育
- 第14回 CBIとCLIL
- 第15回 日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講者のニーズ、人数などにより、受講者と相談の上、授業予定を変更することがある。

講義コード (Course Code)	210016N0E
授業名 (Course Title)	英語プレゼンテーション Seminar on Presentations in English
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	York Weatherford
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『The Art of Public Speaking, 12th Edition』 Lucas, Stephen E. McGraw Hill 2014
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, how to use language effectively, etc.

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・ Attend classes regularly.
- ・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. Read the assigned textbook chapters
2. Complete critical reading assignments
3. Prepare speeches/presentations

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Assignments (35%)

Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)

PowerPoint files (20% x 1 = 20%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction, Including Assessing Your Presentation Skills
- 第2回 Presentation #1 on Self-Introduction & Chapter 1: Speaking in Public
- 第3回 PowerPoint Workshop & Chapter 2: Ethics and Public Speaking
- 第4回 Chapter 3: Listening
- 第5回 Chapter 4: Giving Your First Speech
- 第6回 Chapter 5: Selecting a Topic and a Purpose
- 第7回 Chapter 6: Analyzing the Audience
- 第8回 Chapter 7: Gathering Materials
- 第9回 Presentation #2: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 8: Supporting Your Ideas
- 第10回 Chapter 9: Organizing the Body of the Speech
- 第11回 Chapter 10: Beginning and Ending the Speech
- 第12回 Chapter 11: Outlining the Speech
- 第13回 Chapter 12: Using Language
- 第14回 Chapter 13: Delivery
- 第15回 Presentation #3: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 14: Using Visual Aids

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210019N0E
授業名 (Course Title)	アカデミックリーディング&ライティング
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	Robert Kritzer
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	『MLA 英語論文作成ガイド』
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

Students will read, outline, and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts, they will also submit two 5-page papers on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two papers

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Classroom performance, summaries, outlines 30% Papers 70%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introductory class
- 第2回 Outlining: outline of the first article
- 第3回 Summarizing: summary of the first article
- 第4回 Outlining: outline of the second article
- 第5回 Summarizing: summary of the second article
- 第6回 Outlining: outline of the third article
- 第7回 Summarizing: summary of the third article
- 第8回 Introduction to MLA style, Outline for Paper I
- 第9回 Revision of first draft of Paper I
- 第10回 Peer critique of second draft of Paper I
- 第11回 Teacher conferences on Paper I
- 第12回 Paper I due, Outline for Paper II
- 第13回 Revision of first draft of Paper II
- 第14回 Peer critique of second draft of Paper II
- 第15回 Teacher conferences on Paper II (Paper II due the following week)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

Class will be conducted in English. Students must attend regularly.

講義コード (Course Code)	210020N0J
授業名 (Course Title)	応用英語研究方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小林 順, 大川 淳, 橋堂 弘文, 小山 哲春, 杉村 美奈, 東郷 多津, Robert Kritzer, 米崎 啓和, 須川 いずみ, York Weatherford
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	『研究法ハンドブック』 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一 編著 ナカニシヤ出版
参考文献 (References)	適宜指示
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本授業は、応用英語専攻修士1回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：

- (1) 大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
- (2) 大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
- (3) 大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
- (4) 各学問領域における特定の研究方法論を概観する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本授業は、主に以下のような構成となる：

第1～4週 一般的な研究方法論に関する講義

第4～14週 Reading assignmentに基づく講義、解説、討論

第15週 全体のまとめ、および質疑応答

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Reading Assignment

第4～14週の授業に際しては、受講者は、前もって課されたReading Assignment (各授業につき、Journal article, Book chapter, etc.) を熟読し、授業中の討論に参加する。

Short Paper:

第4～14週の授業では各教員が指定するトピックでのShort Paper (500 words～) が課され、これを指定の期日までに提出する。

Proposal

最終課題として、各種方法論を学習した上での「研究計画書 (Proposal)」を執筆する。

各種課題の詳細については授業中に指示する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Short Paper 60%

Proposal 40%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 大学院における研究の質と意義、心構え／研究の具体的な進め方 (共通) (小山)
- 第2回 文学・文化研究方法論 総論／社会科学研究方法論 総説 (須川)／(小山)
- 第3回 Academic Integrity (共通) (Kritzer)
- 第4回 Methods of Reading Academic Articles (文学)／英語教育学 (第二言語習得論の目標と分析対象) (Kritzer)／(Weatherford)
- 第5回 Methods of Writing Academic Articles (文学)／英語教育学 (第二言語習得研究方法論) (Kritzer)／(Weatherford)
- 第6回 イギリス文化論 (ビートルズ研究総説)／英語教育学 (教育学の目標と分析対象) (小林)／(東郷)
- 第7回 イギリス文化論 (ビートルズ研究伝記)／英語教育学 (教育学研究方法論) (小林)／(東郷)
- 第8回 イギリス文化論 (ビートルズ文献講読)／英語教育学 (教授法研究の目標と分析対象) (小林)／(橋堂)
- 第9回 イギリス文学 研究方法論総説／英語教育学 (教授法研究方法論) (須川)／(橋堂)
- 第10回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品講読／英語教育学 (応用言語学の目標と分析対象) (須川)／(米崎)
- 第11回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品分析／英語教育学 (応用言語学研究方法論) (須川)／(米崎)

- 第12回 アメリカ文学 研究方法論総説／言語学（理論言語学の目標と分析対象）（大川）／（杉村）
- 第13回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品講読／言語学（研究方法論）（大川）／（杉村）
- 第14回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品分析／コミュニケーション学（コミュニケーション研究の目標と分析対象）（大川）／（小山）
- 第15回 英米文学研究 総括／コミュニケーション学（研究方法論）
研究計画書執筆に向けて 総括（共通）（須川）／（小山）

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

本科目は原則として、文学・文化領域、英語教育・コミュニケーション・言語学領域の2クラスに分かれて授業を行う。なお、領域共通の授業回に関しては合同のクラスで授業を行う。

講義コード (Course Code)	210047N0J
授業名 (Course Title)	言語研究デザインと統計
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小山 哲春
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『Research Methods for the Behavioral Sciences』 Stangor, C Houghton Mifflin 1998 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫 北大路書房 1990 『英語教師のための教育データ分析入門』 三浦省吾 監修 大修館書店 2004 『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』 小塩真司 東京図書 2004
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究（例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等）を含む。本コース終了時に以下の3つの能力を習得していることが目標となる。(1) 他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力 (2) 自らの言語研究を計画し遂行する能力 (3) 質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 社会科学（言語研究を含む）の定義、科学哲学、認識論
- (2) 社会科学的研究の方法論
- (3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン
- (4) 記述統計
- (5) 推論統計の基礎

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

課題(1)～(3)に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題(4)～(5)に関しては、テキスト、資料に基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) 試験(2回を予定) 50% (2) (模擬) 研究計画 30% (3) 統計分析の演習 20%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction / Philosophy of Science
- 第2回 Scientific Reasoning / Hypothesis Testing
- 第3回 Research Elements
- 第4回 Measurement (1) : Scale Development
- 第5回 Measurement (2) : Validity and Reliability / Sampling
- 第6回 Research Design
- 第7回 Review & Midterm Exam
- 第8回 Descriptive Statistics (1) : Central Tendency
- 第9回 Descriptive Statistics (2) : Variance and Standard Error
- 第10回 Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing
- 第11回 Comparing Means (t-test)
- 第12回 Analysis of Variance (1) : One-way ANOVA
- 第13回 Analysis of Variance (2) : Factorial ANOVA
- 第14回 Correlation / Simple Regression
- 第15回 Comparing Proportions (chi-square)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない(四則計算ができれば十分!)。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。

講義コード (Course Code)	210091A0J
授業名 (Course Title)	専門演習 アメリカ文学批評
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	大川 淳
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

19世紀アメリカ文学を代表する作家の一人Herman Melvilleの作品を読む。テキストの難解さは、Melville作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけではなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

Herman Melvilleの作品は、アメリカ文学の中でも最も難解な作品群に含まれるであろう。そうしたテキストを読むことは、高度な英語力と分析力を必要とする。そこで、テキストの細部にこだわりながら一語一句分析するような地道な読みの行為が課題となる。学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。学期の最後に、Billy Budd, Sailor論の提出を課す。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

- 1) テキスト内の文法構造を理解すること
- 2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること
- 3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
- 4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
- 5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるよう明確にしておくこと

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 (予習等) 40%

Final Paper 60%

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 イントロダクション: Herman Melvilleの紹介、授業の進め方

第2回 Billy Budd, Sailorの精読1

第3回 Billy Budd, Sailorの精読2

第4回 Billy Budd, Sailorの精読3

第5回 Billy Budd, Sailorの精読4

第6回 Billy Budd, Sailorの精読5

第7回 Billy Budd, Sailorの精読6

第8回 Billy Budd, Sailorの精読7

第9回 Billy Budd, Sailorの精読8

第10回 Billy Budd, Sailorの精読9

第11回 Billy Budd, Sailorの精読10

第12回 Billy Budd, Sailorの精読11

第13回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

第14回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

第15回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091B0J
授業名 (Course Title)	専門演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	橋堂 弘文
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	TESOL Quarterly, Applied Linguistics, Language Learning 等の専門誌 『英語教育研究入門』大修館 『アクション・リサーチの進めー新しい英語授業研究ー』大修館 『Principles of Language Learning and Teaching』H. Douglas Brown Prentice Hall Regents 2007 『英語教育のフロンティア』青木昭六編著、橋堂 保育出版社 2013
参考文献 (References)	『ロングマン応用言語学辞典』南雲堂 『英語教育用語辞典』大修館 最新刊 『DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』LONGMAN 最新刊
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本演習では、院生各自が持つ修士論文の研究課題に合わせて、研究に必要な以下の3つの基本的な方法論を適宜利用して、修士論文作成の一助としたい。演習終了時点で、修士論文の一部が完成することを目指す。特に研究課題の領域の指定は無い。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

以下の研究方法を利用する。1) 先行研究の文献研究 2) 研究課題の解決に際し、学際的 (interdisciplinary) なアプローチで臨む方法論の研究 3) 量的研究: 実証科学的方法 (empirical) 利用の研究やフィールドワークのデータ分析。

特に最終段階では、上述の3つの方法論を、各自の持つ研究課題や教育実践上の諸問題 (授業技術及び方法、授業形態、教材編成、カリキュラム、評価など) の対処や改善に応用し、修士論文の作成に役立てたい。

その際、特に量的研究に関しては、本演習で学んだ実験・調査・測定という科学的なデータを収集し、それを分析し、その結果を用い各自の仮説を検証するという、実証科学的方法の採用を期待する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

-第1段階-

修士論文の研究課題に合わせた研究方法のアドヴァイスや研究者等の紹介。

-第2段階-

院生各自の研究課題に合わせて、先行研究や実践例、フィールドワーク資料、文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

-最終段階-

院生各自の持つ教育実践上の諸問題を、本演習で学んだ各方法論を用いて、修士論文の作成に役立てたい。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

院生各自の研究課題に合わせた先行研究や実践例、フィールドワーク資料、文献研究などの発表準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ディスカッション20%、課題発表30%、授業中の積極性50%の総合評価。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 修士論文の研究課題に合わせた研究方法のアドヴァイスや研究者等の紹介。研究計画の立案。

第2回 研究計画の検討、

第3回 院生各自の研究課題に合わせて、先行研究や実践例、フィールドワーク資料の検索

第4回 研究課題に合わせて、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

第5回 先行研究の内容に関して、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

第6回 フィールドワークの等の計画検討

第7回 先行研究の文献研究やディスカッションを元に、修士論文の作成指導を実施する。

第8回 研究の間まとめと振り返り、研究課題に合わせたディ

スカッションをしながら、KJ法等マインドマッピングによるアウトラインの検討

第9回 学期後半の研究課題に合わせた、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、修士論文の資料作成を実施する。

第10回 研究課題に合わせた、修士論文の資料作成を実施する。

第11回 先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、アウトラインに沿った修士論文の作成

第12回 学期後半の研究課題に合わせた、先行研究の文献研究などによる発表をもとに、ディスカッションをしながら、アウトラインベースの論文まとめ

第13回 学期後半の研究課題に合わせたディスカッションをしながら、論文の検討

第14回 論文の校正と修正

第15回 論文内容の検討

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

研究会、学会への参加を奨励する。

講義コード (Course Code)	210091C0J	
授業名 (Course Title)	専門演習 ビートルズ研究	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担当者 (Instructor)	小林 順	
単位数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M1	
テキスト (Textbook)	『読みつつビートルズ』 小林・福屋 (編) lip Norman 萌書房 2018 ビートルズ関連図書、本学図書館所蔵 図書、等。オンライン・データや情報。	
参考文献 (References)	ビートルズ関連図書、本学図書館所蔵 図書、等。オンライン・データや情報 を網羅。	
備考 (Note)	必修	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

イギリス文化・文学研究の切り口を提示したい。それは、ビートルズ、である。デビュー (1962年10月) まもなく、脚光を浴びたビートルズ狂 (ビートルズマニア) の実態を解明したい。時代は1960年代、いわゆるSwinging 6sと称される、ポップ・アートを中心に生活・ファッション・消費活動など社会全般の急変化の時代に、その時代を象徴したビートルズの全貌を把握するのがこのクラスの課題である。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成がこのコースでは最重要課題であり、受講者は入学前から指導を受け入れるため、その延長線上にさらに研究を積み重ねられるように指導を行う。具体的には、論文執筆の状態に応じて工夫するため一概には表わし難いものの、いわゆる前提研究・資料の読解をとおして、研究の方向性を定められるよう留意したい。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

週ごとに新たな資料・データを読解する。受講者が探索した資料・データを、あるいは指導者が推薦するものを、丹念に世も解いていく。同時に、その成果を学期末に纏めたレポートを提出してもらう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

楽曲を聴く。推薦する図書を読む。1960年代の歴史を紐解く。新聞等 (朝日、読売のアーカイブを探る) を読む。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
4時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

資料・データの収集力、40%。期末レポート、40%。研究上の熱意、20%。合計、100%。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 15週を予定。毎週、資料・データを読解。ただし、初回用として、担当者が資料・データを提示。それ以降は主に、受講者の選択したものを読解。受講者は前週までに資料・データを提出。最終15週にレポートの課題を決定。

第2回 1960年代について講義。ビートルズ誕生の物語を調べる。

第3回 ビートルズ、レコード・デビューの奇蹟的成り行きを振り返る。

第4回 ビートルズの同時代人であるボブ・ディランの音楽の特徴を述べる。ビートルズとの類似性を提示する。

第5回 ビートルズのアルバムの総論をおこないます。

第6回 ビートルズ活動前期について説明します。

第7回 ビートルズ活動中期について説明します。

第8回 ビートルズ活動後期について説明します。

第9回 1960年代の特徴を調べます。

第10回 1960年代の音楽について述べます。

第11回 ボブ・ディランが受け継いでいる音楽的伝統について述べます。

第12回 ビートルズが受け継いでいる音楽的伝統について述べます。

第13回 ビートルズとディランの関係について述べます。

第14回 ビートルズとディランの活動期間の違いについて述べます。

第15回 ビートルズとディランはどちらの影響力が大きいかについて議論してみましょう。

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

クラスはオンライン開催の場合もある。

講義コード (Course Code)	210091D0J
授業名 (Course Title)	専門演習 ことばとコミュニケーション
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小山 哲春
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	なし
参考文献 (References)	修士論文のトピック等を考慮し、1週間に1～2本程度の論文／Book ChapterをReading Assignmentsとする。
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究（修士論文）を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 関連領域の基盤的知識（語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等）の獲得 2. 先行研究の概観と課題の探索 3. 修士論文のテーマ（研究課題）の絞り込み 4. 修士論文のProposal：最初の数章（先行研究、研究課題／研究仮説の特定、方法論）の完成

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 各授業は、各週のReading Assignmentについての（1）院生からの批判的報告、（2）担当教員からの解説、（3）担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。

2. 学期末までに、修士論文のProposalを完成する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. 各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション (50%) 2. 修士論文Proposal (50%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 Orientation

第2回 Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)

第3回 Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)

第4回 Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)

第5回 Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)

第6回 Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)

第7回 Interim Report

第8回 Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)

第9回 Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)

第10回 Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)

第11回 Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)

第12回 Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)

第13回 Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)

第14回 Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)

第15回 Proposal Meeting

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091E0J
授業名 (Course Title)	専門演習 ジェイムズ・ジョイスの作品を読む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	『Ulysses Annotated』 Don Gifford Univ. of California Press 1974年 『James Joyce's Ulysses』 Harold Bloom Chelsea House 1987年
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

文学で修士論文を書くと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシーズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 修士論文を書くに当たっての研究手法の習得
- (2) 原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
- (3) 原作の精読の習得
- (4) 先行論文の把握
- (5) 研究テーマの確定

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 文学・映画テキストの精読
- (2) 先行論文の紹介
- (3) 研究テーマの紹介
- (4) ディスカッション
- (5) レポート提出
- (6) 発表

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

大変少人数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかり読んでまとめる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所配布資料を準備してくることが求められている。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 (50%)、提出物 (30%)、発表 (20%) で総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 オリエンテーション

第2回 今までの研究課題発表

第3回 ジョイスの"The Boarding House"前半2分の1までの精読

第4回 ジョイスの"The Boarding House"前半までの精読

第5回 ジョイスの"The Boarding House"後半2分の1までの精読

第6回 ジョイスの"The Boarding House"最後までまでの精読

第7回 クリティシズムの紹介とディスカッション

第8回 Ulysses 第1挿話を読む

第9回 Ulysses 第3挿話を読む

第10回 Ulysses 第8挿話を読む

第11回 Ulysses 第13挿話を読む

第12回 Ulysses 第15挿話を読む

第13回 Ulysses のビデオ鑑賞

第14回 クリティシズムの紹介とディスカッション

第15回 まとめとその他

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

各の学生の研究テーマによって内容を変更する。

講義コード (Course Code)	210091F0J
授 業 名 (Course Title)	専門演習 理論言語学(統語論/形態論のインター フェイス研究)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	杉村 美奈
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	修士論文のトピックに関連した文献を、 各回クラスに1本のペースで読み進め ていく。
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

言語理論研究における意義、及び、方法論について学んでいくことを目標とする。具体的には、言語現象の観察から一般化を導き、その一般化に対する仮説を立て、さらには仮説の検証及び理論的帰結を導くまでの一連の流れを身につけていく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 言語理論研究の基盤的知識を身につける。
2. 自らの設定した研究課題に関連する先行研究を概観し、批判的評価をする。
3. 2の批判的評価を受け、新たな提案・分析を行い、理論的帰結を導く。
4. 2、3のプロセスを基に、修士論文のプロポーザル・アウトラインの作成を行う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各回に1本、研究課題に関連する文献を読み進めていく。基本的には院生が各文献の批判的レビューを行い、担当教員が補足的説明を行う。批判的分析を院生と担当教員との間でディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

院生自らが収集した修士論文のトピックに関連する文献と、補足的リーディングとして担当教員が指定する文献を交互に各回のクラスで1本ずつ読み進めていくため、授業時までに批判的レビューを行い、問題点を明らかにしておくことが期待される。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

リーディングの批判的レビュー及び問題設定等のディスカッション
50%

修士論文のプロポーザル 50%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 言語研究理論の方法論
- 第2回 理論言語学の概観
- 第3回 トピック選定と関連文献の収集
- 第4回 関連文献1の批判的分析
トピックの背景知識についての解説
- 第5回 関連文献2の批判的分析
データ観察から一般化を導く
- 第6回 関連文献3の批判的分析
一般化から仮説を立てる
- 第7回 関連文献4の批判的分析
仮説の検証をする
- 第8回 関連文献5の批判的分析
分析・提案の帰結を探す
- 第9回 これまでのまとめ
- 第10回 修士論文作成に向けて
アウトライン作成
- 第11回 修士論文の作成に向けて
データの観察から一般化を導く
- 第12回 修士論文の作成に向けて
一般化から仮説を立てる
- 第13回 修士論文の作成に向けて
仮説の検証をする
- 第14回 修士論文の作成に向けて
分析・提案の帰結を探す
- 第15回 修士論文の作成に向けて
プロポーザル作成

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210091G0J
授 業 名 (Course Title)	専門演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	米崎 啓和
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	必要な文献・論文等はこちらから配布 する。
参考文献 (References)	その都度通知する。
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。応用言語学・英語教育分野の中でも4技能の指導法に関して理論領域と実践領域の有機的つながりを意識することで院生各自の研究課題が修士論文へとつながることを期待したい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 研究テーマに関連する先行研究の整理と読解
2. 研究テーマの絞り込み
3. 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) の設定
4. 研究計画 (Research Proposal) の作成

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 授業方法
 - (1) 研究論文の講読・演習
 - (2) 研究テーマ・研究計画の発表とそれに対するフィードバック
2. 研究方法
 - (1) 研究テーマに関連する先行研究の整理
 - (2) 研究仮説・研究上の問いの検討
 - (3) 研究計画の作成

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

院生自らが選んだ研究論文と教員から与える文献を精読したうえで、授業に臨む。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表や討論・報告などの授業参加度 (50%)、修士論文プロポーザル (50%) に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業の進め方等の説明
- 第2回 関連テーマに関する概念的講義
- 第3回 関連テーマに関する資料の収集方法
- 第4回 関連テーマに関する資料の読解方法
- 第5回 関連テーマに関する資料の読解演習
- 第6回 関連テーマに関する資料の整理
- 第7回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第8回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
- 第9回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第10回 研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
- 第11回 研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
- 第12回 研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
- 第13回 修士論文のアウトライン
- 第14回 修士論文の研究計画の作成
- 第15回 修士論文の研究計画の見直しと修正

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

研究会・学会への積極的参加を奨励する。

講義コード (Course Code)	210091H0J
授業名 (Course Title)	専門演習 教育学・英語教育分野の実践研究論文作成基礎指導
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	東郷 多津
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	John Furlong and Alis Oancea (2005) "Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion" The Design-Based Research Collective (2003) "Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry" 教員が準備したプリント
参考文献 (References)	『ロングマン応用言語学辞典』 南雲堂 『英語教育用語辞典』 大修館 最新刊 『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』 Richards, J. and R. Schmidt Longman 2010 『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』 森住衛編さん 大修館書店 2010 『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザインー学習空間づくりの教授法と実践』 山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄 (編) 大修館書店 2010 海外学術雑誌 (Applied Linguistics, TESOL Quarterly, ELT Journal など) と国内学会紀要 (ARELE, JACET Journal, SELT など), 研究書などからの関連論考
備考 (Note)	必修

- 第12回 研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
- 第13回 修士論文の構成
- 第14回 研究計画の作成
- 第15回 修士論文の研究計画書 (Research Proposal) の作成

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

毎回与えられる課題を必ずこなして、修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。

関連学会への参加、出席を奨励する。

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR (Design-based Research) といったテーマについても指導する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
2. 研究テーマの絞り込み
3. 研究仮説 / Research Questions の設定
4. 研究計画 (Research Proposal) 作成

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 授業方法

- (1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
- (2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言

2. 研究方法

- (1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
- (2) 研究仮説の検討
- (3) 研究計画の作成

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

50時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表や報告に基づく授業参加点 (40 %) と修士論文プロポーザル (60 %) に基づき総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 関連テーマについての概論的講義
- 第2回 関連テーマについての資料の収集方法
- 第3回 関連テーマについての資料の読解方法
- 第4回 関連テーマについての資料の読解演習
- 第5回 関連テーマについての資料の読解と整理
- 第6回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第7回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
- 第8回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第9回 研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
- 第10回 研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
- 第11回 研究テーマを絞り込むための追加資料の整理

講義コード (Course Code)	21009110J
授業名 (Course Title)	専門演習 Second Language Acquisition and Language Teaching
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	York Weatherford
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	References to current research and practices will be provided.
参考文献 (References)	Weekly reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master's thesis in the area of second language learning and teaching.

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching
2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master's thesis
4. Master's thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction to Second Language Acquisition
- 第2回 Native Language Influences
- 第3回 The Linguistic Environment
- 第4回 Universal Grammar
- 第5回 Cognition
- 第6回 Intelligence and Aptitude
- 第7回 Motivation and Attitudes
- 第8回 Personality
- 第9回 Learning Styles and Strategies
- 第10回 Age and the Critical Period
- 第11回 Learner Language
- 第12回 Social Dimensions
- 第13回 Second Language Teaching
- 第14回 Teacher-Student Interactions
- 第15回 Classroom Research and Teaching

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210092N0J
授業名 (Course Title)	インターンシップ 小・中・高等学校での授業実践
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	橋堂 弘文
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

英語を教えることを実際に体験することを目的とする。大学の担当教員の指導を常にうけながら、最新の理論を実際の教育現場で生かす実習の場とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

- (1) 実習許可がおりた学校での授業を立案し実施する。
- (2) 授業記録を残し、その後に分析・反省をする。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) の目的を達成するために、定期的に指導教官のチェック、助言をうける。(2) のために、教案、教材、その都度フィールドノートなどをとり保存する。実習のまとめをポートフォリオと実施後の反省文 (あるいは短いアクションリサーチ論文) として提出する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 実習許可がおりた学校での授業を立案し実施する。(2) 授業記録を残し、その後に分析・反省をする。
- (3) の目的を達成するために、定期的に指導教官のチェック、助言をうける。(4) のために、教案、教材、その都度フィールドノートなどをとり保存する。実習のまとめをポートフォリオと実施後の反省文 (あるいは短いアクションリサーチ論文) として提出する準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

インターンシップ実施校での

1. シラバス作成：授業実施計画作成：到達目標の設定 30%
2. 指導案作成 30%
3. 授業実践 30%
4. 授業実践の授業評価 10%

5. 留意事項 (Other Information)

児童生徒という相手のいる作業であるので、体調に万全を期して決まった期間の実習が欠けることのないようにする必要がある。
※依頼先の小・中・高校の事情で実施不可能な場合もある。

講義コード (Course Code)	210101A0J～210101F0J
授業名 (Course Title)	インディペンデントスタディーズ 修士論文指導
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	8
配当学年 (Eligible Year)	M2
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書 (M1 後期提出) に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

・研究計画書 (Proposal) に従い、適切な方法論を用いて研究 (分析) を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切な Academic English による修士論文の執筆を行う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

—

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究指導教員 (主査) と 2 名の研究副指導教員 (副査) による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

講義コード (Course Code)	210232N0J
授業名 (Course Title)	第二言語習得
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	湯川 笑子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『Understanding Second Language Acquisition 2nd edition』 Lourdes, Ortega 2014 Routledge 『外国語学習の科学』 白井恭弘 岩波新書 2008
参考文献 (References)	『Introducing Second Language Acquisition』 Saville-Troike, et al. Cambridge University Press 2016 『英語学習は早いほど良いのか』 バトラー後藤裕子 岩波新書 2015 『Second language acquisition: an introductory course, Third edition』 Susan M. Gass and Larry Selinker Routledge 2008
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

第二言語習得理論の主なものを理解し、そうした知見と第二言語指導との接点についても理解し、考察できる。さらに、基礎的な第二言語習得研究の方法についても理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1) 第二言語習得理論の主なものについて理解する

2) 第二言語習得理論と実際の第二言語指導との接点について理解を深め、理論に裏付けられた第二言語指導とは何かを考察できる

3) 第二言語習得について研究する手法、データ、分析の仕方について理解する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

多くの理論が提案され、実証研究が積み重ねられている分野なので、専門用語や専門的な概念が多く出てきます。また、それを集中講義として行うため、不消化になる危険性があります。混乱を避け、効率的に全貌をつかむためには、まず、優しく書きおろされた日本語で書かれた指定の新書を自分で読み予備知識として下さい。その後で、教科書を、集中講義の 1 カ月前位からできるだけ読んでおくことをお勧めします。

授業では、テーマごとに対応する教科書の章をあらかじめ予習として読んできて臨みます。授業では不明点を解消するための追加説明、質疑応答、日本のコンテキストに当てはめてどうとらえるかの討論を行います。最終的に、自分の興味のある分野の習得研究を掘り下げるために、自分で選んだ文献を数点レビューしてもらうことを課題とします。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定した教科書の各章を事前に読んで、不明点、質問点を明らかにしてから、授業ののぞむこと

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加と討論への積極的な参加 (50%)、文献レビュー (50%) を評価の対象とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第 1 回 Introduction to the course, The role of L1 in SLA
- 第 2 回 age and SLA
- 第 3 回 crosslinguistic influences
- 第 4 回 the linguistic environment
- 第 5 回 cognition
- 第 6 回 development of learner language
- 第 7 回 foreign language aptitude
- 第 8 回 motivation and SLA
- 第 9 回 affect and individual differences
- 第 10 回 social dimensions of L2 learning
- 第 11 回 language teaching and effect studies 1
- 第 12 回 language teaching and effect studies 2
- 第 13 回 Participant's interest area and discussion
- 第 14 回 various English teaching situations in Japan and their products
- 第 15 回 Summary

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210234N0J
授業名 (Course Title)	英語教育学特論 I (Language Pedagogy)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	橋堂 弘文
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『英語教育研究入門』 大修館 『アクション・リサーチのすすめ-新しい英語授業研究-』 佐野正之 大修館 『Principles of Language Learning and Teaching』 H. Douglas Brown Prentice Hall Regents 『DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』 LONGMAN 『英語教育のフロンティア』 青木昭六 編著、橋堂 保寿出版社
参考文献 (References)	『英語教育のアクション・リサーチ』 研究社 『第二言語習得研究の現在』 小池生夫、他 大修館 『リフレクティブ・アプローチによる英語教師の養成』 金星堂 『はじめてのアクションリサーチ』 佐野正之 大修館 各分野の文献リストを配布するので、各自の研究の際、利用して欲しい。 ① TESOL Quarterly, Applied Linguistics, Language Learning 等の専門誌 ② ロングマン応用言語学辞典 (南雲堂) ③ 英語教育用語辞典 (大修館)
備考 (Note)	隔年開講2

- 第6回 統計的考え方の基礎
第7回 統計的仮説の検定と推定
第8回 実証的研究の手順
第9回 実験研究の種類と調査の進め方
第10回 研究論文の読み方
第11回 母語の習得: Principles of Language Learning and Teaching
第12回 第二言語習得: Principles of Language Learning and Teaching
第13回 中間言語: Principles of Language Learning and Teaching
第14回 学習者要因: Principles of Language Learning and Teaching
第15回 まとめと振り返り

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

演習のテーマに関連する以下の研究会/学会への参加を奨励する。
文部省研究指定校: 「小学校における教科としての英語教育」指導実施実験校、英語授業の実践に関連する研究会、学会 (日本児童英語教育学会 (JASTEC)、英語授業研究学会等) への参加と、小学校の英語活動・外国語活動を目指すものは、学部のスクールインターシップを伴う「英語教材作成演習」の履修を推奨する。

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本特論では、"Principles of Language Learning and Teaching" H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎を学んだ後、児童/生徒に合わせた個別対応型教育の為に生まれた授業研究法 (アクション・リサーチ) 等も学びたい。また学んだ理論を教育現場にどう生かすかについて、中・高校における英語教育の実践例をもとに、演習形式で考察したい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

特に最終段階では、英語教育関連のレポートか、小・中・高校における英語教育の事例や各自の課題等を、量的に、質的に、あるいはアクション・リサーチの手法を用いて、どう教育実践の改善に応用するかを考察したい。以下のテキストは、皆で読み進めたい。

- ① 「英語教育研究入門」 (大修館)
- ② 「アクション・リサーチのすすめ -新しい英語授業研究-」 佐野正之 (大修館)
- ③ 「Principles of Language Learning and Teaching」 H. Douglas Brown (Prentice Hall Regents)

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本特論では、"Principles of Language Learning and Teaching" H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎を学び、それを基礎に、量的研究、質的研究、授業研究法 (アクション・リサーチ) についての基本的な調査・研究の方法論の紹介を、参加者の発表形式で文献研究していく。その中で教育実践への応用を考えたい。必要な資料は、原則的にプリントして配付する。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
基本文献を読み進めながら、参加者による発表形式で議論考察するので、その準備を整える。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- 課題発表、レポート: 70%
- 授業中の積極的態度など: 30%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 英語教育学を基礎に、それを教育実践の改善にいかに応用するか考察とオリエンテーション
- 第2回 基礎理論の概論
- 第3回 英語教育学の基礎
- 第4回 量的・質的研究
- 第5回 マスタリーラーニングとアクションリサーチ

講義コード (Course Code)	210236N0J
授業名 (Course Title)	英語教育学特論Ⅲ (Classroom Research) 「よい英語授業」を実現する
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	東郷 多津
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	必要に応じて随時指定する、または、プリントを配布する。
参考文献 (References)	学習開発研究所「『教える』から『学ぶ』への変革：学習投資への道 学習開発シリーズ」[Kindle版], 2014 金田道和編『英語の授業分析』大修館書店, 1986. 高梨庸雄『英語の「授業力」を高めるために』三省堂, 2005. Lynch, T. Communication in the Language Classroom. Oxford U.P. 1996. Tajino, A, Stewart, T, Dalsky, D (ed.) Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. Routledge.2015
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

よい授業とはどのような授業なのであろうか。常識的には、生徒の成績が上がった授業、生徒に英語を好きにさせるような授業、英語のコミュニケーション能力が養成された授業などは、「よい授業」と言えそうである。もっと一般的な観点からは、設定されている教育目標が達成されたなら、それは間違いなく「よい授業」と言えよう。それでもなお、「よい授業」をよくしている要素は何かと問うと、答えは簡単ではない。別の角度から言えば、誰にとって、「よい授業」なのか？という問いも立つだろう。授業の主体は教師なのか、生徒なのか。主体が違えば、授業設計そのものにも影響することを意識する必要がある。

さらに、授業は1回50分のみで存在するものではなく、15回なり1学期という時間の幅に連続して行われるものであり、授業評価はそのような連続体としてなされるべきで、1回の授業のみを分析単位にしては片手落ちであろう。

このように、授業の分析や評価は決して単純で容易ではないが、本科目では、これまで蓄積されてきた授業分析研究の成果を踏まえながら、「よい授業とは？」への回答を追求してみたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 授業分析についての主たる先行研究の検討
2. 外国語教育の授業分析の視点と方法についての考察
3. 授業分析結果を授業改善へと繋げる方途の検討

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 授業方法

- (1) テキストを中心とした主要文献の講読と演習
- (2) 実際の授業（またはビデオ）の視聴と分析方法についての演習

2. 研究方法

- (1) 授業分析関係の文献の読解
- (2) 授業分析方法の習得
- (3) 授業分析結果の授業改善・改革への応用

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

課題がある場合は、授業前に必ず文献を読んで授業に臨むこと。また、授業内に質問やディスカッションができるよう、あらかじめ、関連する情報について調べておくこと。

必要であれば、指定箇所以外の箇所も積極的に取り組む姿勢が求められる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
25時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (授業時の担当) 50% と最終レポート (授業分析演習のまとめ) 50% により、総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 英語授業分析イントロ
- 第2回 授業分析の視点
- 第3回 先行授業分析方法評価 (1) 『『教える』から『学ぶ』への変革：学習投資への道 学習開発シリーズ』
- 第4回 先行授業分析方法評価 (2) 『英語の授業分析』

第5回 先行授業分析方法評価 (3) 『Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT』

第6回 授業観察 (1)

第7回 授業中のInteraction分析 (1)

第8回 授業中のInteraction分析 (2)

第9回 授業中のInteraction分析 (3)

第10回 授業観察 (2)

第11回 授業研究の手順

第12回 事例研究：観察と評価 (1)

第13回 事例研究：観察と評価 (2)

第14回 事例研究：観察と評価 (3)

第15回 授業研究まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の経験やニーズにより、進度、内容の優先度および順番が換わる可能性がある。

講義コード (Course Code)	210237N0J
授業名 (Course Title)	英語教育学特論Ⅳ (Curriculum Design) カリキュラム設計概論とケーススタディ
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	高橋 幸
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	Nation, J. S. P., & Macalister, J. (2010). Language Curriculum Design. New York: Routledge. (ISBN: 9780415806060) を主に使用する。 必要に応じて、別途資料を配布する。
参考文献 (References)	『How Languages Are Learned.』 Lightbown, P. M., & Spada, N. Oxford University Press 2013 『インストラクショナルデザインの原理』 R. M. ガニエ, K. C. ゴラス, W. W. ウエイジャー, J. M. ケラー 北大路書房 2007 『<改訂版>新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 望月昭彦・磐崎弘貞・卯城祐司・久保田章 大修館 2010
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

近年、教育改善を目的としたカリキュラム改革が様々なレベルや規模で実施されている。本科目では、外国語教育におけるカリキュラム開発に関する基本的な知識や理論的背景などについて学ぶ。また、小学校、中学校、高等学校、大学における特色ある英語教育カリキュラムの事例を取り上げて、学習指導要領や中教審答申などとも照らし合わせながら、理論的・実践的視点から分析することができる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・カリキュラム開発の理論的背景
- ・カリキュラム開発の方法
- ・カリキュラム開発の原理
- ・環境分析・ニーズ分析
- ・シラバス
- ・学習目標
- ・授業運営
- ・タスク、教材
- ・評価
- ・ケーススタディ

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

前半部分では、テキストの精読を行う。履修者には、テキストの要約をしてもらう発表を課す。授業では、その内容について全員でディスカッションを行う。

後半部分では、特色あるカリキュラムの事例を取り上げ、全員でディスカッションを行う。事例研究については、一部受講者に発表を行ってもらう。

最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業前にテキストの指定された箇所や配布資料を読み、問題点や不明な点を明らかにした上で授業に臨むこと。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
35時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への取り組み状況 (議論への積極的な参加など) (40%)、テキストの要約発表 (30%)、事例研究発表 (30%) に基づいて、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業に関する概要
カリキュラム開発における最近の動向
- 第2回 外国語教育におけるカリキュラム開発の基本的知識 (テキスト Ch. 1)
- 第3回 環境分析 (テキスト Ch. 2)
- 第4回 ニーズ分析 (テキスト Ch. 3)
- 第5回 カリキュラム開発の原理 (1) (テキスト Ch. 4)
- 第6回 カリキュラム開発の原理 (2) (テキスト Ch. 4)
- 第7回 学習目標、学習内容、学習の流れ (テキスト Ch. 5)
- 第8回 タスク、教材 (テキスト Ch. 6)
- 第9回 評価 (1) (テキスト Ch. 7)

- 第10回 評価 (2) (テキスト Ch. 8)
- 第11回 シラバス (テキスト Ch. 10)
- 第12回 事例研究：小学校英語教育カリキュラム
- 第13回 事例研究：中学校英語教育カリキュラム
- 第14回 事例研究：高等学校英語教育カリキュラム
- 第15回 事例研究：大学英語教育カリキュラム
総括とフィードバック

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

履修者数や理解の程度を踏まえて、履修者と相談の上、授業予定を変更することがある。

講義コード (Course Code)	210238N0J
授 業 名 (Course Title)	早期英語教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	湯川 笑子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『新しい教職教育講座教科教育編第10巻 外国語教育』 湯川笑子 (編著) ミネルヴァ書房 2018 『Children learning second languages』 Annamaria Pinter Palgrave Macmillan 2011
参考文献 (References)	『Learning foreign languages in primary school』 research insights 2017 『日本の小学校英語をを考える』 バトラー後藤裕子 三省堂 2005 『英語学習は早いほど良いのか』 バトラー後藤裕子 岩波新書 2015 『小学校英語教育学会紀要』 小学校英語教育学会 『児童英語教育学会紀要』 児童英語教育学会
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目では、小学生を対象とした英語教育に直接、間接にたずさわることを希望する人が、こどもの外国語習得のメカニズムを知り、それにあった授業のあり方をさぐり、現在の日本の小学校英語および英語教育における小中連携の改善のために何らかの研究をするノウハウを身につけることを目的とする。学生は、子どもの外国語習得および教授法の理論について簡単に学んだあと、現在日本内外で行われている様々なタイプの英語授業についてビデオを見、その特色(シラバス、指導理念、教授法、評価)について学ぶ。さらに、小学生を対象とした英語教育のための教材、カリキュラム、指導法、もしくは、小中連携の英語教育について何らかの観点で研究を行うノウハウを経験する。混沌とした現在の小学校英語教育現場というフィールドを前に進めるために、大学院教育をうけた英語教育のプロとして、責任の一端をになえる人材の養成を目的とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

外国語習得のメカニズムを知り、その中で年少者独特の特徴を中学生以上との比較の上で把握する。
小学生の特性にあった英語授業のあり方を知る。

現在の日本の小学校英語の実態を知る。

現在の日本の小学校英語教育と小中連携の改善のために、何らかの研究をするノウハウを身につける。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

教科書の指定された箇所は必ず読んでから授業に臨むこと

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

少しずつ、指定の箇所を読むようにし、中間テストやコースプロジェクトについて長期的な視野をもって取り組むこと

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加と討論 20%

中間テスト40%

課題研究の発表および提出論文 40%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション、受講者の知識、問題意識、学習指導要領、これまでの経過、海外事情
- 第2回 年齢と言語習得、英語教育、日本の英語活動授業概要(言語材料)
- 第3回 年少者の言語教育、日本の英語活動授業概要(教授法)
- 第4回 評価、英語授業成果、小中連携、影響を与える変数
- 第5回 小学生の言語習得 まとめ、日本の小学校英語教育への見方-鳥瞰図
- 第6回 日本の小学校外国語教育政策、今の小学校英語の教え方の実際について総合理解 ((ディベート))
- 第7回 中間テストと重要事項の確認
- 第8回 リサーチとは何か-種類、研究と報告に必要な事項
- 第9回 小学校英語教育に関する研究(量的研究)
- 第10回 小学校英語教育に関する研究(質的研究)
- 第11回 小学校英語教育に関する研究(アクションリサーチ)
- 第12回 コースプロジェクト案相談
- 第13回 コースプロジェクト発表と討論(第1次案の検討)
- 第14回 コースプロジェクト発表と討論(第2次案の検討)
- 第15回 コースプロジェクト発表と討論(最終案の検討)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210243N0J
授 業 名 (Course Title)	英米文学作品研究 C 19世紀アメリカ文学
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	大川 淳
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	配布プリント
参考文献 (References)	Melville, Herman. The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860. Ed. Harrison Hayford, Alma A. MacDougall, and G. Thomas Tanselle. Evanston: Northwestern UP and The Newberry Library, 1987.
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

Herman Melvilleの作品を読み、文学における英語表現を正確に精読し、考察することを目標とする。アメリカン・ルネッサンス期の時代背景やMelvilleの伝記的背景を理解し、批評する能力を涵養することも目的とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

難解なMelville文学を読むにあたって、一語一句分析する姿勢を身につける必要がある。

また、文学批評を行うにあたって、作品の先行研究などを渉猟することも求められる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・テキストの精読(辞書を引き、表面的な意味にとらわれず多角的な視点から読むこと)

・テキスト分析(受動的に読むのではなく、能動的にテキストに意味を見出すこと)

・リサーチ(先行研究を把握すること)

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

準備学習としてテキストの精読を求める。その際、不明な箇所や、解釈に関するコメントを事前に明確にしておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 40% (準備学習および授業でのコメントの評価)

レポート 60%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーションおよびMelville文学について
- 第2回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (p.174-177 第2段落)
- 第3回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.180 第3段落)
- 第4回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.183 第1段落)
- 第5回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.186 第1段落)
- 第6回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.187)
- 第7回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (p.378~p.381 第1段落)
- 第8回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.383 第2段落)
- 第9回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.385)
- 第10回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.388 第1段落)
- 第11回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.390 第2段落)
- 第12回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.392)
- 第13回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.394)
- 第14回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.396)
- 第15回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.397)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	210244N0J
授業名 (Course Title)	英米文学作品研究 d 小説読解基礎演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	若島 正
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『The Art of Fiction』 David Lodge Vintage Books 2011
参考文献 (References)	授業中に適宜配布します。
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

小説を研究するうえで基礎的な知識を身につけるための授業です。テキストで解説されている事項や作品例を正しく理解するとともに、その知識を他の作品を読むときに応用するトレーニングを積みこむことで、Readingのスキルを向上させることを目標とします。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

学んだ知識は、それを自分で使ってみることで、初めて生きた知識になります。小説を読むための知識を、そのような生きた知識に変えるには、多くの小説に接すること、そして問題意識を持って考えながら読むことが必要です。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

授業は、1つのテーマ（テキストでは1章分）について、著者が解説している事項や作品例を理解するための回と、それを他の作品に応用してみる回との、2回分でセットになっています。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で扱われる章を必ず事前に読んでくること。応用篇では、他の作品例を自分で探してくること。その際に、その作品からの引用と、それに対するコメントを、A4で1-2枚にまとめて準備してくること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の提出課題を含む平常点100%で評価します。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODククション (授業の概要を説明します)
- 第2回 Point of View (テキストの第6章)
- 第3回 Point of View 応用篇
- 第4回 The Stream of Consciousness (テキストの第9章)
- 第5回 The Stream of Consciousness 応用篇
- 第6回 Defamiliarization (テキストの第11章)
- 第7回 Defamiliarization 応用篇
- 第8回 Time-Shift (テキストの第16章)
- 第9回 Time-Shift 応用篇
- 第10回 Intertextuality (テキストの第21章)
- 第11回 Intertextuality 応用篇
- 第12回 The Unreliable Narrator (テキストの第34章)
- 第13回 The Unreliable Narrator 応用篇
- 第14回 Metafiction (テキストの第46章)
- 第15回 Metafiction 応用篇

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

特になし。

講義コード (Course Code)	210246N0J
授業名 (Course Title)	映像芸術
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリント
参考文献 (References)	『Ulysses』 James Joyce The Bodley Head 2001 『Joyce Annotated』 Don Gifford U. California Press 1982 『Engendered Trope in Joyce's Dubliners』 Earl G. Ingersoll South Illinois Univ. Press 1996 『Dubliners' Dozen』 Gerald Doterty F. Dickinson Press 2004
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

英語圏の映画を取り上げ、聴解力を高めるなど英語運用力の養成を図ると同時に映画と文学との関係に注目し研究を行いたい。誕生からわずか一世紀にして人間文化の優れた表現を実現するに至った映画の中でも名作として歴史に名を留める小説の脚色をもとに作られた作品を取り上げ、原作となった小説の正確な読解を基礎に原作と映画との比較を行い、文学的表現と映像表現との関係の研究を目指したい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 映画という映像メディアの把握
- (2) 原作を読む英語力の育成
- (3) 文学作品を読み解く能力の養成
- (4) クリティシズムの扱い方

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 原作を読んでから映画を観る
- (2) 積極的授業の参加を求める
- (3) 発表、レポートあり

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 原作の精読
- (2) アノテーションやグローサリー等での学習
- (3) 発表原稿の作成
- (4) レポート執筆

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%) で総合的に判断する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 『ダブリン市民』"Araby"を読む
- 第3回 "Araby"の映像を観て比較研究
- 第4回 "A Painful Case"の前半3分の1を読む
- 第5回 "A Painful Case"の3分の2まで読む
- 第6回 "A Painful Case"の後半3分の1を読む
- 第7回 "A Painful Case"の映画を見て比較研究
- 第8回 ジョイスと初期映画
- 第9回 ジョイスとエイゼンシュタイン
- 第10回 マックス・ランダー、アンドラ・ディード、チャップリン
- 第11回 A Handful of Dustを観る
- 第12回 イヴリン・ウォーの作品研究
- 第13回 文学と映画学を考える
- 第14回 クリティシズムを読む
- 第15回 まとめ等

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

学生の研究分野やレベルによって中身の変更がある。

講義コード (Course Code)	210251N0J
授業名 (Course Title)	日英語比較分析 a 意味と統語の世界
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三原 健一
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	ハンドアウト (プリント) を配布し ます。
参考文献 (References)	授業中に適宜紹介します。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

現代言語学の考え方を背景とした、意味論 (Semantics) と統語論 (Syntax) の基礎概念とその応用について、英語教育 (や日本語教育) に役立つ言語観を身に付けることを目標とします。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

授業では、まず、(1) 意味の捉え方に関する幾つかの考え方を学び、(2) 意味と統語のインターフェイスの問題を見た後、(3) 言語の統語構造に話を進めます。言語のその他の側面 (音声、語彙、談話など) についても、ハンドアウトの<Coffee Break>のコーナーで取り上げます。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎し、Active Learningの観点からの成果を期待しています。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

ハンドアウト (プリント) は、第一回目の授業の後に全15回分を配布しますので、次回の授業分に目を通し、不明な箇所や興味のあるトピックについて、予め考えてきて下さい。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の質疑応答とセメスター末のレポートで評価します。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 言語の地平へ: Introduction
- 第2回 意味の捉え方 (1): 文の意味とは何だろうか?
- 第3回 意味の捉え方 (2): 語を作り上げる成分
- 第4回 意味の捉え方 (3): 日本語学と文法
- 第5回 見えないものを見る言語表現
- 第6回 比喩から見る世界の姿
- 第7回 学校文法と理論文法
- 第8回 意味と構造のインターフェイス (1): 主要部
- 第9回 意味と構造のインターフェイス (2): 意味役割
- 第10回 動詞から見る日本語と英語 (1): 動詞分類とアスペクト
- 第11回 動詞から見る日本語と英語 (2): 移動表現を巡って
- 第12回 動詞から見る日本語と英語 (3): 二重目的語構文
- 第13回 動詞から見る日本語と英語 (4): 結果構文
- 第14回 活用を考える
- 第15回 科学的な言語研究: 総括

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

現代言語学に関する基礎知識はとりあえず必要ありません。受講生の履修レベルを勘案して授業内容を調整します。

講義コード (Course Code)	210252N0J
授業名 (Course Title)	日英語比較分析 b
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	杉村 美奈
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	Embick, David & Rolf Noyer. 2007. Distributed Morphology and the Syntax/Morphology Interface, in G. Ramchand & C. Reiss (eds.) The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces. Oxford University Press. Part II, Chapter 9. pp. 289-324. Harley, Heidi & Rolf Noyer. 1999. State-of-the-Article: Distributed Morphology. Glot International, Volume 4, Issue 4. pp 3-9. Harley Heidi. 2008. On the Causative Construction, in S. Miyagawa & M. Saito (eds.) The Oxford Handbook of Japanese Linguistics. Oxford University Press. Chapter 2. pp. 20-53. Harley Heidi. 2005. One-replacement, unaccusativity, acategorical roots and Bare Phrase Structure, in Harvard Working Papers on Linguistics 11, pp. 59-78.
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語と英語との二言語間に見られる差異/類似点を探り、それらの言語現象に対する理論的説明を試みる。理論的枠組みは生成文法理論における分散形態論 (Distributed Morphology) を前提とし、統語論と形態論のインターフェイス現象に焦点をあて、様々な言語現象を扱っていく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 言語現象を観察、分析し、一般化を導く。
2. 導いた一般化を元に仮説を立てる。
3. 更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
4. 分析から更なる帰結を導きだす。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

リーディングは適宜指示する。分散形態論を理論的枠組みとした日英語の言語現象を扱った論文を読み、言語データと先行研究の整理をまず行う。

次に、先行研究で提示されている分析についての検証を行い、データ及び理論的不備の有無について慎重に観察する。最終的には、理論的不備の修正及び新たなデータを提示し、そこから新たな理論的帰結を導く。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業時まで与えられたリーディングアサインメントを必ず読み、内容を理解した上で、新たな疑問点を明らかにしていただくことを準備学習とする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Participation (presentation, discussion, comments) : 30 %

Assignments (problem sets, exercises) 30 %

Critical Paper 40%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 The Goal of Theoretical Linguistics
Architecture of Grammar: Lexicon, Syntax, Phonological Form (PF) & Logical Form (LF)
- 第2回 Framework Introduction: Distributed Morphology 1
Development of the Architecture of Grammar
- 第3回 Framework Introduction: Distributed Morphology 2
Vocabulary Insertion
- 第4回 Framework Introduction: Distributed Morphology 3
Vocabulary Insertion and Word-internal Domains
- 第5回 Operations in Distributed Morphology 1
Operations after Syntax
- 第6回 Operations in Distributed Morphology 2
Morphological Merger
- 第7回 Operations in Distributed Morphology 3
Lowering and Local Dislocation

第8回	Interim Summary
第9回	Case Studies 1 Japanese Causatives: Syntactic Causatives and Lexical Causatives
第10回	Case Studies 1 Japanese Causatives: Syntax-Morphology Mismatches
第11回	Case Studies 1 Japanese Causatives: DM Approach to Japanese Causatives
第12回	Case Studies 2 English One-Substitution: Basic Facts on One-Substitution
第13回	Case Studies 2 English One-Substitution: The Unaccusative Hypothesis
第14回	Case Studies 2 English One-Substitution: DM Approach to One-Substitution
第15回	Summary

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論と形態論の基礎的な知識については必須とする。

授業で扱うリーディングは全て英語で書かれたものを読み進める。

講義コード (Course Code)	210253N0J
授業名 (Course Title)	言語コミュニケーション Pragmatics & Message Effects
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小山 哲春
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『The Oxford Handbook of Pragmatics』 Huang, Y. (Ed.) Oxford U.P. 2017 『Pragmatics: A Multidisciplinary Perspective』 Cummings, Louise Edinburgh U.P. 2005 『Origins of Human Communication』 Tomasello, Michael A Bradford Book 2010
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本講義の目標は、言語による発話意図伝達の仕組みを理論的に理解し、実際に言語データを分析する手法を習得することである。具体的な目的は以下の2点：

- (1) 語用論 (Pragmatics) のうち特に会話の含意／推論を扱った諸理論を理解し、これらを用いて言語現象の分析を行う技術を習得すること
- (2) 言語メッセージが持つ対人効果を検証する研究方法論 (実験デザインと計測法) を習得すること

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 会話における Non-Literal / Non-Direct な意味とその伝達に関する理論的モデルの批判的概観
- (2) 具体的な言語データ分析手法の習得
- (3) 言語メッセージの対人的影響計測方法の習得
- (4) 実験デザインの理解と遂行技術の獲得

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 本科目は主に講義及びディスカッションで構成され、それぞれ事前に課されるリーディングを基に行われる。
- (2) 授業内または外の課題として実際に言語データを分析する演習を行い、理論的な理解の確認と増強を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に課される Reading Materials を批判的に読んだ上で講義、ディスカッションに望むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 授業内演習 (ディスカッション、データ分析演習、他) : 30%
- (2) 理論に関するプレゼンテーション (2回) : 30%
- (3) Final Paper : 40%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Origins and Domains of Pragmatics
- 第2回 Presupposition and Entailment
- 第3回 Speech Act Theory
- 第4回 Literal, Non-Literal, Direct, and Indirect Meanings
- 第5回 Conversational Implicature (1) : Gricean Theory
- 第6回 Conversational Implicature (2) : Neo-Gricean Theory
- 第7回 Conversational Implicature (3) : Relevance Theory
- 第8回 Conversational Implicature (4) : Socio-Cognitive Model
- 第9回 Facework & Politeness
- 第10回 Cross-cultural Pragmatics
- 第11回 Utterance Meaning & Message Effect
- 第12回 Message Effect Research Methods (1) : Design
- 第13回 Message Effect Research Methods (2) : Measurement
- 第14回 Message Effect Research Methods (3) : Reporting the Results
- 第15回 Review & Presentation of a Mini Research Project

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260010N0J
授業名 (Course Title)	研究方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	竹原 広実. 青木 加奈子. 石井 浩子. 植田 恵理子. 牛田 好美. 加藤 佐千子. 酒井 久美子. 佐藤 純. 中村 久美. 萩原 暢子. 畠山 寛. 藤原 智子. 三好 明夫. 矢島 雅子. 安川 涼子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	各回授業で適宜資料を配布する
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉など生活関連領域における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。これらの領域において用いられる代表的な研究手法について、前半は各手法を常用する教員から講義を受ける。後半は実際に行われた研究事例を取り上げ、より実践的に研究手法を体験し学ぶ機会を提供する。以上を通じて研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉の領域における研究手法について理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

複数教員によるオムニバス形式で行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回でとりあげる研究動向、研究手法について、事前に図書館の文献などで予習し知識を持っておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加度を軸とし講義担当教員が評価する

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回	オリエンテーション	竹原	
第2回	量的研究法	加藤	
第3回	質的研究法	佐藤	
第4回	関連分野における研究動向・研究方法論	藤原	
第5回	関連分野における研究動向・研究方法論	中村	
第6回	関連分野における研究動向・研究方法論	牛田	
第7回	関連分野における研究動向・研究方法論	三好	
第8回	関連分野における研究動向・研究方法論	石井	

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260011N0J
授業名 (Course Title)	生活文化学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中村 久美. 牛田 好美. 藤原 智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	適宜、授業で資料等、配布する。
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活に関わる文化をヒトとモノ、コトとの相互関係の構築ととらえ、それを歴史や風土、社会的背景の追求から解明することで、よりよい人間の生活のあり方を考えていくものである。本特論ではこの生活文化の諸相を衣生活、食生活、住生活の各側面から明らかにする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・洋服が日本に導入されて以降の、衣文化について考察する。(牛田)

・米をテーマに日本型食生活と食文化について考察する。(藤原)

・生活の諸相を文化的視点からみること、その意義を理解する。(中村)

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・ゼミ形式で、資料をもとに課題を設定し議論をする。(牛田)

・主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行う。(藤原)

・ゼミ形式でテーマにそって資料を読み解きながら議論をする。(中村)

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前配布の資料や文献指定ページなどには必ず目を通すこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

・授業参加度 (50%)、レポート (50%) に基づいて総合的に行う。(牛田)

・授業参加度 (40%)、レポート (60%) に基づいて総合的に行う(藤原)

・議論への参加の様子 (50%)、レポート (50%) に基づいて総合的に行う (中村)

・担当教員3名の評価の平均によって決定する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回	衣からみた生活文化論	牛田
第2回	衣における日本文化と西洋文化の比較	牛田
第3回	20世紀の日本のファッション史	牛田
第4回	制服と日本文化	牛田
第5回	コスプレと日本文化	牛田
第6回	食からみた生活文化論	藤原
第7回	米の歴史	藤原
第8回	米の栄養と調理性	藤原
第9回	飯と食文化	藤原
第10回	酒と食文化	藤原
第11回	住からみた生活文化論	中村
第12回	風土性から読み解く空間論、建築論	中村
第13回	歴史性から読み解く空間論、建築論	中村
第14回	日本の風土と生活様式、住様式	中村
第15回	文化的視点からみた生活様式、住様式	中村

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260033N0J
授業名 (Course Title)	食品学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	高村 仁知
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	なし
参考文献 (References)	学部生の時に用いた「食品学」に関する教科書を持参のこと。日本食品標準成分表2015も持参すること。
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

食に関するさまざまな話題に関して、調査、討議することで食品に関する造詣を深める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

食品成分と食品分析、食品表示と法律、機能性食品、各種食品の性質、食品加工

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各回の話題についてあらかじめ調査し、発表・討議することで理解を深める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回の話題について書籍やインターネット等であらかじめ調査する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

口頭発表および授業への参加度100%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 はじめに
- 第2回 食品成分表
- 第3回 食品の分析
- 第4回 食品表示法
- 第5回 食品表示基準
- 第6回 栄養機能食品
- 第7回 特定保健用食品と機能性表示食品
- 第8回 植物性食品の性質
- 第9回 動物性食品の性質
- 第10回 食品の冷蔵・冷凍
- 第11回 食品と酵素
- 第12回 食品の包装
- 第13回 食品と添加物
- 第14回 食品と放射線
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260038N0J
授業名 (Course Title)	衣生活学特論 人はなぜ装うのか
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	牛田 好美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

装いの身体的・生理的機能と社会的・心理的機能の両面から考え、心身の健康や快適性を追求し、現代の衣生活への具体的な提案を行う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1. 人はなぜ装うのか
- 2. 環境と装い
- 3. ファッションの変遷
- 4. 装いと健康
- 5. 身体と装い

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主に講義形式で行うが、時には、演習・実習的授業も行う。必要に応じて、資料を配布する。また、テーマにより発表、ディスカッションの時期も設ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日常の生活の中で、被服や化粧の働きを意識すること。また、日常生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつけること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度30%、授業時の課題20%、レポート50%で総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人はなぜ装うのか
- 第3回 環境と装い① 気候風土と装い
- 第4回 環境と装い② 民族服
- 第5回 ファッションの変遷① 西洋
- 第6回 ファッションの変遷② 日本
- 第7回 身体と衣服 平面構成と立体構成
- 第8回 装いと健康① 健康と快適性
- 第9回 装いと健康② ボディイメージ
- 第10回 装いの機能① 身体的・生理的機能
- 第11回 装いの機能② 社会的・心理的機能
- 第12回 装いが自己に与える影響
- 第13回 装いが他者に与える影響
- 第14回 ユニバーサルデザイン提案
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260056N0J
授業名 (Course Title)	ソーシャルワーク特論 ソーシャルワークの基盤・現状・課題 とその展望
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	桐野 由美子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	テキストは特になし。資料を随時配布する。
参考文献 (References)	授業時に適宜提示する。
備考 (Note)	隔年開講2

展望

第13回 障害者福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望

第14回 各学生が提出したレポートに基づく発表とディスカッション

第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本特論ではまず、ソーシャルワーク全般の構成要素・実践過程・目標・価値・倫理に関する普遍性および現在にいたるまでの歴史的展開を検討する。第2に、ミクロ（直接援助）・メゾ・マクロ（間接援助）の各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践の役割に関する特性をみる。第3に、児童家庭・精神保健・学校ソーシャルワーク・高齢者福祉等の現場における現在の課題を提示し、今後の展望を検討する。本科目の具体的目標は、学生が（1）ソーシャルワークの歴史的展開を把握できること、（2）ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるジェネラリスト・ソーシャルワーク実践を理解できること、（3）現場での課題に自ら向かい、解決策を検討する力を持つことにある。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) ソーシャルワークの理論及び実践の歴史的展開を理解する
- (2) ソーシャルワークの構成要素・実践課程・目標を理解する
- (3) ソーシャルワークの価値と倫理を習得する
- (4) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践を習得する
- (5) 分野別ソーシャルワーク実践におけるソーシャルワークの課題と展望を検討する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義と演習を組み合わせた形式で授業を進める。視聴覚教材を適宜活用する。参考文献（邦文と英文）をクラスで読み、議論する。議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として事前に配布する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ①各テーマの参考文献は前もって配布されるので、学生は授業予定に従って予習を行い、授業でのディスカッションに備えておく。
- ②授業に平行して、担当教員と相談しながら、自分で選んだレベル（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるソーシャルワーク実践の役割に関するテーマにそって、最終ペーパーの用意を主体的に行う。

・準備学習に必要な標準時間数（合計）(Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

本科目では、授業出席状況（30%）、授業中のディスカッション参加状況（30%）、最終ペーパー（40%）を総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワークの理論及び実践の歴史的展開
- 第3回 ソーシャルワークの構成要素・実践過程・目標
- 第4回 ソーシャルワークの価値と倫理に関する現場でのジレンマ
- 第5回 個人・家族・小集団を対象とするミクロレベルのソーシャルワーク・メソッド
- 第6回 地域と社会福祉サービス提供機関において行われるメゾレベルのソーシャルワーク・メソッド
- 第7回 自治体及び国の政策立案・実施と評価・社会サービスの管理・運営を行うマクロレベルのソーシャルワーク・メソッド
- 第8回 児童家庭分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
- 第9回 精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
- 第10回 スクールソーシャルワーク分野の実践における課題と展望
- 第11回 医療福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と展望
- 第12回 高齢者福祉分野のソーシャルワーク実践における課題と

講義コード (Course Code)	260057N0J
授業名 (Course Title)	ソーシャルワークスーパービジョン特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小山 隆
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	利用しない。
参考文献 (References)	必要に応じて授業中に指示する。
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

大学院の科目は毎年受講生数、各自の背景となる学部教育、経歴などの差が大きいため、固定的カリキュラムが効果的とは限らないというのが、本講義の担当者の思いである。したがって、基本的には受講生の関心や現時点でもつ専門的知識などに応じて、授業開始時に具体的なカリキュラムを策定していきたいと思う。上記のような理由で、その内容は一部変更されうるが、担当者としては以下のような目標をもっている。

1. ソーシャルワークを医療や司法、教育などと並ぶ対人援助専門職の一環として解する。
2. ソーシャルワークを社会福祉学全体の中に位置づける。
3. 対人援助におけるスーパービジョンの意味を学ぶ。
4. 事例研究を通してスーパービジョン、コンサルテーションを体験する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 対人援助専門職の共通性と個性
- (2) 援助関係において留意すべきこと
- (3) ソーシャルワークの価値と倫理
- (4) スーパービジョンの意義
- (5) 事例研究を通してのケースの見方、スーパービジョン体験

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 授業方法：講義と演習を組み合わせた形式で授業を進める。
- (2) 教材：議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として配布する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
演習については各自に、事例等の課題を与えて発表に備えることを求める。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の議論への参加度や発表の内容 (60%) と、適宜課すレポート (40%) を総合評価する。

フィードバックについては、授業時に行う。又必要に応じて公開する担当者のメールアドレスを用いる。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ソーシャルワークと社会福祉
- 第3回 ソーシャルワークと対人援助
- 第4回 専門職の固有性と共通性
- 第5回 ソーシャルワークの価値と倫理
- 第6回 スーパービジョンとソーシャルワークの原則－関連性と相違点－
- 第7回 スーパービジョンとソーシャルワーク
- 第8回 スーパービジョンとコンサルテーション
- 第9回 スーパービジョンの定義
- 第10回 スーパービジョンのタイプ
- 第11回 事例研究 (児童)
- 第12回 事例研究 (障害)
- 第13回 事例研究 (高齢)
- 第14回 事例研究 (在宅)
- 第15回 総括

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業予定はあくまでも仮である。受講生人数や受講生の実践経験の有無等によって、内容は変わってくる。受講生と話し合って詳細は決定する。

講義コード (Course Code)	260113N0J
授業名 (Course Title)	健康栄養学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中田 理恵子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で指示する。
参考文献 (References)	授業内で指示する。
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本における国民の健康・栄養状態の現状と食生活の関わりを理解したうえで、栄養素の種類とその生理機能・代謝について学び、健康の維持・増進や疾病予防における食事からの栄養素摂取の重要性について理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・食品中に含まれる栄養素の種類とその機能を理解する。
- ・食品中の栄養素がどのように体内に取り込まれ機能を発揮するか理解する。
- ・食による健康維持増進について考える。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

教育・学習の方法：講義

最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教科書の指定箇所を読んでおく。

復習で疑問に思ったことは、次回授業時に質問する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
5時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%) と小テスト・レポート (50%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 食生活と健康：日本における国民の健康・栄養状態の現状と食生活の関わり
- 第2回 栄養素の消化と吸収：摂取した栄養素がどのように体内に取り込まれるか。消化に関わる臓器の構造。
- 第3回 炭水化物の栄養 (1)：炭水化物の種類と機能
- 第4回 炭水化物の栄養 (2)：炭水化物の消化吸収、体内動態と健康維持
- 第5回 脂質の栄養 (1)：脂質の種類と機能
- 第6回 脂質の栄養 (2)：脂質の消化吸収、体内動態と健康維持
- 第7回 タンパク質の栄養 (1)：タンパク質の種類と機能、および消化吸収
- 第8回 タンパク質の栄養 (2)：タンパク質の栄養価と健康維持
- 第9回 ビタミンの栄養 (1)：脂溶性ビタミンの種類と機能
- 第10回 ビタミンの栄養 (2)：水溶性ビタミンの種類と機能
- 第11回 ミネラルの栄養 (1)：多量ミネラルの種類と機能
- 第12回 ミネラルの栄養 (2)：微量ミネラルの種類と機能
- 第13回 水分代謝：体内の水分の機能
- 第14回 食品機能性成分：機能性成分の種類と健康維持効果
- 第15回 食事摂取基準と食品の選択
まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260115N0J
授 業 名 (Course Title)	調理科学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	藤原 智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に適宜、紹介あるいは配付する。
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

調理という行為が、人の生存を支えるという科学的側面と、生活を創造するという文化的側面を持つことを理解し、調理の役割について、俯瞰的視点から論じることができる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 調理の科学的側面について理解する。
2. 調理の生活文化的側面について理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した内容についてはゼミ形式で行う。

授業のまとめとして、提示した課題の中から各々が選んだテーマについて口頭発表を求める。

さらに口頭発表についてのディスカッションをふまえて、レポートにまとめるものとする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業の中で指示した課題について、文献等により最新の知見を収集する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、口頭発表 (20%)、レポート (50%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 調理の起源と発達
- 第2回 おいしさの化学的要因・物理的要因
- 第3回 調理操作 (湿式加熱)
- 第4回 調理操作 (乾式加熱)
- 第5回 調理操作 (誘電加熱・誘導加熱・非加熱)
- 第6回 調味
- 第7回 食素材の調理特性と食品としての広がり①米
- 第8回 食素材の調理特性と食品としての広がり②小麦粉
- 第9回 食素材の調理特性と食品としての広がり③いも・豆
- 第10回 食素材の調理特性と食品としての広がり④野菜・果物
- 第11回 食素材の調理特性と食品としての広がり⑤肉・魚
- 第12回 食素材の調理特性と食品としての広がり⑥卵・牛乳
- 第13回 食素材の調理特性と食品としての広がり⑦砂糖・油脂
- 第14回 食素材の調理特性と食品としての広がり⑧ゲル化剤
- 第15回 口頭発表、まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260116N0J
授 業 名 (Course Title)	保健福祉行政特論 Evidence にもとづく保健福祉の展開
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	金森 雅夫
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	特に指定しない。
参考文献 (References)	『WHO グローバルレポート：高齢者の転倒予防』 鈴木みずえ・金森雅夫・中川経子 クオリティケア出版 2010 『社会・環境と健康』 国立健康・栄養研究所監修 南江堂 2010 WHO グローバルレポート：高齢者の転倒予防は、高齢者での介護予防を計画する際の重要な政策課題の骨組みを紹介しています。認知症・介護予防の参考書はその都度紹介する。
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

保健福祉行政は科学的根拠エビデンス (Evidence Based Medicine) にもとづいた展開が望まれる。健康日本21 (第二次) の最先端情報から、どのようなプロセスによって、疾病の予防や健康増進が可能かを科学的に推論し、政策立案の研究能力を培う (リスクファクター、メタ分析、cost-effective)。さらに、ある保健福祉上のテーマからエビデンスの収集を通じて保健行政の課題解決のためのフローチャート・ロードマップを作成し、科学的政策立案能力を養う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

①健康日本21 (第二次) の参考文献を読んで、生活習慣と疾病の関連を深く理解する。②認知症を予防する視点から運動・転倒予防対策が重要である。WHOの政策を読んで、世界の地域での取り組みの現状を分析する。これらの実例を通じて、保健政策上の課題を自ら設定し、エビデンスの収集を通じて保健行政の課題解決のためのフローチャート・ロードマップを作成する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

①インターネットによる文検索能力。②基本的な統計能力。③長寿を阻害する要因探索、認知症の病態生理、④生活習慣病のリスクファクターと国民衛生の動向についての情報検索能力。⑤エビデンスの収集を通じて保健行政の課題解決のためのフローチャート・ロードマップを作成能力形成を促す、iPadを使った視覚的講義。受講生は、インターネット検索ができるスマートホンやPCを携帯していることが望ましい。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

認知症の病態生理については講義で詳しく説明するが、①地域でどのような連携 (地域パス) があるのか、②介護予防の実践例を調べることが望ましい。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
5時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

① 課題解決レポート (60%) ② 発表、討論などの授業参加態度 (40%) などの平常考査

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 健康の定義 グローバルヘルス 健康の危機管理
- 第2回 平均寿命・健康寿命の延伸 リスクファクター 介護が必要となる疾病要因
- 第3回 健康日本21 (第二次) 禁煙・適正飲酒
- 第4回 健康日本21 (第二次) 運動習慣
- 第5回 高齢者保健 認知症 介護予防
- 第6回 認知症予防 運動と栄養
- 第7回 科学的根拠エビデンス (Evidence Based Medicine) とはなにか? google scholar など文献情報の方法 情報の整理・評価 (iPad及び資料のPDF化)
- 第8回 世界の健康情報 グローバルヘルスの課題 世界の健康とそのストラテジー
- 第9回 保健政策の立案- WHO「転倒予防」戦略の目標
- 第10回 「転倒予防」の保健政策の立案-リスク回避策としての転倒予防・運動の役割
- 第11回 WHOの転倒予防対策-転倒予防のメタアナリシス、疫学的介入研究
- 第12回 課題レポートのテーマ決定の仕方 フローチャート・ロードマップの提案
- 第13回 エビデンスの収集結果発表、討論 (1) 目標 方法 結

果の予想 社会的有用性
 第14回 エビデンスの収集結果発表、討論(2) 質的調査と量的調査 結果の因果関係 妥当性
 第15回 課題解決レポートの完成(フローチャート・ロードマップの完成)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業ではインターネットによる専門的情報収集の方法を教示するが、一般的なインターネット利用法は取得していること。iPad, スマートホン, PC等でのインターネット環境を教えます。まず、授業を聞いて、ノートを取り、復習することが重要。

講義コード (Course Code)	260119A0J
授業名 (Course Title)	ソーシャルワーク実習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	佐藤 純, 石井 浩子, 三好 明夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本実習では、ソーシャルワーク特論等において習得した知識・技術・価値観を実際の場面で深め、より高度な専門的援助の展開を可能にすることを目標とする。各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に決定する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本実習では、下記のことを実習を通じて習得する。

1. 各自が選択した分野におけるソーシャルワークの実際についての理解
2. 各自が選択した現場の仕事内容・職員構成・連携についての理解
3. 援助者としての自己覚知に関する理解
4. 高度な専門的直接援助・間接援助技術の理解
5. 利用者へのサービスの有効性に関する評価方法の理解
6. 実習生自身の高度な専門的訓練
7. 援助者の倫理に関する理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

実習の前に事前指導を行う。実習生は実習期間中に現場指導担当職員と教員からのスーパービジョンを、また教員から事後指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業・実習先で示された文献・書籍等を熟読し、実習に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
 30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績評価は、実習施設の実習担当指導者と本実習担当教員の連携指導のもとに、総合評価する。その内訳は以下の通りである：①実習受け入れ先のスーパーバイザーによる評価基準に基づく評価40% ②担当教員による事前・事後指導および実習中のスーパービジョンにおける評価40% ③実習報告レポート20%

5. 留意事項 (Other Information)

本実習科目を履修する条件は以下のとおりである：

- 1) 原則として、学部で、社会福祉士、精神保健福祉士、あるいは保育士の現場実習を履修した者
- 2) 社会福祉運営管理特論、子どもの健康福祉特論、精神保健福祉特論の何れかを受講していること (もちろんソーシャルワーク実習と同時に履修することも可能)

講義コード (Course Code)	260123N0J
授業名 (Course Title)	ケアマネージメント特論
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 明夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	配布、印刷資料を中心とする
参考文献 (References)	適宜、授業中に指示する
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

住み慣れた地域で自立した生活を送るためには地域の様々な社会資源をはじめとするサービスの有効活用が大事になる。同時に地域の理解や協力が重要となる。これらを地域社会全体で支え高めて守っていくこと、共生を目標とすることをケアマネージメント学習の中心としていく。よって現代社会の要請に応じた対人援助能力、実践的問題解決能力を身につけた生活者を支援する人材として育てる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

ケアマネージメントの意義と目的を理解する。
ケアマネージメントの方法と実践について学ぶ。
ケアマネージメントの課題と展望について学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

ケアマネージメントの実践事例の紹介と検討が中心となる。またこの事例をもとにしてのディスカッションも行い、ケアマネージメントの機能の有効性や課題についても学びを深めていくが、授業最終でこれまでのまとめについてのフィードバックを行い、理解を自身のものにしていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

次週のテーマについて事例等を手渡すので熟読して、指示に従って作業を行い、持参する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%) 発表 (20%) レポート (50%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ケアマネージメントの意義と目的
- 第2回 ケアマネージメントと自律、自立
- 第3回 ケアマネージメントとチームアプローチ
- 第4回 ケアマネージメントプロセス
- 第5回 インテーク、アセスメント、ケアプラン
- 第6回 ケアプランの実施、仲介、モニタリングと終結
- 第7回 社会資源の開発と改善
- 第8回 ケアマネージメント過程での倫理
- 第9回 人権擁護、主体性、中立性、公平性
- 第10回 ケアマネージメント過程での基本姿勢
- 第11回 自立支援、きめ細やかなアセスメント、チームアプローチ、苦情処理
- 第12回 利用者と家族への権利擁護
- 第13回 利用者の視点とサービスの展開および苦情解決の方法
- 第14回 ケアマネージメントの課題分析
- 第15回 ケアマネージメントの総括と今後の展望

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260124N0J
授業名 (Course Title)	社会調査法特論 福祉統計の活用と福祉調査の実践
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	平尾 良治
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『社会調査法入門』 盛山和夫 有斐閣 2004
参考文献 (References)	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』 志藤・平尾・藤井・安井 高菅出版 2014年 『格差社会の統計分析』 岩井・福島・菊地・藤江 北海道大学出版会 2009
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

社会福祉は生活問題対策の一つであることから、国民の生活問題の実態を解明することは福祉研究においては不可欠の営みである。しかしその多くは官庁統計 (行政報告) に依存せざるを得ない側面もある。そうしたデータをどのように加工し、活用するかが問われている。また必要なデータが「ない」場合は、自ら実証的に明らかにする必要がある。その際の技術やポイントを共有することを目標としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・社会福祉調査の理解 (理論・操作概念・作業仮説)
- ・社会福祉調査の手順 (調査方法・サンプリング・現地調査)
- ・調査票の設計と作成、点検と集計のポイント
- ・人口・労働と統計 (将来人口・少子高齢化・失業・不安定雇用・労働時間・賃金)
- ・生活・福祉と統計 (所得分布・国民生活基礎調査・所得再分配調査・家計調査)

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

授業はテキスト・補足資料・データをもとに、小グループでの討議、実務作業を通して、福祉調査の概要をつかむ。その上で量的データ処理・加工方法について習熟する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストを事前に読了し、授業終了後に設定する課題に取り組んでください (教科書のドリル、配布課題、PCによる集計)。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

2時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、作業・討論への参加状況 (20%)、小レポート・課題ドリル (30%)、期末レポート (50%) により総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 社会福祉調査とは何か・・・社会科学としての社会福祉調査の特徴
- 第2回 量的調査と質的調査の意義・・・統計的調査と事例研究
- 第3回 社会福祉調査の進め方・・・調査の企画、調査の流れ、「問い」の基本
- 第4回 調査票の企画と構成・・・統計資料、統計的調査、ワーディング、選択肢、順序
- 第5回 調査実施とデータ集計・分析・・・現地調査、点検、コーディング、クリーニング
- 第6回 人口・労働と統計1・・・将来人口、少子高齢化、失業・不安定雇用
- 第7回 人口・労働と統計2・・・労働時間、賃金
- 第8回 生活・福祉と統計1・・・所得分布、国民生活基礎調査、所得再分配調査、家計調査
- 第9回 生活・福祉と統計2・・・年金制度と格差、医療保険と保険者間格差、高齢者医療
- 第10回 生活・福祉と統計3・・・国際比較でみる日本の社会保障
- 第11回 雇用労働者の増加と生活問題・・・生活問題をみる枠組み、雇用労働者の推移
- 第12回 暮らしの現実と生活問題1・・・住民の階層構成、世帯構成、就業者構成
- 第13回 暮らしの現実と生活問題2・・・生活の困りごと、家計支出構造、健康状態
- 第14回 社会保障・社会福祉の課題・・・社会手当、生活保護、福祉施設・サービス、財源
- 第15回 総合的体系的な社会的保障制度を実現する条件

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

事前に配付する資料に目を通し予習課題をおこなうこと。

講義コード (Course Code)	260131N0J
授 業 名 (Course Title)	子どもの健康福祉学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	石井 浩子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『健康福祉学概論一健やかでいきいきとした暮らしづくり』 前橋 明 朝倉書店 2008
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもたちの健全な発育・発達を保障するための「生活」と「活動」に関する内容や「生活リズム」に関する内容について、また、今日の社会の変化による影響から子どもの心身の異変の状況について学び、その問題点を分析したり、大人たちが果たすべき役割について考える。

さらに、少子高齢化社会の進行にともなう家庭環境の変化や地域社会の変容、女性の社会進出にともなう子育て支援の必要性、国や地方自治体の母子保健・児童福祉サービス、子どもに関する諸問題を検討し、子どもたちの健全育成のために、家庭や学校、施設、地域社会、行政などの果たす役割や今後の展望を探る。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 子どもの発育・発達や基本的な生活習慣を理解する。
- 子どもたちの抱える健康上の問題を探る。
- 子どもの心とからだの健全育成のための視点を理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 毎回のテーマに沿って用意した資料をもとに、講義及びディスカッションを行う。
- 毎回の授業の最後に、レポート課題を出す。
- 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
 - 前回授業の配布資料を基に、授業の最後に出されたレポート課題について調べたことや自分の意見をまとめ、次回授業に提出する。
 - 授業予定の内容について、関連する新聞記事や書籍など見て、予備知識を得ておく。
- 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (発表やディスカッションへの参加) 40%、課題提出 (20%)、レポート提出 (40%) から、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 子どもを取り巻く社会環境や家庭環境、教育環境の変化
- 子どもの発育・発達や基本的な生活習慣
- 子どもの生活習慣やそのリズムの実態
 - 生活リズム
 - 体温
- 子どもの心やからだの異変とその原因
- 少子高齢化社会における児童福祉ニーズ
- 子どもの心とからだの健全育成
 - 栄養・休養・運動
- 子どもの心とからだの健全育成
 - 自然とのかかわりと心の育ち
- 子どもの心とからだの健全育成
 - 保育者や教師、親 (家庭) 地域、行政の役割
- 子どもの心とからだの健全育成
 - 生活リズム向上戦略
- 子どもの心とからだの健全育成
 - 健全育成・健康づくりに関する子どもの行事
- 子ども家庭福祉関連の行政機関や施設
- 子どもを取り巻く大人の問題と課題
- 育児疲労と育児支援
 - 育児疲労の実態
- 育児疲労と育児支援
 - 育児支援の基本と援助者の心構え、具体的な支援
- 子どもの健康福祉の今後の課題と展望

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260133N0J
授 業 名 (Course Title)	障がい者問題特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	矢島 雅子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配付する。
参考文献 (References)	『よくわかる障害者福祉』 小澤温 ミネルヴァ書房 2016 『共生社会を切り開くー障害者福祉改革の羅針盤ー』 佐藤久夫 有斐閣 2015 『ケアからエンパワメントへ 人を支援することは意思決定を支援すること』 北野誠一 ミネルヴァ書房 2015 『社会福祉研究のフロンティア』 岩崎晋也・岩間伸之・原田正樹 有斐閣 2014 授業内で参考文献一覧を配付する。
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

障がいは、社会的環境によってつくり出されている。社会的環境は、物的環境、人的環境、社会的意識、制度的環境のことを指している。障がいのある人の自立と社会参加を阻む社会的障壁とは何か。また、通常の豊かな暮らしを継続できる社会の仕組みをいかに構築していくべきか提言することができることを目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 障がい者福祉の思想、理念について説明することができる。
- 障がい者権利条約をはじめ差別解消法が制定された背景や意義を学ぶ。
- 障がいのある人の暮らしの実態を知り、必要とされる福祉サービスの現状を学ぶ。
- 障がいのある人への就労支援の実態を知り、必要とされる支援の在り方を説明することができる。
- 障害のある人のソーシャルアクションの現状と課題について学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 障がいのある人が抱えている実際の生活問題を調べ、発表を行う。
- 必要とされる福祉サービスや支援の在り方についてディスカッションを行う。
- 最新の福祉サービス等に関する情報を提示し、講義を行う。
- 各回のワークシートは次回授業で個別にフィードバックを行う。
- 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
 - 配付されたワークシートの予習・復習の課題に取り組む。
 - 指定された図書や論文等を読み、概要をまとめておくこと。
- 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、レポート (50%)、ワークシート (20%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 障がいのある人が抱えている生活問題
- ノーマライゼーションの理念
- リハビリテーションの発展と限界
- エンパワメントの実態
- 自己決定の意義
- 障がい者権利条約が目指すもの
- 社会的障壁と合理的配慮の実態
- 障がい特性の理解
- 入所施設の実態と今後の在り方
- 地域生活支援の歩み
- 就労支援の現状と課題
- 自立生活運動の歴史
- ソーシャルアクションの意義
- 意思決定支援の課題
- 今後の障がい者福祉の展望

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

障がいのある人や家族、支援者の声に耳を傾け、その代弁者となって研究を進めていく必要がある。必要に応じてフィールドワークを実施する。

講義コード (Course Code)	260134N0J
授業名 (Course Title)	子どもの発達心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	畠山 寛
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	・特になし ・適宜、プリントを配布する
参考文献 (References)	・授業内で適宜紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

発達に関する基礎的理解をもとに、身体機能、精神機能の諸領域の発達の過程について理解する。さらに、発達に関する諸問題や発達支援の在り方など、文献や資料をもとに理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 発達心理学の基礎的理論について理解する
2. 定型発達の過程について理解する。
3. 発達に関する諸問題について理解する。
4. 発達支援の在り方について理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

発達心理学の基礎的理論、発達の過程、発達に関する諸問題、発達支援の在り方について、資料や文献購読を行いながら理解する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各授業の終わりにおいて、「次週に向けての課題」を告知する。その課題を行うことで、準備学習とする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート70%、及び、各授業で求める課題等30%として評価を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 こどもの発達心理学特論とは？：発達心理学について
- 第2回 発達に関する基礎的理解
- 第3回 身体・運動発達
- 第4回 認知の発達
- 第5回 言葉の発達
- 第6回 愛着の発達
- 第7回 自己の発達
- 第8回 社会性の発達
- 第9回 道徳性の発達
- 第10回 青年期の発達
- 第11回 最近の研究の紹介①：認知系の研究
- 第12回 最近の研究の紹介②：社会性に関する研究
- 第13回 最近の研究の紹介③：
- 第14回 発達支援について①
- 第15回 発達支援について②

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260135N0J
授業名 (Course Title)	子どもの表現活動特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	植田 恵理子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもの表現活動がどのような意味を持ち、どのような環境の中で発展していくのかについて、保育現場での他者とのかかわり、主体性、協同性、学びに向かう力等、様々な側面から検討し、文献購読、音楽表現・身体表現（ごっこ遊び、劇遊び）活動の観察（ビデオ）、音楽活動の体験を通して考える。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・子どもの表現活動を引き出す環境・条件・要因について理解を深める。
- ・表現活動と子どもの育ちの関連性について考察する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・講義とゼミ形式を組み合わせる授業を行う。
- ・表現活動の実践と、実践体験を基にした課題発表を行う。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

配布された資料や、指定されたテキストには必ず目を通し、まとめておくこと。

表現活動の実践を行った際は、その意義についてまとめておくこと。
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%) 提出物 (30%) 課題発表 (40%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 子どもと表現
- 第2回 遊びと表現
- 第3回 表現が生まれる環境
- 第4回 表現が発展する環境
- 第5回 表現活動における他者とのかかわり 1 主体性
- 第6回 表現活動における他者とのかかわり 2 協同性
- 第7回 表現活動における他者とのかかわり 3 学びに向かう力
- 第8回 生活の中から生まれる音楽表現・身体表現 1 気づき
- 第9回 生活の中から生まれる音楽表現・身体表現 2 活動の発展
- 第10回 生活の中から生まれる音楽表現・身体表現 3 協同的な活動
- 第11回 様々な表現活動 1 プロジェクト型の表現活動
- 第12回 様々な表現活動 2 参加型読み聞かせ
- 第13回 様々な表現活動 3 音楽表現活動
- 第14回 課題発表のための準備 (資料作成)
- 第15回 課題発表会 子どもの表現活動をテーマにしたプレゼンテーション

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260141N0J
授 業 名 (Course Title)	京都生活論特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	鳥居本 幸代
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『千年の都 平安京の暮らし』 鳥居本幸代 春秋社 2014年
参考文献 (References)	『平安朝のファッション文化』 鳥居本幸代 春秋社 2003年 『和食に恋して 和食文化論』 鳥居本幸代 春秋社 2015年 『精進料理と日本人』 鳥居本幸代 春秋社 2006年
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

京都は平安京遷都以来、文化の発信地となり、現在に至っている。京都の気候風土にあった衣生活、食生活、住生活のルーツを平安貴族の生活から探求し、その影響と変遷を知ることによって、今日の京都独自の生活文化を明らかにする。学内外のフィールドワークを積極的に行う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 京都の衣生活としては、平安貴族のファッションの概要、さらに地場産業として発展した西陣織のルーツについて述べ、フィールドワークによって体感する。
2. 京都の食生活としては、平安貴族の食生活からはじめ、京都で発展した精進料理、京野菜、茶道と京菓子、京料理などについて述べる。
3. 京都の住生活としては、寝殿造から京町家にいたる経緯、伝統建築などについて述べるとともにフィールドワークを行う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義やフィールドワークを行うことによって、さらに知識を深める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に与えた課題によって、予備知識を得ること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

衣生活、食生活、住生活ごとにレポートの提出を求める。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 平安貴族のファッションの概説
- 第2回 フィールドワーク①
風俗博物館見学
- 第3回 有職織物と西陣織
- 第4回 フィールドワーク②
織成館見学
- 第5回 京都の織物産業の現状
- 第6回 平安貴族の食生活と食環境
- 第7回 精進料理と京野菜
- 第8回 京料理の背景
- 第9回 菓子の歴史
-京菓子をめぐって-
- 第10回 フィールドワーク④
京菓子資料館見学
- 第11回 平安貴族の都市計画
-現代に残る条坊制-
- 第12回 寝殿造という住宅設計および別業の誕生
- 第13回 茶室建築と町家
- 第14回 フィールドワーク⑤
茶室建築の体験
- 第15回 フィールドワーク⑥
町家探訪

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260142N0J
授 業 名 (Course Title)	衣環境学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	安川 涼子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『衣の科学シリーズ 衣服材料の科学 [第3版]』 島崎恒蔵 編著 建帛社 2009 『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』 片山倫子 建帛社 2012 『「染色」って何?ーやさしい染色の化学』 上甲恭平 繊維社 2012 新訂 (第3版) 繊維製品の基礎知識シリーズ 3分冊 TES (繊維製品品質管理士) の試験を受ける予定の人は必ず買うこと。
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

健康で快適な衣環境を創出するため、衣服材料の性質、衣服機能の回復方法、衣服の付加価値、識別のための機能加工・染色加工、繊維製品の品質管理などについて専門的知識の修得する。

現在の衣環境にある問題点や改善点を洞察し、解決できる能力を修得し、社会人として生活していくための創造性や自己管理能力を身につける。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

講義の理解や知識の修得だけでなく、実験やレポート作成、発表なども行い、論理的に組み立てる能力、丁寧な調査、人への確に伝達するなどの実践的な能力を身につける。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

実験と講義を行い、実践的に知識を深める。

適宜必要資料を配布する。必要に応じてビデオなどを観る。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義前は配布資料を熟読しておくこと。

講義後はレポートを出すので、講義後は復習しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート・課題 (60%)、課題の発表 (30%)、学習意欲の有無 (10%) により総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 繊維の性質 (燃烧・溶解・顕微鏡観察)
- 第3回 糸・布の性質 (撚り・厚み・織構造)
- 第4回 繊維物性と衣環境
- 第5回 天然染料の染色
- 第6回 合成染料の染色
- 第7回 染色加工と染色助剤
- 第8回 洗浄、洗濯
- 第9回 界面活性剤の性質
- 第10回 柔軟・糊つけ・漂白・蛍光増白
- 第11回 風合い・白度の回復
- 第12回 染色堅ろう度試験
- 第13回 繊維製品の品質管理
- 第14回 課題の発表
- 第15回 講義のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260143N0J
授業名 (Course Title)	家族関係学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	青木 加奈子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『福祉資本主義の三つの世界』 イェスタ・エスピン-アンデルセン ミネルヴァ書房 2001
参考文献 (References)	必要に応じて授業内で紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本授業では、福祉国家論の基礎的テキストであるエスピン-アンデルセンの『福祉資本主義の三つの世界』(1990=2001)を読み、福祉や家族に対する国家のスタンスの違いから引き起こる家族のあり方・考え方の違いを理解したうえで、日本社会の事情について相対的・批判的に考えられるようになることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・福祉レジーム論とそこで行われている福祉政策の違いを理解する。
- ・家族政策のあり方が、家族のあり方・考え方に影響することを学ぶ。
- ・欧米の事情を通じて、日本を中心としたアジアの家族政策や家族のあり方を相対的・批判的に論じられるようになる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

担当教員による講義と、受講者によるテキスト内容の報告・討議で行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業までにテキストや資料を読み込んでおく。

報告担当者は、テキストの内容をまとめること、討論の話題を提起することを報告準備として行う。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加度 (積極性、報告など) 30%、レポート70%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション (授業の説明、テキスト担当回の決定)
- 第2回 デンマーク社会と家族 (講義と討論)
- 第3回 北欧社会におけるデンマーク家族政策の特徴 (講義と討論)
- 第4回 1章 福祉国家をめぐる三つの政治経済学 (発表と討論)
- 第5回 2章 脱商品化と社会政策 (発表と討論)
- 第6回 3章 階層化のシステムとしての福祉国家 (発表と討論)
- 第7回 4章 年金レジームの形成における国家と市場 (発表と討論)
- 第8回 5章 権力構造における分配体制 (発表と討論)
- 第9回 6章 福祉国家と労働市場のレジーム (発表と討論)
- 第10回 7章 完全雇用のための制度調整 (発表と討論)
- 第11回 8章 ポスト工業化と雇用の三つの軌跡 (発表と討論)
- 第12回 9章 ポスト工業化構造の下における福祉国家レジーム (発表と討論)
- 第13回 日本型福祉レジームと家族政策 (発表と討論)
- 第14回 アジアの家族と家族政策 - 中国・大連市と台湾・台北市の事例から - (講義・討論)
- 第15回 まとめ・社会変動と福祉国家の今後

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

- ・受講生の人数や関心によって、授業内容を変更する場合がある。
- ・報告の担当回を決定するため、第1回目の授業には必ず出席すること。出席できない場合は、事前に青木まで連絡をすること。

講義コード (Course Code)	260152N0J
授業名 (Course Title)	プロジェクト課題研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	180時間
担当者 (Instructor)	萩原 暢子・青木 加奈子・石井 浩子・植田 恵理子・牛田 好美・加藤 佐千子・酒井 久美子・佐藤 純・竹原 広実・中村 久美・島山 寛・藤原 智子・三好 明夫・矢島 雅子・安川 涼子
単位数 (Credits)	6
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、学生が生活福祉文化学の各領域の枠を払ったいくつかの「プロジェクトチーム」のひとつに参加してプロジェクト学習方式 (Project Based Learning) を学ぶ演習科目である。これにより学生と教員の関心が実践的な課題によって結ばれ、学生のより主体的な学修を促すことができる。生活福祉文化学という実践科学は現場の問題解決志向性とその理論的・方法的基礎づけという2方向により成り立つ。この2方向の志向性を現実化するのが「プロジェクト課題研究」である。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) プロジェクト課題研究の意義と目的
- (2) プロジェクト課題研究の方法
- (3) プロジェクト課題研究の課題設定
- (4) 研究チームの結成
- (5) 研究の進行管理
- (6) 研究報告

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- (1) 学生が研究課題に取り組むチームを立ち上げる。
- (2) 各チームに指導担当教員を置く。
- (3) 前期は主として課題設定、後期は課題研究を行う。
- (4) 前期1回、後期2回 研究集会を開催し、課題の紹介、中間発表、研究発表等を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回、授業の中で行われるディスカッションに注目し、話題となっている内容について、把握するように努めること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 90時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究発表の状況及び研究終了後に提出するプロジェクト課題レポートにより評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 履修登録、科目の説明 (萩原)
- 第2回 プロジェクト課題研究の意義と目的 (萩原)
- 第3回 研究倫理について (佐藤)
- 第4回 プロジェクト課題研究の方法① (研究課題の決定：各自の興味関心を探る) (萩原)
- 第5回 プロジェクト課題研究の方法② (研究課題の決定：共通するテーマを見つける) (萩原)
- 第6回 プロジェクト課題研究の課題設定 (萩原)
- 第7回 発表および質疑応答の方法を学ぶ (全員)
- 第8回 プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成 (全員)
- 第9回 プロジェクトチームによる検討会① (テーマ・研究方法の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第10回 プロジェクト課題研究中間発表会 (全員)
- 第11回 プロジェクトチームによる検討会② (具体策の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第12回 プロジェクトチームによる検討会③ (結果の検討) (チームに選ばれた教員)
- 第13回 プロジェクトチームによる検討会④ (最終発表の準備) (チームに選ばれた教員)
- 第14回 プロジェクト課題研究発表会 (全員)
- 第15回 研究およびプレゼンテーションの省察 (全員)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	260155A0J～260155P0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究Ⅰ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探究し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあつては最終学年まで) にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260156A0J～260156P0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探究し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあつては最終学年まで) にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260157A0J～260157P0J	
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅲ	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担当者 (Instructor)	専任教員	
単位数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M2	
備考 (Note)	必修	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探索し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	260158A0J～260158P0J	
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅳ	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担当者 (Instructor)	専任教員	
単位数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M2	
備考 (Note)	必修	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探索し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	280014N0J
授 業 名 (Course Title)	文化科学研究方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	鷲見 朗子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	特定のテキストは使用しないが、授業で配布する資料などでそれに代える。
参考文献 (References)	特になし。
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりと方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 問題提起
2. 論文の内容・形式
3. 先行研究の調査・整理の意義
4. 方法論の選択と確立
5. 結果・成果のまとめ
6. 引用・参考文献の重要性

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・ 講義
 - ・ 論文読解
 - ・ オンライン検索
 - ・ 資料収集
 - ・ 発表
 - ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
 - ・ 文献読解
 - ・ 読解したものの要約
 - ・ 発表用のレジュメ作成
 - ・ 発表用のパワーポイント資料作成
 - ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
- 30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- ・ レポート (50%)
- ・ 発表 (30%)
- ・ 授業参加・課題 (20%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 指導教員、指導教員との関係性
- 第3回 論文テーマの選び方、問題意識
- 第4回 先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
- 第5回 収集文献の整理
- 第6回 方法論1
- 第7回 方法論2 (社会学 ゲスト・スピーカー)
- 第8回 方法論3 (人文学 ゲスト・スピーカー)
- 第9回 論文の基本コンセプト発表・議論 第1段階
- 第10回 論文の形式
- 第11回 論文の表現
- 第12回 プレゼンテーションの方法
- 第13回 中間の研究経過報告に求められる内容
- 第14回 論文の基本コンセプト発表・議論 第2段階
- 第15回 論文の執筆計画とまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたたりすることもある。

講義コード (Course Code)	280015N0J
授 業 名 (Course Title)	文化科学研究実践論 ～研究発表に挑戦し、構想発表を充実させよう～
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	岩崎 れい
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の1月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究に適した研究方法を見つける。
2. 他の人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
3. よりよい形での研究発表を実践する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 授業時の議論、研究発表を組み合わせて行う。
- ・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- 毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。
- ・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
- 40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80%、授業時の議論への参加20%とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 前期の「研究方法論」の授業内容の復習
- 第2回 論文テーマの発表 (各自) とその研究方法に関する議論
- 第3回 研究テーマと研究発表方法の関連について整理 (サンプル論文利用)
- 第4回 自分が選んだ文献の紹介 (1) 図書
- 第5回 自分が選んだ文献の紹介 (2) 論文
- 第6回 自分が研究発表する可能性のある「学会・研究会」の種類の調査と報告
- 第7回 自分の研究分野に関する「学会・研究会」の参加報告
- 第8回 授業内における模擬研究発表 (1) 導入
- 第9回 授業内における模擬研究発表 (2) 運用
- 第10回 授業内における模擬研究発表 (3) 応用
- 第11回 「学会・研究会」での研究発表 (1) 導入
- 第12回 「学会・研究会」での研究発表 (2) 応用
- 第13回 各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
- 第14回 修士論文の構想発表会の実施
- 第15回 構想発表会の報告とこれからの見通しを発表 (その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

特に第1回～3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。

講義コード (Course Code)	280029N0J
授業名 (Course Title)	聖書学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中里 郁子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『聖書 旧約聖書続編つき (共同訳)』 日本聖書協会 2009 『Theology of the Second Letter to the Corinthians』 Jerome Murphy-O'Connor Cambridge University Press 1991
参考文献 (References)	授業中に紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1 コリントの町を知る
- 2 コリントの教会について理解する
- 3 『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
- 4 『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1 『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。

2 割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。

3 受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 『第二コリント書』概説
- 第3回 コリントの町
- 第4回 コリントの教会
- 第5回 パウロとコリントの信徒
- 第6回 フィールドワーク
- 第7回 挨拶と祝福
- 第8回 変更された訪問
- 第9回 真正な奉仕
- 第10回 奉仕の理論と実践
- 第11回 奉仕—古いものと新しいもの
- 第12回 奉仕と死
- 第13回 イエスの命と新しい創造
- 第14回 受講者による発表
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280030N0J
授業名 (Course Title)	日本近代文学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	長沼 光彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『現代日本文学論争史』 平野謙他 未来社 2006
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本近代文学には、様々な作品とともに、その作品の根拠となる文学理念が存在する。作家は作品を創作するとともに、自己の文学理念を公にし、その根拠を世に問うたのである。これら文学理念を、実際の作品と照らし合わせながら、整理し検証する。

文学研究は、作品の分析が基礎である。文学理念それ自体の理解を深めるとともに、それらが作品にどのように投影されているか検証し、分析力を深める。

また、それぞれの文学理念は、同時期の思想や文化的文脈を背景に持っている。ひとつの文学理念を単独に理解するだけでなく、相互に関連づけながら考察したい。そのために、近代日本で行われた文学論争も取り上げ、論点を整理する。さらには、日本文学近代文学史における意義も見直してみたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・日本近代文学の様々な文学理念に対する理解を深める。
- ・様々な文学理念を生み出した、日本近代文学の歴史的背景を理解する。
- ・文学理念の変遷を整理し、自身の研究に応用する。
- ・文学理念の作品に対する投影を検証しながら、作品分析力を鍛える。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。
- ・受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- ・図書館などを利用し、資料を検索する。
- ・資料の該当する箇所を読解し、資料の背景知識を調べる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、ゼミでの質疑応答 (20%)、ゼミ発表 (20%)、学期末のレポート (30%) により行う。研究能力を養うためのゼミであるため、出席することを重視する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 準備と方法について
- 第2回 文学理念と作品との関連① (私小説論争)
- 第3回 文学理念と作品との関連② (社会主義リアリズム論争)
- 第4回 文学理念と作品との関連③ (芸術大衆化論争)
- 第5回 文学理念と時代背景との関連① (「宣言一つ」をめぐる論争)
- 第6回 文学理念と時代背景との関連② (目的意識論争)
- 第7回 文学理念と時代背景との関連③ (日本浪漫派論争)
- 第8回 文学理念と海外文学との関連① (シエストフ論争)
- 第9回 文学理念と海外文学との関連② (思想と実生活論争)
- 第10回 文学理念と海外文学との関連③
- 第11回 文学理念と表現の関連① (「小説の筋」論争)
- 第12回 文学理念と表現の関連② (新感覚派論争)
- 第13回 文学理念と表現の関連③ (散文芸術論争)
- 第14回 文学理念と日本文学史
- 第15回 研究成果についてフィードバック

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280032N0J
授業名 (Course Title)	アラブ・イスラーム文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鷲見 朗子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	特に使用しない。
参考文献 (References)	参考文献は適宜、授業で紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

アラブ文化とイスラーム文化についての知識と理解を深めることを目的とする。まず「アラブ」とは何か、「イスラーム」とは何かという定義付けの検証から行う。次にアラブとイスラームの人々の生活、宗教、歴史、芸術、文学にかかわる代表的な文化的要素(例: コーラン、アラビア書道、アルハンブラ宮殿)をとりあげて検討し、それらにまつわる歴史的背景や地域の独自性なども明らかにしていく。また、文献を読むことに加えて、映像や実物を目にする事で、その文化において人々が実際にどのような生活をしているのかをかいまみる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. アラブ・イスラーム文化の共通性
2. アラブ・イスラーム文化の多様性
3. 文献(日本語と英語)講読とそれに関する発表

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
2. 受講生は各授業で決められたテーマに関する日本語と英語の専門書や論文を事前に読み、発表を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 文献読解
2. 1. の要約および発表
3. 発表のレジュメ作成

4. 発表のパワーポイント資料作成

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度(10%)、発表(30%)、学期末レポート(60%)により評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 アラブとイスラームの定義の検証
- 第2回 イスラームの興り
- 第3回 イスラームの発展
- 第4回 コーランとは
- 第5回 コーランの内容
- 第6回 アラブ文学(詩)
- 第7回 アラブ文学(散文)
- 第8回 アラビア書道
- 第9回 アルハンブラ宮殿
- 第10回 イスラーム女性信者のヴェール
- 第11回 アラブのメディア(新聞)
- 第12回 アラブのメディア(テレビ・ラジオ)
- 第13回 もてなしの心
- 第14回 結婚と離婚
- 第15回 最終発表とまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280034N0J
授業名 (Course Title)	日本語学特論 古代和歌、俳句歳時記を読む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリントを配布する
参考文献 (References)	『新編国歌大観』 角川書店 『合本俳句歳時記』 角川書店 『日本国語大辞典』 小学館
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

私家集を中心に古代和歌をいくつか選び、語学的な視点から分析し、各作品の解釈・鑑賞に取り組む。また、俳句歳時記から任意の作品を選び、同じく分析・研究を進める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 古代和歌の語法・語彙について研究する
2. 発句・俳句の語法・語彙について研究する
3. 和歌・俳句に関する研究文献を読む
4. 和歌・俳句に関する研究レポートを書く

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生の発表を求め

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に指示された調査課題の準備、授業で配布された文献資料の素読

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点40%、総合評価試験の成績60%で評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入
- 第2回 私家集を読む - 平安時代
- 第3回 私家集を読む - 鎌倉時代
- 第4回 私家集を読む - 室町時代
- 第5回 和歌に関する研究論文を読む
- 第6回 私家集を読む - 江戸時代前期
- 第7回 私家集を読む - 江戸時代後期
- 第8回 近代歌人の歌集を読む
- 第9回 俳句歳時記を読む - 新年の部
- 第10回 俳句歳時記を読む - 春の部
- 第11回 俳句・発句に関する研究論文を読む
- 第12回 俳句歳時記を読む - 夏の部
- 第13回 俳句歳時記を読む - 秋の部
- 第14回 俳句歳時記を読む - 冬の部
- 第15回 総括

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合があります。

講義コード (Course Code)	280038N0J
授業名 (Course Title)	日本近代詩特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	長沼 光彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『近現代詩を学ぶ人のために』 和田博文 世界思想社 1998 『戦後詩のポエティクス1935~1959』 和田博文 世界思想社 2009 『今を生きるための現代詩』 渡邊十絛子 講談社 2013 『現代詩の鑑賞101』 大岡信 新書館 1998 『現代詩入門』 吉野弘 青土社 2014
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

詩は、読みにくいと言われることがある。その読みにくいと思われる表現は、詩人が言語の性質を追究した結果生まれてきたものである。詩の表現に使われる言語は、私たちが日常使う言語と同じものであるが、理解のためには、詩を構成する法則を知る必要がある。近現代の詩論を参照しながら、詩の法則について理解する。また、詩は、時代の思潮を反映したものである。日本近代の文化的文脈について学び、個別の作品が生まれてくる背景について理解を深める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・近現代の詩論を通して、詩の表現の特徴に対して理解を深める。
- ・詩の表現の特徴に対する考察を通じて、言語の特徴を理解する。
- ・日本の近代詩の変遷の背景にある、文化的文脈を調べ、その関係を理解する。
- ・言語の特徴、文化的文脈との関係を理解し、詩を分析する力を鍛える。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。
- ・受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- ・図書館などを利用し、資料を検索する。
- ・資料の該当する箇所を読解し、資料の背景知識を調べる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、ゼミでの質疑応答 (20%)、ゼミ発表 (20%)、学期末のレポート (30%) により行う。研究能力を養うためのゼミであるため、出席することを重視する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 準備と方法について
- 第2回 日本近代詩史の概要
- 第3回 日本近代詩史の分類用語
- 第4回 詩とロマン主義と自然主義
- 第5回 詩と象徴主義
- 第6回 詩とモダニズム
- 第7回 詩とフォルマリズム
- 第8回 詩と社会思想
- 第9回 詩とリズム、音楽
- 第10回 戦後史という区分
- 第11回 詩の表現理論
- 第12回 シクロフスキーの異化の理論
- 第13回 詩と批評
- 第14回 詩と認知論
- 第15回 詩と言語の関係

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280046N0J
授業名 (Course Title)	出版・情報文化特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鎌田 均
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

文字による記録、出版を通して、また近年ではインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、それを読み、利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸とし、歴史の変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。

- 1) 文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質とそれを読解し、受容する人との関係。
- 2) 情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。これらのテーマに関しての研究動向、研究方法について理解を深めるとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報、メディアリテラシー教育における実践面も検討する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 情報の持つ性質について理解する。
- 2) 情報が発信されるメディアについて理解する。
- 3) 情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

呈示された文献を読み、発表の準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

期末レポート (50%)、授業中の発表 (25%)、授業中のディスカッションへの参加 (25%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 「リテラシー」に関する諸理論と動向
- 第2回 「情報」に関する諸理論と動向
- 第3回 「メディア」に関する諸理論と動向
- 第4回 文字情報の歴史の変遷と人との関わり (書物と読書の歴史)
- 第5回 記録、文書の読解、利用における人の行動
- 第6回 出版メディアと出版物の読解
- 第7回 批判的思考力と情報の読解
- 第8回 情報リテラシー教育の理論と動向 (図書館と情報リテラシー教育)
- 第9回 メディアリテラシー教育の理論と動向
- 第10回 国語科教育におけるメディアリテラシー教育の実践
- 第11回 文化情報資源
- 第12回 図書館とリテラシーの関係
- 第13回 情報、メディアと権利、倫理の問題 (著作権など)
- 第14回 レポート課題について議論
- 第15回 まとめ及びレポートの講評

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280047N0J
授業名 (Course Title)	図書館情報文化特論 (子どもとメディア)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	岩崎 れい
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリントを配布
参考文献 (References)	授業中に指示
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かさない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代にその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1) 子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2) 児童書と子どもの発達、(3) 子どもの読書支援のための理論、(4) 現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 子どもを取り巻くメディア環境を知る。
2. 児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。
3. 各自のテーマとの接点を見つける。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせて実施する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 指定された文献を読み、レジュメを作成する。
 2. 自分でも関心のある文献を探索し、読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 序 子どもをとりまくメディアの現状
1. 子どもの読書とメディア
 - 1) 子どもの読書の現状と図書館の果たす役割：講義
 - 第2回 2) 子どもの読書の現状と課題：文献解読と発表
 - 第3回 3) 子どもの読書の現状と課題：討論
 - 第4回 2. 児童書と子どもの発達
 - 1) 児童書と子どもの発達に関する概説：講義
 - 第5回 2) 児童書と子どもの発達との関係：文献解読と発表
 - 第6回 3) 児童書と子どもの発達との関係：討論
 - 第7回 3. 子どもへの読書支援
 - 1) 子どもへの読書支援の動向：講義
 - 第8回 2) 現代における読書支援の傾向と課題：調査と発表
 - 第9回 3) 現代における読書支援の傾向と課題：討論
 - 第10回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
 - 1) テレビゲームをめぐる議論
 - 第11回 2) ネット依存と携帯依存
 - 第12回 3) インターネットといじめ・犯罪
 - 第13回 4) フィルタリングと知的自由
 - 第14回 5. まとめ
 - 1) 内容の振り返りと発表
 - 第15回 2) 討論

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業に参加することを前提条件とする。

講義コード (Course Code)	280049N0J
授業名 (Course Title)	国語教育特論 古典教材研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	三省堂「精選古典B [改訂版]」(古B 335)
参考文献 (References)	三省堂「精選古典B [改訂版]」(古B 335) 教師用指導書
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

古典教材の研究法や授業構成法について、具体的な実践研究にふれながら、考える。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習指導要領 (中等教育) 改訂の経緯について、理解・研究を深める
2. 古典教育の系統的な進め方について、考える
3. 古典教材の研究法について、具体例に即して考える
4. 古典教材の原典にあたり、古注で読んでみる
5. さまざまな古典学習の実践例にふれ、古典教育の授業計画・学習指導計画を立案し、実践する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 学習指導要領の歴史を振り返り、現行指導要領の方針に関する解説や研究論文を読む
2. 古典の授業実践や教材研究に関する研究発表や論文に触れる
3. 教科書掲載の教材をいくつか取りあげ、個々の教材の研究法について、具体的に考える
4. 学習指導案を作成し、研究授業を実施する

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に指示された調査課題の準備、配布された文献の素読、学習指導案の作成と研究模擬授業の準備

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点40%、学習指導案作成および研究授業の成績60%で評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入授業－学習指導要領に即して
- 第2回 国語教育の動向
- 第3回 説話教材研究
- 第4回 徒然草研究
- 第5回 枕草子研究
- 第6回 伊勢物語研究
- 第7回 古代和歌研究
- 第8回 平家物語研究
- 第9回 奥の細道研究
- 第10回 史記・十八史略研究
- 第11回 漢詩研究Ⅰ「五言詩」
- 第12回 漢詩研究Ⅱ「七言詩」
- 第13回 文章・随筆研究
- 第14回 諸子百家研究
- 第15回 学習指導案作成および研究授業実施

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280051N0J
授業名 (Course Title)	日本語教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	適宜プリントを配布する
参考文献 (References)	『講座日本語と日本語教育 全16冊』 宮地裕他編 明治書院 『講座・日本語教育学 全6巻』 縫部 義憲監修 スリーエーネットワーク
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

外国語としての日本語の教育について、現代日本語研究や日本語の史的研究の成果を踏まえつつ、日本語教授法やカリキュラム・教材開発の研究法について実践的に学修し、国語教育や学校教育との関係についても考察する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 現代日本語の音韻・文法・語彙の諸問題について、考察を深める
2. 日本語の歴史的研究の知見についても、必要に応じて、考察する
3. 日本語教育における教授法やカリキュラム・教材開発について知見を深める
4. 外国人児童・生徒への学校教育や国語教育の方法上について、理解を深める

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 各分野の研究書や論文等、文献に触れる
 2. さまざまな実践報告や指導計画に触れる
 3. 指導計画にもとづき、模擬授業を行う
 4. 日本語教育能力検定試験の問題に取り組む
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
1. 事前に文献を読み、論点を把握する
 2. 指定された課題に取り組む
 3. 模擬授業を行うための指導計画を立てる
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に取り組む姿勢、模擬授業実践、指導計画の内容、最終レポートなどを総合的に評価する

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入 授業の方針
- 第2回 現代日本語研究 一音韻論
- 第3回 現代日本語研究 一文法論 アスペクト、モダリティなど
- 第4回 現代日本語研究 一文法論 副詞など
- 第5回 現代日本語研究 一文法論 助詞など
- 第6回 現代日本語研究 一文法論 条件節
- 第7回 現代日本語研究 一語彙論 漢語
- 第8回 現代日本語研究 一語彙論 和語
- 第9回 日本語教授法の研究 一日本語教育の現状分析
- 第10回 日本語教授法の研究 一コースデザイン
- 第11回 日本語教授法の研究 一異文化間教育の諸問題
- 第12回 日本語教授法の研究 一日本語教育の歴史
- 第13回 日本語教授法の研究 一実践研究
- 第14回 日本語教授法の研究 一指導計画
- 第15回 模擬授業の実践とフィードバック

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業予定は、履修者の研究テーマに応じて、変更する場合がある

講義コード (Course Code)	280061N0J
授業名 (Course Title)	インターンシップ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	岩崎 れい, 堀 勝博, 吉田 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また文化機関や日本語教育施設での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごしてみることは何にもものにも換えがたい経験になる。このインターンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとする。図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展覧のための技術に触れてみる。海外の日本語教育施設に赴き、日本語教育の現状を理解するとともに現地教員の補助や研究授業を体験すること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関や香港の日本語教育施設を予定している。

事前・事後指導にも必ず出席すること。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 基本的な知識・技術を身につけておく。
 2. インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

インターンシップ先の評価および体験したインターンシップについてのレポートによって評価する。

講義コード (Course Code)	280110N0J
授業名 (Course Title)	芸術史学演習 美術史学の方法論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	吉田 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『美術史学の歴史』 ウード・クルターマン著 勝 國興・高阪一治訳 中央公論美術出版社 1996年 その他適宜紹介する
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

美術作品の研究のために、美術史学は様々なアプローチの方法を蓄積してきた。これから美術作品の研究に取り組むために、具体的な論文を通して方法論を学ぶ。あわせて、美術史研究に必要な外国語読解能力の向上も目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・美術史学の重要な論文のいくつか（欧文）を読み、そこで使われている方法論を考察する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・毎回相当の分量を担当し、レジュメを作成して頂くことを前提に、議論を通して理解を深める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

課題となっている論文を読み、担当者はレジュメを作成する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度50%、発表の成績50%で評価を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文献講読 列伝
- 第3回 文献講読 アカデミー
- 第4回 文献講読 ラオコオン論争
- 第5回 文献講読 ヴィンケルマン
- 第6回 文献講読 ゲーテ
- 第7回 文献講読 ロマン主義
- 第8回 文献講読 ベルリン学派
- 第9回 文献講読 ブルクハルト
- 第10回 文献講読 ウィーン学派
- 第11回 文献講読 表現主義
- 第12回 文献講読 イコノロジー
- 第13回 文献講読 ゴンブリッチなど
- 第14回 文献講読 アラスなど
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280115N0J
授業名 (Course Title)	日本語学演習 国語史の諸問題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	山口明穂他『日本語の歴史』(東京大学出版会) 1997年 ISBN 4-13-082004-4
参考文献 (References)	授業中にその都度指示する
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

さまざまな文献を読み、国語史の諸問題について、探求する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 国語史を概観し、各時代ごとの問題点を整理する
2. テキストを読み、そこからさまざまな研究課題を見出す
3. 関連する資料や論文を読み、理解・研究を深める

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 文献を講読する
2. 文献に記載されている出典や用例について、解釈を行う

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に指示された調査課題の準備、教科書の素読

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点40%、最終試験の成績60%で評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 導入
- 第2回 奈良時代の音韻
- 第3回 奈良時代の文字
- 第4回 奈良時代の語法
- 第5回 奈良時代の語彙
- 第6回 平安時代の文字
- 第7回 平安時代の音韻
- 第8回 平安時代の語法
- 第9回 平安時代の漢文訓読語
- 第10回 鎌倉・室町時代の音韻・文字
- 第11回 鎌倉・室町時代の語彙・語法
- 第12回 江戸時代前期
- 第13回 江戸時代後期
- 第14回 明治時代以降
- 第15回 最終試験とまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合があります。

講義コード (Course Code)	280117N0J
授業名 (Course Title)	読書支援プログラム演習 読書プログラムの現状と課題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	岩崎 れい
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリントを配布
参考文献 (References)	授業中に紹介
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。
2. 図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
3. 国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
4. 子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
2. 各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。
 2. 文献をできるだけ多く読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点及び授業中の課題発表50%、学期末レポート50%で評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第2回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (2) 学校での取り組み
- 第3回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (3) 社会の取り組み
- 第4回 日本における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第5回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第6回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (2) ファミリーリテラシープログラム
- 第7回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (3) NCLB法との関わり
- 第8回 米国における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第9回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (1) 行政施策
- 第10回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (2) ブックスタート
- 第11回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (3) 学力向上政策との関わり
- 第12回 英国における読書支援プログラムの現状と課題 (4) 発表・問題提起
- 第13回 図書館における読書支援プログラムの現状と課題
- 第14回 国語科教育と読書支援の関連とその課題
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。

講義コード (Course Code)	280118N0J
授業名 (Course Title)	アラブ・イスラーム文化史演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鷲見 朗子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業で必要な資料を配布する。
参考文献 (References)	参考文献は適宜、授業で提示する。
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

今年度はイスラームの聖典コーランについての理解を深めることを目標とする。コーランは神が西暦7世紀にアラビア語で人類に下した啓示をそのまま書きとめたものであると信じられている。また、現在私たちの手元にあるコーランは、預言者ムハンマドが受けた啓示が人々によって記憶され、後に第3代カリフ、ウスマーンのときに集録されたものである。関連文献資料を参考にしながら、コーランの幾章かを日本語訳で読み解いていく。それらによって、イスラームの生活と思考の根幹となっているコーランの規範を探求する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 歴史的背景
2. コーランの構成
3. コーランの内容

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. テキスト読解
2. 文献読解 (日本語・英語)
3. 発表と討論

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 文献読解
 2. 読解した文献の要約
 3. 発表のレジュメ作成
 4. 発表のパワーポイント資料作成
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度10%、発表30%、学期末レポート60%により評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 時代背景
- 第3回 預言者ムハンマド
- 第4回 コーランの構成
- 第5回 神観念
- 第6回 神の唯一性
- 第7回 天地創造
- 第8回 アダムの創造と楽園追放
- 第9回 人類の歴史と神の支配
- 第10回 終末
- 第11回 天国と地獄
- 第12回 礼拝・断食
- 第13回 巡礼・タブー
- 第14回 婚姻・離婚
- 第15回 相続・売買

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280119N0J
授 業 名 (Course Title)	日中言語交流史演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	朱 鳳
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業毎にプリントを配布する。
参考文献 (References)	『近代日中学術用語の形成と伝播 地理学用語を中心に』 荒川清秀 白帝社 1997年 『近代日中新語の創出と交流』 朱京偉 白帝社 2003年 『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』 朱鳳 白帝社 2009年
備 考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 和英字典と華英字典の語彙比較
2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
2. 関連する学会、研究会に参加する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
50時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日中言語交流における宣教師の役割
- 第2回 宣教師の翻訳と漢語の役割
- 第3回 ロバート・モリソン (Robert Morrison) と「華英・英華字典」(1815-1823)
- 第4回 モリソン「華英・英華字典」の日本への影響—唐通事の場合
- 第5回 モリソン「華英・英華字典」の日本への影響—蘭通詞の場合
- 第6回 ロブシャイト (W. Lobscheid) と『英華字典』(1866-1869)
- 第7回 発表—日本の西書翻訳について
- 第8回 福沢諭吉の『増訂華英通話』(1860)
- 第9回 堀達之助と『英和对訳袖珍辞書』(1862)
- 第10回 中村敬宇と『英華和訳字典』(1879)
- 第11回 発表—幕末明治期の日本人と洋学
- 第12回 英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察
- 第13回 英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察
- 第14回 発表—宣教師と洋学者の交流について
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280120N0J
授 業 名 (Course Title)	日本文学演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	長沼 光彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	プリント配布
参考文献 (References)	『読むための理論』 石原千秋・他 世織書房 1991 『岩波講座文学』 小森陽一・他 岩波書店 2003 『小説の方法』 真銅正宏 萌書房 2007 『ハリウッド白熱教室』 ドリユー・キャスパー 大和書房 2015
備 考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本文学には様々な研究方法がある。その全てを自分の研究に応用する必要はないが、研究の前提として知っておかなければならない。それらの方法論の可能性と限界を知ったうえで、自分の研究方法を選ばなければならない。小説であるにせよ詩であるにせよ、まずは本文の表現に対する精細な分析と、読解を成り立たせる語彙や文化背景への理解が必要となる。これら研究の方法論と文化理解を身につけることを目標とする。

また研究する上では、人が本を読む行為の意味を考える必要がある。一冊の本を読むためにも人は、語彙力、文化的な知識、文脈理解、虚構世界の再構成など、様々な能力を発揮している。文学とは、そのような人間の総合的な活動により享受されるものである。このような読書行為の理解を深めることを第二の目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・日本文学研究の方法論を理解する。
- ・テキストの精細な分析力を養成する。
- ・語彙や文化など基礎的知識を習得する。
- ・読書行為と作品との関連を理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・演習で用いるテキストを読解し、専門用語について調べる。
- ・演習で取り上げる作品を読解し、分析した内容をまとめる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、ゼミでの質疑応答 (20%)、ゼミ発表 (20%)、学期末のレポート (30%) により総合的に行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 日本文学研究のための基礎的な手順
- 第2回 論文、文献、基礎資料の調査
- 第3回 本文校訂
- 第4回 テキスト論
- 第5回 作者とテキスト
- 第6回 語り手論
- 第7回 テキストの多声的特徴
- 第8回 テキストの構造
- 第9回 読者論
- 第10回 読書行為の分析
- 第11回 比較文学論
- 第12回 文化記号論とテキスト
- 第13回 文化交流と文学
- 第14回 文学と様々な文脈
- 第15回 研究成果に対するフィードバック

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280129N0J
授業名 (Course Title)	聖書学演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	中里 郁子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『パウロの福音』 カルロ マリア マルティニー 女子パウロ会 2009 『聖書 旧約聖書続編つき (共同訳)』 日本聖書協会 2009
参考文献 (References)	授業中に紹介する
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

新約聖書の書簡の著者であるパウロの生涯と思想を知り、パウロの異邦人への宣教と初期キリスト教への理解を深める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1 パウロの生涯を知る
- 2 パウロの異邦人への宣教と初期の教会について学ぶ
- 3 パウロの思想を理解する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 1 テキストに関連する「パウロ書簡」を読解する
- 2 「パウロ書簡」の中から一つの書簡を選び、その書簡の書かれた背景とパウロの思想をレポートにまとめて発表する

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講者は、テキスト『パウロの福音』を事前に読み、要約をレジュメにまとめて授業に参加する

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 聖パウロについて
- 第3回 パウロ書簡について
- 第4回 パウロの回心
- 第5回 パウロの受難
- 第6回 パウロの変容
- 第7回 教会の神秘
- 第8回 教会共同体への愛
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 苦難と慰め
- 第11回 不法の神秘
- 第12回 十字架の言葉
- 第13回 和解の奉仕職
- 第14回 受講者による発表
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280146N0J
授業名 (Course Title)	出版・情報文化演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鎌田 均
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できるリテラシー能力にみる、文字情報を中心とした様々な書籍、文書、記録などの情報源とそれを読解し、利用する人との関わりについての研究法を学ぶ。「出版・情報文化特論」で検討したテーマの内容、研究動向をもとにして、個別の研究課題を見つけ、小論文を完成させ発表することで、文字・活字情報とそれについてのリテラシーに関わる諸分野における研究方法を学ぶとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報リテラシー教育における実践方法も検討する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

情報と人との関わり、メディア、情報リテラシーに関係する分野についての研究動向を理解し、研究方法について実践する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

文献講読、ディスカッションをもとに個別のテーマを同定し、研究課題を設定し、研究方法について実践的に学ぶ。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定された文献を講読するとともに各自のテーマに関連する文献を検索し、講読、発表の準備をする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

小論文 (60%)、授業への参加 (40%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業内容と授業の進め方についての説明
- 第2回 文字表現と文化：文献講読とディスカッション
- 第3回 インターネットにおける情報とその理解：文献講読とディスカッション
- 第4回 出版、活字メディアとその読解：文献講読とディスカッション
- 第5回 メディア、情報リテラシー教育の実践と研究 (国語科教育への導入)：文献講読とディスカッション
- 第6回 情報、メディアと現代社会：文献講読とディスカッション
- 第7回 研究テーマの探求
- 第8回 研究課題の設定
- 第9回 研究方法
- 第10回 データ、資料収集法
- 第11回 データ、資料の分析と議論の展開
- 第12回 引用、参考文献の確認
- 第13回 個別発表とディスカッション
- 第14回 フィードバックの小論文への反映
- 第15回 まとめ：小論文の最終講評

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280151N0J
授 業 名 (Course Title)	漢文学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	朱 鳳
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業毎にプリントを配布する。
参考文献 (References)	『漢文入門』 小川環樹, 西田太郎著 岩波書店 1957
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

1. 漢文の基本的な読み方を把握する。
2. 句読及び訓点法の基本を把握する。
3. 漢文の内容及びその歴史背景を理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

授業ごとに短い漢文数編を読む。漢文の文法を理解した上で、日本語における独特な読み下し法もマスターする。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

漢文を読むことが基本である。漢文を熟読した上、文法や、日本語における読み方などを学習していく。漢文の内容を深く解読でき、訓点の付け方をマスターすることを最終目標とする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 指示に従って予習復習する。
 2. 授業の内容と関連する論文を数編読む。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
50時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- | | | |
|------|------------|-------------|
| 第1回 | イントロダクション | |
| 第2回 | 漢文とは何か | |
| 第3回 | 漢文文法概説 | |
| 第4回 | 『論語』の数編を読む | 漢文の助詞について |
| 第5回 | 『説苑』の数編を読む | 漢文の否定形について |
| 第6回 | 『説苑』の数編を読む | 漢文の仮定形について |
| 第7回 | 『論語』の数編を読む | 漢文の疑問形について |
| 第8回 | 発表 | |
| 第9回 | 『莊子』の数編を読む | 漢文の反語形について |
| 第10回 | 『莊子』の数編を読む | 漢文の許可表現について |
| 第11回 | 『孟子』の数編を読む | 漢文の使役形について |
| 第12回 | 『孟子』の数編を読む | 漢文の比較について |
| 第13回 | 『史記』の数編を読む | 漢文の受身形について |
| 第14回 | 『史記』の数編を読む | 漢文の命令形について |
| 第15回 | まとめ | |

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280152N0J
授 業 名 (Course Title)	西洋美術特論 美術史と図版の問題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	吉田 朋子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『Picturing Art History』 Ingrid R. Vermeulen Amsterdam University Press 2010
参考文献 (References)	適宜紹介する
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

美術史という研究分野を支える図版について、英語文献を読みながら考察する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・美術史に関する英語文献を精読する
- ・作品の複製という問題について考察を深める

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジユメをもとに議論する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

課題箇所を読み、担当者はレジユメを作成する。
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度50%・課題の成果50%とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- | | | |
|------|---------------------------------|------|
| 第1回 | イントロダクション | |
| 第2回 | 文献講読と議論 (1) | 1章1節 |
| 第3回 | 文献講読と議論 (2) | 1章2節 |
| 第4回 | 文献講読と議論 (3) | 1章3節 |
| 第5回 | 文献講読と議論 (4) | 2章1節 |
| 第6回 | 文献講読と議論 (5) | 2章2節 |
| 第7回 | 文献講読と議論 (6) | 2章3節 |
| 第8回 | 文献講読と議論 (7) | 2章4節 |
| 第9回 | 文献講読と議論 (8) | 3章1節 |
| 第10回 | 文献講読と議論 (9) | 3章2節 |
| 第11回 | 文献講読と議論 (10) | 3章3節 |
| 第12回 | 文献講読と議論 (11) | 3章4節 |
| 第13回 | 受講者による発表 (各自の研究における図版の位置づけについて) | |
| 第14回 | 受講者による発表 (現代の複製図版について) | |
| 第15回 | まとめ | |

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	280153N0J
授業名 (Course Title)	スピーチ・コミュニケーション 演習 日本語の話しことば教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	平野 美保
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配付する。
参考文献 (References)	『教育学研究の方法』 清水康敬他編著 教育工学会監修 ミネルヴァ書房 2012 『プロセス・エジュケーション』 津村 俊充 金子書房 2012 『現代日本のコミュニケーション研究』 日本コミュニケーション学会 三修社 2011 『教育実践論文としての教育学研究の まとめ方』 吉崎静夫・村川雅弘編著 ミネルヴァ書房 2016
備考 (Note)	選択必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語の話しことば教育 (支援) に関する内容と研究方法について把握する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

話しことばに関する教育について把握するとともに、研究方法について理解し、研究の方向性を固める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・前半は、話しことば教育に関する内容 (学校教育、生涯学習、一般書) についてまとめ、話しことば教育の内容を把握するとともに、問題点を検討する。

・後半は、話しことば教育に関する研究に参考になる教育学における研究方法について把握する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

・毎回の課題を準備する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
50時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 イントロダクション

第2回 学校教育における話しことば教育 (総合的な学習)

第3回 学校教育における話しことば教育 (指導と言語環境)

第4回 話しことばに関する生涯学習 (情報収集と分類)

第5回 話しことばに関する生涯学習 (課題の検討と企画)

第6回 話しことばに関する一般書の検討 (情報収集と分類)

第7回 話しことばに関する一般書の検討 (討議)

第8回 話しことば教育に関する研究方法 (教育学における方法論)

第9回 話しことば教育に関する研究方法 (教育学における研究方法)

第10回 話しことば教育に関する研究方法 (質的研究)

第11回 話しことば教育に関する研究方法 (質的調査法)

第12回 話しことば教育に関する研究方法 (質的データの取得方法)

第13回 話しことば教育に関する研究方法 (教育実践研究の特徴)

第14回 話しことば教育に関する研究方法 (教育実践論文のまとめ方)

第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。

講義コード (Course Code)	280154N0J
授業名 (Course Title)	スピーチ・コミュニケーション 特論 日本語の話しことばとその教育
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	平野 美保
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配付する。
参考文献 (References)	『現代日本のコミュニケーション研究』 日本コミュニケーション学会編 三修 社 2011 『非言語行動の心理学』 V.P.リッチモ ンド・J.C.マクロスキー 北大路書房 2006 『日本語の発声レッスン』 川和孝 新 水社 1981 『音声言語指導大事典』 高橋俊三 (編) 明治図書出版 1990
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

日本語の話しことばやその教育に関連する内容を理解するとともに、話しことばに関して深く理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・日本語の話しことばやその教育に関する文献を読むことによって、関連の内容を理解する。

・話しことばに関する技能向上に努めることによって、話しことばに関する理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

・文献を読み、担当者が作成したレジメをもとに議論する。

・話しことばに関する技能向上に努めることを通して、理論と実践との関連について考察する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

・毎回の課題を準備する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
50時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 話しことばの基礎 (呼吸法、発声・発音練習)

第2回 文献講読 (話し方の基本)

第3回 文献講読 (人間関係と話し方)、話しことばの基礎練習 (正確な発音)

第4回 文献講読 (聞き方の基本)、話しことばの基礎練習 (正確な発音)

第5回 文献講読 (音声表現)、話しことばの基礎練習 (滑舌練習)

第6回 文献講読 (音声言語指導の史的展開)、話しことばの基礎練習 (「外郎売」意味の確認と練習)

第7回 文献講読 (「話しことば」の社会心理)、話しことばの基礎練習 (「外郎売」練習)

第8回 文献講読 (朗読、詩の選定と練習)

第9回 文献講読 (群読 朗読 詩の本番)

第10回 文献講読 (話しことば教育の現状と課題<基礎>)

第11回 文献講読 (話しことば教育の現状と課題<応用>)

第12回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<初等教育>)

第13回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<中等教育>)

第14回 文献講読 (話しことば教育に関する実践報告<高等教育>)

第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークに行く場合がある。

講義コード (Course Code)	280161A0J～280161D0J・ 280161F0J～280161I0J・ 280161L0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅰ 研究テーマ・研究計画を決定する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 文献読解
 2. 読解した文献の整理
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第2回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第3回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第4回 修士論文における論文テーマの設定
- 第5回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第6回 研究の方法について (文献調査法)
- 第7回 研究の方法について (アンケート調査法)
- 第8回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
- 第9回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第10回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)
- 第11回 先行研究を知ることの意義
- 第12回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第13回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第14回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第15回 研究倫理について - 剽窃のことなど

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280162A0J～280162D0J・ 280162F0J～280162I0J・ 280162L0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅱ 研究の構想を決定する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 文献読解
 2. 読解した文献の整理
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A 4、900字×5枚) によって評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 論文テーマと論文作成の手順について
- 第2回 論文の構成
- 第3回 序論の役割
- 第4回 論文の体裁
- 第5回 先行研究についてまとめる
- 第6回 先行研究について発表する
- 第7回 先行研究について批評する
- 第8回 論文の文章 (文体と表記)
- 第9回 論文の文章 (表記と用語)
- 第10回 論述方法
- 第11回 論述の学術性
- 第12回 論文の注 (注記の原則)
- 第13回 論文の注 (注の形式)
- 第14回 論文の注 (欧文・和文の注)
- 第15回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280163A0J～280163D0J・ 280163F0J～280163I0J・ 280163L0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅲ 修士論文を作成する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表 (30分…口頭発表25分+質疑5分)の成績によって評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第2回 論文テーマの明確な設定
- 第3回 論文作成の手順の確認
- 第4回 論文構成の確認
- 第5回 先行研究の文献資料収集
- 第6回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第7回 書誌情報の分析
- 第8回 書誌情報の整理
- 第9回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第10回 論証の方法としての客観的論述 (論文の目的の明確化)
- 第11回 論証の方法としての客観的論述 (概念と定義の重要性)
- 第12回 論証の方法としての客観的論述 (概念化の重要性)
- 第13回 論証の方法としての客観的論述 (定義づけ)
- 第14回 論証の方法としての客観的論述 (まとめ)
- 第15回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	280164A0J～280164D0J・ 280164F0J～280164I0J・ 280164L0J
授業名 (Course Title)	特別研究Ⅳ 修士論文を完成する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	専任教員
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	担当の教員の指示による。
参考文献 (References)	授業の中で随時紹介する。
備考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文を完成し、成果発表を行う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各指導教員から個別に指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第2回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第3回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第4回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第5回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第6回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第7回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第8回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第9回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第10回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第11回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第12回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第13回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第14回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第15回 論文を完成する

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

講義コード (Course Code)	890001N0J
授 業 名 (Course Title)	教育人間学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	辻 敦子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	特に指定しない。
参考文献 (References)	講義内で提示する。
備 考 (Note)	研究科共通科目 修了に必要な単位と ならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生に向けて、「教育人間学」の歴史的展開を概説することで、「教育と人間」を問うことの意味について考える。教育人間学は、端的に言うところ「人間とは何か」「教育とは何か」そして、「人間にとって教育とは何か」を問う学問である。この問いに先立つのは、1920年代における人間の現実の生への関心に根差した哲学的人間学の展開がある。教育を考える上での歴史的な視座を培いながら、受講生がそれぞれに「教育と人間」をめぐる問いを練り上げることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

教育人間学に関わる講義を聞き、かつ、必要な文献を読むことをベースとして、自ら「教育と人間」を問う視座を培う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

基本的には講義形式で授業を進めるが、適宜ゼミ形式でのディスカッションを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回の課題文献を読み、理解を深める。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業での取り組み (50%) みおよび個別発表 (50%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション—教育と人間
- 第2回 人間とは何か
- 第3回 諸科学における人間の問われ方
- 第4回 文化人類学の展開
- 第5回 哲学的人間学の展開
- 第6回 子どもの人間学の展開
- 第7回 言語論的転回のインパクト
- 第8回 物語論のインパクト
- 第9回 他者論のインパクト
- 第10回 教育人間学における問いの転回
- 第11回 日本の教育人間学の展開①「関係」という観点
- 第12回 日本の教育人間学の展開②「臨床」という観点
- 第13回 日本の教育人間学の展開③「贈与」という観点
- 第14回 個人発表
- 第15回 まとめ—変容する教育人間学

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	890002N0J
授 業 名 (Course Title)	人間形成演習
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	辻 敦子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	特に指定しない
参考文献 (References)	講義内で提示する。
備 考 (Note)	研究科共通科目 修了に必要な単位と ならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この科目は、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生に向けて、教育観・子ども観・人間観を問い直す視座の形成を目指すものである。教育思想における重要なテーマである言語、身体、メディア、関係性、子ども、他者、経験などに関わる文献を精読したうえで、それぞれのテーマのつながりを考え、人間を立体的および変化の相において捉えるレッスンをを行う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

教育思想において重要なテーマについての文献を読み、受講生同士の議論を重ねることでテーマのつながりについて考察を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

授業ごとの担当者のレジュメをもとに、議論を通して各テーマの理解を深める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回テーマのテキストを読み、理解を深める。担当者は議論のベースとなるレジュメを作成する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業での取り組み (50%) 個人発表 (50%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション—教育と人間をめぐる問い
- 第2回 テキスト解釈—例) 身体
- 第3回 テキスト読解—例) 記号と言語
- 第4回 テキスト読解—例) メディア
- 第5回 テキスト読解—例) 主体
- 第6回 テキスト読解—例) 関係性
- 第7回 テキスト読解—例) 子ども
- 第8回 テキスト読解—例) 他者
- 第9回 テキスト読解—例) 悪
- 第10回 テキスト読解—例) 遊び
- 第11回 テキスト読解—例) 模倣
- 第12回 テキスト読解—例) 物語
- 第13回 テキスト読解—例) 贈与と交換
- 第14回 個人発表
- 第15回 まとめ—再び、教育と人間をめぐる問い

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270012N0J
授 業 名 (Course Title)	認知機構特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	廣瀬 直哉
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『Cognitive Neuroscience: A Very Short Introduction』 Richard Passingham Oxford Univ Press 2016 『The Cambridge Handbook of Cognitive Science』 Keith Frankish, William Ramsey Cambridge University Press 2012
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

人間の認知のメカニズムを科学的に分析し、その過程を理解するには、心理学のみならず、幅広い学問を含んだ学際的な研究に触れることが必要である。特に、認知神経科学の研究は以前は仮説構成体でしかなかった認知モジュールの神経基盤を解明しつつある。本特論では、認知神経科学や認知科学の最近の知見に触れ、人間の認知機構についての理解を深めることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 認知過程の神経基盤についての理解
2. 知覚・記憶などの基礎的認知メカニズムについての理解
3. 言語・思考などの高次の認知過程についての理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する英語文献を読んでもらい、議論行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
45時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

テストは実施せず、授業参加度 (100%) により評価を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 認知機構の神経基盤
- 第3回 視覚
- 第4回 聴覚
- 第5回 認知
- 第6回 記憶
- 第7回 学習
- 第8回 知識
- 第9回 言語
- 第10回 意識
- 第11回 感情
- 第12回 概念
- 第13回 意思決定
- 第14回 問題解決
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

英語の書籍、論文を読み進めるので、英文読解が得意でない学生は予習にかなりの時間がかかることを覚悟した上で受講すること。なお、受講生の人数や関心により、授業内容や課題を変更することがある。

講義コード (Course Code)	270013N0J
授 業 名 (Course Title)	心理統計学特論 (多変量解析)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	藤島 寛
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『多変量データ解析法』 足立浩平 ナカニシヤ出版 2006 『共分散構造分析[Amos編]』 豊田秀樹 東京図書 2007 『因子分析法第2版』 芝祐順 東京大学出版会 1995
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学における研究対象の中から、多様で多くの変量 (変数) を含むデータの統計的解析法である多変量解析について、その技法の基本的理論と応用的実践的技法を習得する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

本特論では、多変量解析の基本としてデータ構造とその表現について習得するとともに、主要な変数を抽出する為の方法として主成分分析、因子分析、項目分析、及び変数間の因果関係を検討する為の方法として重回帰分析、共分散構造分析を習得する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

多変量解析の基本的理論に関する講義とともに、質問紙によって得られたデータを用いた因子分析による質問紙の洗練化、及び変数間の因果関係の分析を実習する。使用ソフトは、主にSPSS、AMOSを使用する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義開始前に準備することはありません。講義が開始されてからは、講義で行ったことを復習してから次の講義に出席すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義時に行われる実習の理解内容に基づいた平常点 (100%) により評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 質的研究と量的研究
- 第2回 多変量解析概説一分類と因果関係の推測
- 第3回 データの中心化傾向と散布度、標準得点
- 第4回 クラスター分析、主成分分析
- 第5回 因子分析の基本
- 第6回 直交回転と斜交回転
- 第7回 因子パターン
- 第8回 主因子法と最尤法
- 第9回 確認的因子分析
- 第10回 パス図と内的整合性の関係
- 第11回 相関と共分散による因果関係の検討
- 第12回 重回帰分析とパス解析
- 第13回 モデルの修正について
- 第14回 モデルの適合度指標について
- 第15回 最終的なパス・モデルの決定について

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義には、行列式などの数学的知識やSPSSなどの統計ソフトの使用方法を前もって理解しておく必要はありません。

講義コード (Course Code)	270014N0J
授業名 (Course Title)	心理統計学特論 (少数例統計) 実験、調査データ分析の基礎を身につける
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	森下 正修
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検討するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、心理・教育分野のデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

教育や臨床などあらゆる心理学分野で必要とされる記述統計全般と、無相関検定、t検定、分散分析、カイ二乗検定といった推測統計について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上で分析を実習してもらいます。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認してください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義内容を踏まえ、自分の研究計画に基づくデータについての統計処理を実施した期末レポートを提出してもらいます。評価は授業参加度 (30%)、レポート (70%) の比率とします。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス、イントロダクション
- 第2回 記述統計① 度数分布、ヒストグラム
- 第3回 記述統計② 代表値、散布度
- 第4回 記述統計③ データの変換、標準化
- 第5回 相関分析① 散布図、ピアソンの積率相関係数、無相関検定
- 第6回 相関分析② 偏相関、順位相関係数
- 第7回 t検定① t検定 (対応のある場合)
- 第8回 t検定② t検定 (対応のない場合)、1サンプルのt検定
- 第9回 分散分析① 1要因分散分析 (対応のない場合)
- 第10回 分散分析② 1要因分散分析 (対応のある場合)
- 第11回 分散分析③ 2要因分散分析 (分析の流れ)
- 第12回 分散分析④ 2要因分散分析 (実施手順)
- 第13回 分散分析⑤ 3要因分散分析
- 第14回 名義尺度データの分析① カイ二乗検定 (変数が1つの場合)
- 第15回 名義尺度データの分析② カイ二乗検定 (クロス集計)、コクランのQ検定

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270015N0J
授業名 (Course Title)	心理学研究法特論 より良い研究計画をたてるために
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	森下 正修
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を整合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとするのが、現代の心理学研究には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討すること、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。学校・教育現場において子どもたちを対象とした調査を行う場合、研究者や教師の主観的な評価のみならず、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライアントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後は、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、どういった点に留意すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的なポイントについて、子どもから成人まで幅広いサンプルを対象とした研究例をもとに解説してゆきます。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どのような方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってもらいます。評価の比率は、授業参加度 (30%)、レポート発表 (70%) です。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス、イントロダクション
- 第2回 心理学研究における科学性と倫理
- 第3回 研究計画の基礎① 独立変数と従属変数
- 第4回 研究計画の基礎② 参加者間計画と参加者内計画
- 第5回 研究計画の基礎③ 統制 (参加者間計画)
- 第6回 研究計画の基礎④ 統制 (参加者内計画)
- 第7回 研究・統計の批判的検討① 欠陥・不備の指摘
- 第8回 研究・統計の批判的検討② 構成要素の置換、新規要素の追加
- 第9回 クリティカル・リーディング
- 第10回 研究論文の執筆法
- 第11回 研究実践① 実験法
- 第12回 研究実践② 質問紙調査法
- 第13回 研究実践③ 質的研究法
- 第14回 レポート発表① 先行研究に対する批判的検討の報告
- 第15回 レポート発表② 先行研究に対する批判的検討についての評価

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270032N0J
授業名 (Course Title)	発達心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	高井 直美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に指示する。
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻は必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

ピアジェ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達過程や個人差について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。なお、本科目は臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の1、2、3、12を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。
- ・健常の幼児・児童の発達を支援する教員の役割
- ・発達に問題がある幼児・児童に対しての、教員による支援の関わり
- ・発達の理論を教職場面に適用する意義等

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。発達に問題が生じている子ども、さらに障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害の支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援のさまざまな実践について理解する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

大学院に入学する前に学んだ基礎的な発達理論について、復習しておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の文献発表を30%、レポートを70%として、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 生涯発達と臨床発達心理学－発達心理学の歴史と個体と環境の相互作用など－
- 第2回 発達のとらえ方－発達段階と発達の連続・非連続など－
- 第3回 発達の生物学的基礎について
- 第4回 発達の基礎理論①－精神分析理論とアタッチメント理論など－
- 第5回 発達の基礎理論②－ピアジェの発生的認識論－
- 第6回 発達の基礎理論③－心理社会的発達段階論、ヴィゴツキーの理論－
- 第7回 臨床発達心理学における発達の視点とは
- 第8回 実践研究・事例研究の検討①－最新の研究例から－
- 第9回 実践研究・事例研究の検討②－事例研究の方法－
- 第10回 実践研究・事例研究の検討③－アクションリサーチの例－
- 第11回 実践研究まとめと研究上の倫理的配慮について
- 第12回 発達の基礎理論④－行動理論と応用行動分析－
- 第13回 発達障害のとらえ方と支援－発達アセスメントについて－
- 第14回 発達支援の具体的な方法
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

順番は変わることがある。

講義コード (Course Code)	270033N0J
授業名 (Course Title)	乳幼児心理学特論 人の一生：乳幼児期の発達と臨床的課題
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	磯部 美也子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	集中講義の前に別途指示します
参考文献 (References)	『対話で学ぶ発達心理学』 塩見邦雄編 ナカニシヤ出版 2004 『乳幼児の心理－コミュニケーションと自我の発達 (コンパクト新心理学ライブラリ)』 麻生武 サイエンス社 『よくわかる乳幼児心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』 内田伸子 ミネルヴァ書房 2008 テーマに応じて適宜紹介します。
備考 (Note)	新版K式発達検査に関するもの 隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

乳幼児心理学特論では、乳幼児の発達理解を中心に、人間の身体的・生物学的・認知的発達研究の知見を共有するとともに具体的な幼児期の発達に関する理解を深めていく。特に現場における諸問題、たとえば乳幼児期の言語発達の遅れ、発達障害、特に自閉症、ADHD、その後の発達に見られる諸問題を幼児教育・発達心理学の観点から事例等を示しながら具体化し、保育・教育現場に活用可能な状態を目指す。

理論と実践の両面から、乳幼児の発達の様相とその課題を論じることができ、現在の臨床的課題を理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1. 乳幼児発達心理学の知見をテキストと種々の文献からまとめ、講義との関連を深める。
- 2. 発達理論を整理し、互いにどのような関係にあるのかを考える。
- 3. 発達研究における方法論を明確にし、具体的な形で方法論を展開する。
- 4. 発達臨床の視点から、乳幼児期にみられる臨床的課題や障害の問題を理解する
- 5. 言語の発達の評価と支援について理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義と授業中でのディスカッション、関連事項の個別プレゼンテーション、先行論文の発表などを実施する。適宜個別に小課題を出す。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

発達心理学の乳幼児期のトピックを復習しておく。
新版K式発達検査の乳幼児期について、どのような項目があるのか学習しておくことが望ましい。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (20%) 課題のレポート・プレゼンテーション (40%)、小テスト (40%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 乳幼児心理学、発達心理学に関する概要、基礎理論
- 第2回 胎児・乳児の認知能力、乳幼児の運動発達
- 第3回 社会性、感情の発達
- 第4回 幼児期の認知発達・心の理論
- 第5回 愛着理論と愛着にかかわる諸問題
- 第6回 乳幼児期の発達評価
- 第7回 言語発達の評価と支援 (1) 言語発達評価と診断の要点
- 第8回 (2) 言語発達支援の現代的問題と支援の場
- 第9回 (3) 言語発達段階に即した対応
- 第10回 (4) 場面に即した対応 (5) 言語発達評価と支援の実際
- 第11回 幼児期の発達の諸問題、発達の障害 (1)
- 第12回 幼児期の発達の諸問題、発達の障害 (2) 事例を中心に
- 第13回 個人発表
- 第14回 個人発表
- 第15回 個人発表、全体的まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270034N0J
授 業 名 (Course Title)	青年心理学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	松島 るみ
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。

本科目では、青年期における心身の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係(友人関係・恋愛関係)、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 青年期の発達の諸相について理解を深める。
2. 青年期に生じる諸問題を考察する。
3. 現代青年における諸問題に関して理解を深める。
4. 青年期に関する各自の問題意識を啓発する。
5. 青年を対象とした研究法について理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 講義形式と演習形式(論文講読)を並行して授業を進める。
2. 講義では、教科書は使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。
3. 演習(論文講読)では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
4. ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を進展させる態度が望まれる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
2. 次の授業内容について概要を把握しておくこと。
3. 発表に際しては、論文を精読し、発表用スライド(レジュメ)を作成すること。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート(40%)、発表と討論参加(60%)を総合して評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 青年期と現代青年における課題
- 第2回 青年心理学の研究法
- 第3回 青年期における身体と心
- 第4回 青年期における自己形成(自我の発達・アイデンティティ)
- 第5回 論文講読発表と討論(自己形成に関して)
- 第6回 青年期における対人関係①(友人関係)
- 第7回 青年期における対人関係②(恋愛関係)
- 第8回 論文講読発表と討論(対人関係に関して)
- 第9回 青年期とメディアの関わり
- 第10回 論文講読発表と討論(メディアとの関わりに関して)
- 第11回 青年期におけるジェンダー・セクシュアリティ
- 第12回 青年期における適応・不適応
- 第13回 論文講読発表と討論(ジェンダー・セクシュアリティ/適応・不適応に関して)
- 第14回 青年期における進路・キャリア選択
- 第15回 論文講読発表と討論(進路・キャリア選択に関して)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270051N0J
授 業 名 (Course Title)	学校心理学特論 I (学習心理)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	廣瀬 直哉
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	発達・学校心理学専攻は必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

学習は、心理学において古くから取り上げられてきた古典的なテーマの一つである。また、近年の学習科学などの新たな領域においても、学習は中心的な概念として取り上げられている。心理学における学習の研究は、知覚=運動学習、概念学習、社会的学習など幅広い分野で行われているが、本特論では、主に学校教育における学習の過程に焦点を当てる。そして、学習に関する心理学分野での最近の文献をもとにして、学習を支援する学校教育の役割について考察を深めて行きたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習に対する心理学的アプローチの理解
2. 様々な知識の獲得過程についての理解
3. 学習における協調と学習環境についての理解
4. 学習における動機づけと学習指導についての理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する文献を読んでもらい、議論を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

定期テストは実施せず、授業参加度(100%)により評価を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学習についての心理学
- 第2回 学習の理論
- 第3回 記憶と知識獲得
- 第4回 言語的知識の獲得
- 第5回 数学的知識の獲得
- 第6回 科学的知識の獲得
- 第7回 問題解決と理解
- 第8回 内発的動機づけ
- 第9回 達成目標理論
- 第10回 個人差と学習
- 第11回 学級集団
- 第12回 教師の役割
- 第13回 状況的学習
- 第14回 学習環境のデザイン
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の人数や関心により、授業や課題の内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	270052N0J
授業名 (Course Title)	学校心理学特論Ⅱ (教育理論) スクールカウンセラーの役割と教育理論を知る
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『学校心理学ガイドブック 第3版』 学校心理士資格認定委員会 風間書房 2012 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』 Jean Lave・Etienne Wenger 著, 佐伯 胖 訳 産業図書 1993
参考文献 (References)	『学校心理士の実践:幼稚園・小学校編 (講座「学校心理士—理論と実践」)』 『学校心理士』 認定運営機構 北大路書房 2004
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

教育および学校心理学の基礎理論を学び、スクールカウンセラーの役割を知る

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

スクールカウンセラーの実情を知る。
教育理論の実践的展開の方法を知る

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

毎回、輪番による発表を行う。ディスカッションを中心に据え、各自の研究テーマと課題との接点を探る。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストの指定された範囲を読んでおくこと。

新しい情報は、Webやニュースなどからできる限り広く情報収集しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート (50%) : 期間中に3回程度

発表, および授業に参加する態度 (50%) : 発表の内容, および授業時の参加意欲を自己評価し点数化する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 イントロダクション

第2回 教育とは、学校心理学とは

第3回 学校心理学の基礎理論

第4回 初等中等教育現場で起こっている問題 (1) 不登校, ひきこもりの問題

第5回 初等中等教育現場で起こっている問題 (2) 学習障害など障害の問題

第6回 初等中等教育現場で起こっている問題 (3) いじめ, 非行等の問題

第7回 学校心理士の活動 (1) アセスメント

第8回 学校心理士の活動 (2) コンサルテーション

第9回 学校心理士の活動 (3) カウンセリング

第10回 教師保護者と学校心理士の連携 (1) 教職員との連携

第11回 教師保護者と学校心理士の連携 (2) 保護者との連携

第12回 教師保護者と学校心理士の連携 (3) 地域・関係機関との連携

第13回 学校心理士の倫理 (1) 人権の尊重と責任の保持

第14回 学校心理士の倫理 (2) 秘密保持と援助サービスへの介入

第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

基本的に出席を重視します。
個々の研究課題における学校心理学や教育理論に関する論文等の文献は積極的に持ち寄ってください。

上記、授業計画は、受講生の状況によって柔軟に対応する予定です。

講義コード (Course Code)	270053N0J
授業名 (Course Title)	教育方法学特論 様々な教育の方法について科学的に理解する
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『教育の方法』 井上智義他 樹村房 2007 『ファシリテーション・グラフィック』 堀公俊他 日本経済新聞 2006
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

言語活動と各教科の教育方法の関係について理解を進め、思考力と表現力と対話力の育成を考えた教育の方法について理解する。情報機器の活用を含めた、主体的な学習の方法について、学習者の立場から研究する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・教育方法学についてその研究の方法と意義を理解する。

・各教科における言語活動の位置を整理する。

・コミュニケーションの方法について理解をすすめる。

・情報の活用について、その学習効果を心理統計を交えながら研究する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

さまざまな教育方法を実際に行う。

さまざまな教育方法を含めた、ワークショップをデザインし、実践し、その効果を検討する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

企業研修で行われる教育方法も含めた多くの教育方法を積極的に体験する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ワークショップ・デザインに有効な方法をどの程度学習できたかを、自己評価する。また、自分なりのワークショップをデザインし、その有効性について相互評価と自己評価をする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 オリエンテーション

第2回 各教科における言語活動

第3回 各教科に共通に役立つ言語活動

第4回 アイスブレイクの方法

第5回 チームビルディングの方法

第6回 ワールド・カフェの方法

第7回 アクション・ラーニングの方法

第8回 ファシリテーション・グラフィックの方法

第9回 タブレットPC・ミーティングの方法

第10回 ポスターセッションの方法

第11回 ワorkshop・デザインの方法

第12回 ワorkshop・デザインの実践

第13回 効果の測定について

第14回 情報を活用した教育方法に関する文献の講読

第15回 自己評価

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークを数回行う。そのための交通費・参加費等が実費でかかる可能性がある。参考文献は、その都度紹介する。文献等は自分で検索し、積極的に教員に質問するなど、自ら学ぶ姿勢が必要である。

講義コード (Course Code)	270054N0J
授業名 (Course Title)	教育・心理検査特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	松島 るみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では、臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントについて理解を深め、多様なアセスメントの方法を学ぶのと同様に、心理検査についての実施や採点、解釈や支援の方法について学ぶことを目的とする。また、発達の視点にもとづく支援について、フォーマルアセスメント（面接、行動観察、検査、成績など）および家庭環境や家族関係、人間関係などに見られるインフォーマルアセスメントを理解し、検査結果の支援への活用について学ぶ。心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的な背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の発達に対する理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、臨床発達や学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。なお、本科目は、臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の6、7、9を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントの目的や方法、アセスメントから支援の方法について理解すること。
- ・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
- ・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生による発表とディスカッション、心理検査の実習を中心に授業を進める。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- ・発表に関して事前に関連文献に目を通したり、心理検査の背景や方法について調べておくこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 臨床発達支援の基本的視点と心理・教育的アセスメント
- 第2回 臨床発達心理学および心理・教育的アセスメントの方法
- 第3回 心理検査の活用
- 第4回 学級・学校アセスメント
- 第5回 教育評価
- 第6回 個別知能検査（ウェクスラー式知能検査：WISC-IVを中心に）の概要／フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント
- 第7回 VCI検査の実施方法
- 第8回 PRI検査実施の実施方法
- 第9回 WMI検査の実施方法
- 第10回 PSI検査の実施方法
- 第11回 WISC-IV結果の処理（基礎）および心理検査の統計基礎知識
- 第12回 WISC-IV結果の処理（応用）
- 第13回 支援活動の展開（検査結果による指導計画への発展）
- 第14回 その他の個別知能検査（K-ABC II等）の実施
- 第15回 その他の個別知能検査（K-ABC II等）の解釈

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270057N0J
授業名 (Course Title)	学校臨床心理学実習 子どもの発達理解に基づく心理教育的 援助技法の習得
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	藤田 未央
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業中に配布する資料の他は、適宜指示する。
参考文献 (References)	『実践グループカウンセリングー子どもが育ちあう学級集団づくりー』 田上不二夫 (編著) 金子書房 2010 『学童期の支援ー特別支援教育をふまえてー』 長崎勤・藤野博 (編著) ミネルヴァ書房 2011 『発達障害のある子の自立に向けた支援』 萩原拓 金子書房 2015
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもの心身の発達過程を理解し、それに基づき特に児童・生徒で発達支援を必要とする対象者のライフステージに合わせた問題の理解を深める。
また、児童・生徒への直接的支援方法であるカウンセリングやグループカウンセリングの理論や技術を習得する。加えて、問題を抱える子どもに関わる保護者や教師へのコンサルテーションやコーディネートについての知識と技術も実践的に習得することを目標とする。なお、本科目は臨床発達心理士科目の「臨床発達支援の専門性に関する科目」の3、6、8を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1.子どものライフステージに合わせた心身発達の過程を理解する。
- 2.子どもへの直接的支援方法（グループ支援、個別支援）を実践的に理解する。
- 3.カウンセリング等、支援技法の習得
- 4.保護者、教師等の心理状態を理解し、組織との関係性について理解を深める
- 5.保護者、教師等へのコンサルテーション、コーディネートを実践的に理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

児童・生徒の心理、保護者、教師の心理についての理解と支援技法の理論を基礎として、仮想事例の見立てや面接のロールプレイを中心とした実習により実践的に発達および教育的支援方法を習得する。

- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- 授業課題で指定されたテーマや文献に関して、事前の下調べや通読をしておくこと。授業後には、理解不十分であった箇所を振り返り、次回の授業での質問等の準備をしておくこと。また、実施する心理検査等についても、あらかじめテキストやマニュアルに目を通して予習をしておくことが望ましい。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・実習への取り組み態度 (45%)、ディスカッション (30%)、課題作成 (25%) を評価対象とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学校における支援ニーズと相談支援のあり方
- 第2回 幼児・児童・生徒における心理的問題の把握
- 第3回 クラスにおける人間関係形成に関する実習（技法の理解と実際）
- 第4回 クラスにおける人間関係形成に関する実習（評価）
- 第5回 子どもへの直接支援実習（カウンセリングにおける態度と技法）
- 第6回 子どもへの直接支援実習（RP:子どもの立場）
- 第7回 子どもへの直接支援実習（RP:支援者の立場）
- 第8回 子どもへの直接支援実習（RPの総合評価）
- 第9回 育児支援の実際と支援実習（RP:保護者の立場）
- 第10回 育児支援の実際と支援実習（RPの評価）
- 第11回 学校における支援（教師へのコンサルテーションについての実習）
- 第12回 教師へのコンサルテーションについての実習（事例検討）
- 第13回 校内連携に関するグループ実習（模擬カンファレンス）
- 第14回 校内連携に関するグループ実習（評価）
- 第15回 支援における倫理・まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

講義コード (Course Code)	270058N0J
授業名 (Course Title)	特別支援アセスメント実習 発達支援の理論と方法に関する実践力養成
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	薦田 未央
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	適宜、参考資料を配布する。また、使用する検査用具・マニュアル等も貸出とする。
参考文献 (References)	『WISC-IVの臨床的利用と解釈』 プリフィテラ,A.,サクロフスキー,D.H.,ワイス,L.G.(編)／上野一彦・(監訳) 日本文化科学社 2012 『新版K式発達検査にもとづく発達研究の方法』 中瀬惇 ナカニシヤ出版 2005 『学童期の支援—特別支援教育をふまえて—』 長崎勤・藤野博編著 ミネルヴァ書房 2011 『発達障害の療育』 尾崎康子・三宅篤子【編著】 ミネルヴァ書房 2016 その他は授業中に紹介する。
備考 (Note)	

- 第11回 児童・生徒アセスメント実習 (知能検査結果の解釈と所見のまとめ方)
- 第12回 児童生徒に関する個別の指導計画・教育支援方針の作成
- 第13回 療育、就学、教育相談等における保護者支援、コンサルテーション、(アセスメント結果の活用)
- 第14回 仮想事例によるケースワーク (支援プログラム・支援方法の検討)
- 第15回 療育、保育、教育現場における支援体制と連携について

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

1. 科目の研究目標 (Course Description)

乳幼児および就学後の児童・生徒で発達支援を必要とする対象者理解と支援技術を習得する。特に、療育、保育、教育（特別支援教育）の現場で必要とされる臨床発達心理学および教育心理学の専門知識や発達支援、教育支援に関する理論やアセスメント方法など専門的技術の習得を目標とする。

なお、本科目は「DP科目」の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」5.8.11を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 就学前後における、気になる子どもの困りや障害特性、実態を理解する。
2. 特別支援教育における理念と意義を理解し、現代社会における発達支援への理解を深める。
3. 子どもの状態を把握するアセスメント方法（発達検査、知能検査等）の習得。
4. アセスメント結果の解釈と個別の支援計画の作成を行う。
5. アセスメントに基づく発達支援の基本的技法に関する知識を習得。
6. 教育機関、発達支援機関との協働・連携についての理解と方法を学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

理論の理解を基礎として、ロールプレイや提示事例の解釈等を実習し、実践的に心理検査に関する技術や発達および教育的支援方法を習得する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で実施する発達検査、知能検査に関する理論、および実施方法についてはテキストやマニュアルに事前に目を通しておくこと。また、検査実習後のデータの整理、所見の書き方についても復習のうえ、各自で作成し、次の授業までに準備しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・実習への取り組み態度 (30%)、課題作成 (40%)、ディスカッション (30%) を評価対象とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 現代社会における発達支援
- 第2回 発達支援における医学的情報に関する知識とその利用
- 第3回 発達支援における心理士の高度専門性
- 第4回 発達支援の流れと基本的技法 (インテークから具体的支援までの概説)
- 第5回 保育支援の実際 (保育所・幼稚園・療育機関等でのアセスメントの概説)
- 第6回 乳幼児アセスメント実習 (発達検査の実施)
- 第7回 乳幼児アセスメント実習 (発達検査結果の解釈と所見のまとめ方)
- 第8回 乳幼児に関する指導・支援計画の作成
- 第9回 学童期・中・高校生における支援 (学校・教育相談機関等でのアセスメントの概説)
- 第10回 児童・生徒アセスメント実習 (知能検査の実施)

講義コード (Course Code)	270060N0J
授業名 (Course Title)	生徒指導・キャリア教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	尾崎 仁美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本特論では、生徒指導およびキャリア教育の理念や内容について理解を深めるとともに、具体的なキャリア教育実践の検討を通して、児童生徒の肉体的成長を導く生徒指導・キャリア教育のあり方を考察する。また、キャリアやキャリア発達に関する諸理論、およびキャリア・カウンセリングの理論や技法についても学び、一人ひとりの内面を理解し、個に応じた支援を行うために必要な視点を培う。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 生徒指導およびキャリア教育について理解を深める。
2. キャリアやキャリア発達に関する理論を学ぶ。
3. 具体的なキャリア教育実践の検討を通して、児童生徒や若年者に対するキャリア形成の支援のあり方を考える。
4. キャリア・カウンセリングの理論や技法について理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、および受講生による発表とディスカッションにより授業を行う。文献は、授業中に指示する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に文献を指示するので、事前に読んでおくこと。また、発表に際しては、文献を精読し、レジュメを作成することが求められる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表、ディスカッションへの参加状況、レポートなどから総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 生徒指導とは
- 第2回 キャリア教育とは
- 第3回 キャリアの基礎理論①特性・因子論アプローチ
- 第4回 キャリアの基礎理論②キャリア発達理論
- 第5回 キャリアの基礎理論③社会的認知理論
- 第6回 キャリアの基礎理論④近年のキャリア理論
- 第7回 キャリア教育の具体的な展開①小学校におけるキャリア教育
- 第8回 キャリア教育の具体的な展開②中学・高等学校におけるキャリア教育
- 第9回 キャリア教育の具体的な展開③大学におけるキャリア教育
- 第10回 若年者のキャリアをめぐる意識
- 第11回 若年者のキャリア形成支援
- 第12回 キャリア・カウンセリングの理論と技法
- 第13回 キャリア・カウンセリングの実践
- 第14回 キャリア教育の課題
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270072N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学特論 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	伊藤 一美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『テキスト臨床心理学1「理論と方法」』 デビソンG.C.ほか 誠信書房 2007 『テキスト臨床心理学2「研究と倫理」』 デビソンG.C.ほか 誠信書房 2007
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) こころの問題における「異常」とは何かについて理解と想像力を習得する。
- (2) 臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。
- (3) 臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。
- (4) 臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。
- (5) 自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。

講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習 I」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

分担発表や討論を含む授業参加度、期末レポート課題から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 異常とはなにか
- 第3回 臨床心理学的アセスメントの考え方
- 第4回 臨床心理学的介入 (1) 人間学・実存主義パラダイム
- 第5回 臨床心理学的介入 (2) 精神分析的パラダイム
- 第6回 臨床心理学的介入 (3) 学習理論パラダイム
- 第7回 臨床心理学的介入 (4) 認知理論パラダイム
- 第8回 臨床心理学的介入 (5) 生物学パラダイム
- 第9回 臨床心理学的介入 (6) 集団への介入 (グループ・夫婦・家族)
- 第10回 臨床心理学的介入 (7) コミュニティ心理学
- 第11回 臨床心理学的介入 (8) 統合的アプローチ
- 第12回 臨床心理学における研究方法
- 第13回 臨床心理学研究における倫理の問題
- 第14回 各自の心理臨床実践から考える
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270073N0J
授業名 (Course Title)	心理療法特論 統合的アプローチを学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	杉原 保史
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『技法としてのカウンセリング入門』 杉原保史 創元社 2012
参考文献 (References)	『心理療法の統合を求めて』 ワクテル P 金剛出版 2002 『心理療法家の言葉の技術』 ワクテル P 金剛出版 2004 『説得と治療』 フランクとフランク 金剛出版 2007 『統合的アプローチによる心理援助』 杉原保史 金剛出版 2009
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか1つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか1つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的なアプローチについて理論的に学ぶ／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストの購読、配布資料の精読。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を50%、レポートを50%として行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 統合的アプローチとは
- 第2回 学派とは何か
- 第3回 学派を超えて共通する治療要因
- 第4回 カウンセラーの話の聴き方について
- 第5回 カウンセリングのデモンストレーション
- 第6回 ポールワクテルの循環的心理力動論 (エクスポージャーについて)
- 第7回 ポールワクテルの循環的心理力動論 (トゥー・パーソンの視点)
- 第8回 ポールワクテルの循環的心理力動論 (積極的介入の必要性)
- 第9回 マインドフルネス瞑想
- 第10回 ロールプレイ実習
- 第11回 加速化体験力動療法 (愛着トラウマ)
- 第12回 加速化体験力動療法 (トランスフォーマンス)
- 第13回 加速化体験力動療法 (瞬間、瞬間のトラッキング)
- 第14回 カウンセラーの言葉の技術 (非難的メタメッセージを避ける)
- 第15回 カウンセラーの言葉の技術 (帰属的解釈)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270075N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理面接特論Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	空間 美智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際の関わり方の姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のものとのとらえ方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わり方のあり方を模索することが大切である。

「臨床心理面接特論Ⅱ」では、「臨床心理面接特論Ⅰ」に引き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。
- (2) 傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。
- (3) 臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

(1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う (使用する文献については、授業時間中に指示する)。

(2) 体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

(1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。

(2) 臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢 (70%)、レポートの内容 (30%) から、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 面接に関わる文献講読 (面接技法の歴史と理論)
- 第3回 ロールプレイと振り返り (面接技法の歴史と理論)
- 第4回 面接に関わる文献講読 (面接の基本姿勢)
- 第5回 ロールプレイと振り返り (面接の基本姿勢)
- 第6回 面接に関わる文献講読 (傾聴、関係性構築)
- 第7回 ロールプレイと振り返り (傾聴、関係性構築)
- 第8回 面接に関わる文献講読 (アセスメントとフィードバック)
- 第9回 ロールプレイと振り返り (アセスメントとフィードバック)
- 第10回 技法の実習 (機能的アセスメント)
- 第11回 技法の実習 (セルフモニタリング)
- 第12回 技法の実習 (動機づけ面接)
- 第13回 技法の実習 (アサーション)
- 第14回 技法の実習 (社会的スキル訓練)
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270103N0J
授 業 名 (Course Title)	児童精神医学特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	久保田 泰考
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『ニューロサイコアナリシスへの招待』 岸本寛史編 誠信書房 2015 『ニューロラカン：脳とフロイトの無意識のリアル』 久保田泰考 誠信書房 2017
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

児童精神医学領域で扱われる精神疾患について学び、思春期・成人の精神病理についても広く学習する。さらに神経科学の知識も深め、これと精神分析の知の方法との双方向的視野に立ったニューロサイコアナリシスの観点から精神障害・神経発達障害を理解することを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理
子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連

脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤

子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害

自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型
子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義形式中心で毎回資料を配布。学生側からのフィードバックや復讐内容、要望に応じて、講義内容を柔軟に調整・変更する。症例検討や映像資料の供覧も必要に応じて行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起 (30%)、レポート2回 (70%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か
- 第2回 神経症1：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
- 第3回 神経症2：愛着理論から神経症概念を見直す、情動アセスメントの考え方と実際
- 第4回 精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
- 第5回 症例検討1：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
- 第6回 自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症 (ASD) について
- 第7回 症例検討2：ASDの社会・情動発達、ケース報告とフィードバックのすすめ方
- 第8回 感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
- 第9回 PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的支援のすすめ方
- 第10回 強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
- 第11回 境界型パーソナリティー障害：ボーダーラインの概念、治療について
- 第12回 臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
- 第13回 臨床心理学 (4) 学校における児童生徒の問題
- 第14回 臨床心理学 (5) 心理臨床などの専門家と専門機関
- 第15回 症例検討3：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。

講義コード (Course Code)	270108N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理学特論Ⅱ 心理療法の基礎を学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	田中 誉樹
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業中に指示する。
参考文献 (References)	授業中に指示する。
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この講義は、臨床心理学の諸理論について、できるだけ幅広く、偏りなく概観することによって、基本的な知識を習得し、尚且つ、心理臨床家として他者を理解し、援助するための基本的な態度、方法、倫理などについても学ぶことを目的としている。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

① 心理療法を行うために必要とされる臨床心理学的な知識、態度を文献や議論を通して身につけていく。

② クライアントとセラピストの関係性 (治療関係、転移、逆転移など) の問題について、文献や事例などを通して、様々な角度から検討、考察していく。

③ 発達障がい、リストカットやオーバードーズ、摂食障害、ボーダーラインなど、現代の青年に多く見られる心理的問題について、適宜、臨床心理学的観点から考察する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学生による発表と討論、教員による解説を基本とする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業は、学生による発表形式で行うので、発表担当者は勿論、他の学生も次の授業で扱う範囲を、自分で文献を選んで大筋を理解しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表内容と質、出席、受講態度を含めた総合評価による。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション (臨床心理学とは、どういう学問か)
- 第2回 精神分析 (フロイト)
- 第3回 分析心理学 (ユング)
- 第4回 対象関係論
- 第5回 無意識あるかないか。
- 第6回 家族療法 (システム理論)
- 第7回 来談者中心療法 (ロジャーズ)
- 第8回 プレイセラピー
- 第9回 実存的心理療法 (レイン)
- 第10回 認知行動療法
- 第11回 臨床心理学の人間論
- 第12回 臨床心理学と医療
- 第13回 臨床心理学と福祉
- 第14回 臨床心理学と教育
- 第15回 臨床心理学と倫理

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

学生には、積極的な授業参加 (自発的な発言、文献資料への取り組み) が求められる。参考文献は授業中に適宜指示する。

講義コード (Course Code)	270115N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床発達心理学実習Ⅰ 乳幼児と親のための子育て支援教室「こがもクラブ」での実践
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・薦田 未央
単 位 数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	用いない。
参考文献 (References)	授業中に紹介する。
備 考 (Note)	連続2コマ

1. 科目の研究目標 (Course Description)

子どもの精神発達の援助、および親への育児支援に関して、学内で実施する子育て支援プログラムの場で実習する。
なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の受験資格条件となる「臨床実習」(合計200時間)の一部に充てられるものとして選定される予定である。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

通年で、特定かつ複数の子どもと関わることを通じて、乳幼児期の精神発達の過程を理解し、発達を支える方法や対人関係のありかたを探っていく。また教員の指導のもとで、子育て支援プログラムの立案や、親への援助活動も行っていく。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

子育て支援プログラムでは、院生はスタッフの1人として、主に遊びを通して子どもと関わりながら、遊びのプログラムの立案にも関わる。そして、ケースカンファレンス(プログラム直後に行う報告会)やケース検討会(子育て支援プログラムが休みの日に行う)で、自分が関わっている個別事例や子ども同士の関わりについて経過報告を行いながら、自らの関わりを振り返り、よりよい支援のありかたを探っていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

最近の子育て事情について、新聞記事などで情報を収集しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

子育て支援プログラムにおける諸活動(プログラムの進行への関与のあり方、担当の子どもとの関わり、個別事例の報告など)を評価する。遅刻・欠席については厳しく減点する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 臨床発達心理学の基礎
- 第2回 臨床発達心理士に必要な倫理
- 第3回 子育て支援プログラム「こがもクラブ」の準備
- 第4回 子育て支援プログラム(前期)の実施(支援計画の検討)
- 第5回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第6回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第7回 ケース検討会:前期①(日程は変わることもある)
- 第8回 子育て支援プログラム(前期)の実施(支援の実施)
- 第9回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第10回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第11回 ケース検討会:前期②(日程は変わることもある)
- 第12回 子育て支援プログラム(前期)の実施(必要に応じて支援計画の見直しを図る)
- 第13回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第14回 子育て支援プログラム(前期)の実施
- 第15回 前期の支援の振り返り
- 第16回 後期の支援の計画
- 第17回 子育て支援プログラム(後期)の実施(支援の実施)
- 第18回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第19回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第20回 ケース検討会:後期①(日程は変わることもある)
- 第21回 子育て支援プログラム(後期)の実施(必要に応じて支援計画の見直しを図る)
- 第22回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第23回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第24回 ケース検討会:後期②(日程は変わることもある)
- 第25回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第26回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第27回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第28回 ケース検討会:後期③(日程は変わることもある)
- 第29回 子育て支援プログラム(後期)の実施
- 第30回 1年間の支援のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

ここで行う子育て支援プログラムは、学外から対象者が来訪する対外的なプログラムである。したがって、臨床発達心理士を目指すものとしての自覚と責任感を持ち、倫理的配慮を行うことが必要とされる。

講義コード (Course Code)	270116N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床発達心理学実習Ⅱ 発達支援の専門家を目指す
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・薦田 未央
単 位 数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

臨床発達心理学実習Ⅰで学んだ子どもの発達援助および親の育児支援に関して、さらに実践を積んで学ぶことを通じて、臨床発達心理士の専門性を身につけていくことを目指す。なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の資格条件となる「臨床実習」(合計200時間)の一部に充てられるものとして選定される予定である。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

受講生の目指す進路やその資質に応じて、①外部実習を行うか、②学内実習を行うか、そのどちらかに分けられる。
いずれにおいても、臨床発達心理士としてふさわしい力量がつくように、複数のケースの観察による発達アセスメントおよび発達援助方法について、継続的に学んでいく。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

①外部実習の場合:発達支援の専門機関に実習生として参加し、発達上の問題や障がいを持つ子どもとその親を支援する現場を体験する。スタッフの一人として子どもと関わること、およびケースカンファレンスでケースの報告を行うことを通じて、発達の問題・障がいを理解し、必要な発達援助について、考えていく。

②内部実習の場合:1年次に引き続き、学内での子育て支援プログラムのスタッフの一人として活動する。特定の担当ケースへの関わりだけでなく、集団全体の力学的変化にも着目し、支援プログラム全体の立案や構成についても、主体的に関わることが要求される。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

臨床発達心理学実習Ⅰで学んだことを実習Ⅱに活用できるように、しっかりと復習しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習を通して、臨床発達心理士として必要な力量を獲得しているかが、評価のポイントになる。具体的には、対象児の観察によるアセスメントのしかた、対象児との関わり、ケース報告の文書、ケースカンファレンスでの発表などが総合的に評価される。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 前期実習のガイダンス
- 第2回 臨床発達に関する実習①
- 第3回 臨床発達に関する実習②
- 第4回 臨床発達に関する実習③
- 第5回 ケースカンファレンス①
- 第6回 臨床発達に関する実習④
- 第7回 臨床発達に関する実習⑤
- 第8回 臨床発達に関する実習⑥
- 第9回 臨床発達に関する実習⑦
- 第10回 ケースカンファレンス②
- 第11回 臨床発達に関する実習⑧
- 第12回 臨床発達に関する実習⑨
- 第13回 臨床発達に関する実習⑩
- 第14回 ケースカンファレンス③
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期実習のガイダンス
- 第17回 臨床発達に関する実習⑪
- 第18回 臨床発達に関する実習⑫
- 第19回 臨床発達に関する実習⑬
- 第20回 ケースカンファレンス④
- 第21回 臨床発達に関する実習⑭
- 第22回 臨床発達に関する実習⑮
- 第23回 臨床発達に関する実習⑯
- 第24回 臨床発達に関する実習⑰
- 第25回 ケースカンファレンス⑤
- 第26回 臨床発達に関する実習⑱
- 第27回 臨床発達に関する実習⑲
- 第28回 臨床発達に関する実習⑳
- 第29回 ケースカンファレンス⑥
- 第30回 1年のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

外部での実習は、その機関の年間予定に合わせて行われるため、長期休暇中にも行われる。また外部実習先に応じて、実習に関する費用が徴収される。

30回の内容は、実習先によって変化する可能性がある。

講義コード (Course Code)	270120N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理査定演習 II
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	村松 朋子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理』 エクスナー 金剛出版 2009 必要に応じて提示します。
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

治療的なアセスメントの方法論の理解を目指し、そのために必要な心理アセスメントツールを正確に使用できるスキルを習得する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 1) パートナリティ・アセスメントに関する理論と研究について十分な知識を有すること。
- 2) 包括システムによるロールシャッハ法の施行法、コーディング、スコアリングを習得すること。
- 3) アセスメント・レポートを作成できること。
- 4) 共感、傾聴、適切な境界の維持などの基本的な臨床スキルを体得すること。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

事前に、ロールシャッハ・テスト (包括システム) を受けてもらいます。

授業は、講義・演習形式で行います。

みなさんが事前学習をしてきたことを前提に解説やディスカッションを行います。こちらから質問や意見を頻繁に聞いていきますので、積極的に発言して下さい。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義内容はかなりのボリュームがあるので、自主的な学習が必須となります。

宿題や必要な事前学習は、こちらからその都度、具体的に提示します。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の積極性 (30%)、レポート課題の内容 (70%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション、ロールシャッハの歴史と展開
- 第2回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の施行法
- 第3回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：反応領域と発達水準、組織化活動
- 第4回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：決定因子、形態水準
- 第5回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：特殊スコア
- 第6回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) 構造一覧表の作成
- 第7回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈のためのガイドライン
- 第8回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈：コントロール
- 第9回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈：感情
- 第10回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈：認知の3側面
- 第11回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈：自己知覚と対人知覚
- 第12回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の解釈：まとめ
- 第13回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) を用いた事例検討
- 第14回 複数のアセスメント・データを用いた治療的アセスメントの事例検討
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270122N0J
授 業 名 (Course Title)	人間関係発達特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

社会・情動発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、社会・情動発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。

なおこの科目は、「DP科目」の「社会情動」の1-1から1-7を含む。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

社会・情動発達の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。さらに、いじめや不登校など社会・情動発達に問題が生じている子ども、さらに自閉症やADHDなど障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害のアセスメントの方法について、実践的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援の仕方について理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、受講生による文献発表、発達検査の実習など、さまざまな方法を用いる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

発達の基礎理論の学びについて復習しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業中の文献発表、実習における取り組み方などを参考にし、レポートと合わせて総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 社会・情動発達の理論と臨床的意味
- 第2回 社会・情動発達の基本的理解
- 第3回 情動発達の個人差と文化差
- 第4回 胎児期から新生児期にみられる情動と関係の障害
- 第5回 乳幼児期にみられる情動と関係の障害
- 第6回 幼稚園や小学校の集団参入における自己と関係の障害
- 第7回 思春期・青年期の同一性の発達と関係の障害
- 第8回 発達検査の歴史
- 第9回 さまざまな検査の特徴
- 第10回 発達検査または知能検査を使った実習①
- 第11回 発達検査または知能検査を使った実習②
- 第12回 発達検査または知能検査を使った実習③
- 第13回 個別支援計画の立て方
- 第14回 臨床発達の現場での支援
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

順番は変わることがある。

講義コード (Course Code)	270132N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理地域援助特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	佐藤 純・河瀬 雅紀
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	特になし
参考文献 (References)	『臨床心理地域援助研究セミナー』 野島一彦編 至文堂 『コミュニティ心理学』 山本和郎 東京大学出版会 『がん患者 グループ療法の実践』 河瀬雅紀 金芳堂
備 考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

臨床心理地域援助特論では、個人を対象とした心理療法だけでなく、学校や職場、地域社会の人々に働きかけ適切な心理援助ができるように、予防、危機介入、ソーシャル・サポート、グループアプローチ、コンサルテーションなどの基礎概念とその方法論を学んでいく。そのため、保健・医療・福祉・教育現場と密接に関連づけながら援助の実践も学んでいく。この講義を通して、地域における臨床心理士の役割を理解し、さらに、他職種と連携する上での倫理的問題についても理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

【1】臨床心理地域援助の概念を理解する 【2】臨床心理地域援助の方法論を理解する 【3】臨床心理地域援助における倫理的問題を理解する 【4】保健・医療・福祉・教育領域で必要とされる技法を理解し、実践する力を身につける

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義及び演習

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

上記の参考図書などから、必要な箇所目を通しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 5 0 点、レポート 5 0 点で評価する

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 精神疾患と障害の理解
- 第2回 地域支援における臨床心理士の課題
- 第3回 早期支援
- 第4回 地域心理臨床におけるグループミーティングの活用
- 第5回 集団精神療法
- 第6回 問題解決技法を使ったグループミーティング
- 第7回 アウトリーチ
- 第8回 本人・家族とともに支援する家族支援の重要性
- 第9回 メリデン版訪問家族支援
- 第10回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)
- 第11回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)
- 第12回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)
- 第13回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)
- 第14回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)
- 第15回 臨床心理地域援助活動の実践 (外来講師による特別講義も予定)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270133N0J
授 業 名 (Course Title)	臨床心理基礎実習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担 当 者 (Instructor)	空間 美智子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・佐藤 睦子・田中 蒼樹・三好 智子・向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	(週4時間+外部実習)

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
- (2) ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
- (3) 本学付設の心理臨床センター心理相談室において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
- (4) 期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。また、電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室のシステムについては慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、陪席事例の発表については報告書の作成だけでなくそれに関連する文献を参照するなど、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすいプレゼンテーションとなるように準備をすること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

ケース検討会への出席・発表・討論・小レポート作成、期末に行われる記述式の試験およびインテーク陪席とその記録、電話受付における取り組みから、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (1)
- 第3回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (2)
- 第4回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (3)
- 第5回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (4)
- 第6回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (5)
- 第7回 事例研究論文の執筆オリエンテーション
- 第8回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (6)
- 第9回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (7)
- 第10回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例のカンファレンス (8)
- 第11回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の

- カンファレンス (9)
 第12回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
 カンファレンス (10)
 第13回 学外実習 振り返りとオリエンテーション
 第14回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
 カンファレンス (11)
 第15回 期末試験

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する ・持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

講義コード (Course Code)	270134N0J	
授業名 (Course Title)	臨床心理基礎実習 II	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	空間 美智子、伊藤 一美、河瀬 雅紀、 佐藤 睦子、田中 蒼樹、三好 智子、 向山 泰代、村松 朋子	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M1	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備考 (Note)	(週4時間+外部実習)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。これら経験に加えて、本科目では、学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
- (2) ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
- (3) 本学付設の心理臨床センター心理相談室、学外の実習先においてさまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
- (4) 期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。学外での実習は、教育機関と医療機関で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

前期の体験を踏まえ、心理相談室の陪席事例の発表についてさらに工夫していくこと。また、日頃から自身の事例担当について他スタッフの発表とも照らし合わせ、また事例研究に関する文献、スタッフ同士でのディスカッションからも学びを深め、発表の準備を進めること。

学外実習に関しては、実習先について社会資源としての施設のあり方についても事前に把握し、児童生徒や利用者の方々との関わりやスタッフから直接学ぶ中で心理専門職としての役割についてより熟考できるよう準備をすること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
 15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学内実習については、ケース検討会への出席・発表・討論・小レポート作成・期末試験、およびインテーク陪席とその記録、電話受付の実習態度によって評価する。学外実習については、実習への参加状況と毎回の実習記録により評価する。これらの学内実習・学外実習における取り組みから、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション ケース検討会への発表について
- 第2回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (1)
- 第3回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (2)
- 第4回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の

- カンファレンス (3)
- 第5回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (4)
- 第6回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (5)
- 第7回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (6)
- 第8回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (7)
- 第9回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (8)
- 第10回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (9)
- 第11回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (10)
- 第12回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (11)
- 第13回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (12)
- 第14回 インテークカンファレンスと担当者の決定。担当事例の
カンファレンス (13)
- 第15回 期末試験

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する ・ 持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

学内での実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。学外での実習は、原則として週一日(終日)に実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中にも実施されることがある。以上のように、実習は長期休暇中も継続して行なわれるため、受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

講義コード (Course Code)	270135N0J	
授業名 (Course Title)	臨床心理実習 I	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)		15 時間
担当者 (Instructor)	村松 朋子, 伊藤 一美, 河瀬 雅紀, 佐藤 睦子, 空間 美智子, 田中 誉樹, 三好 智子, 向山 泰代	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M2	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備考 (Note)	(週4時間+外部実習) 「臨床心理基礎実習I」を修得済みであること。	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、「臨床心理基礎実習I・II」(1年次配当)での体験学習の上に成り立っている。学内実習では、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当し、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて体験的に学び、ケース検討会で指導を受ける。また本科目では、一年次後期に引き続き学外実習を実施する。学外実習では、心理臨床に関わるさまざまな専門機関で実習を行い、心理臨床家としての基本的な視点について、現場での体験を通して学ぶ。また、現場での自分自身の体験を記述し実習記録としてまとめ、その記録に基づいて実習担当者から個別に指導を受ける。さらに、各相談機関の運営、業務内容等についても、現場で体験を通して学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当することによって、臨床家としての責任ある関わり方、態度、倫理について体験的に学ぶ。
- (2) センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務についても学ぶ。
- (3) 学内実習では、心理療法の技法について学ぶ。
- (4) 学内実習では、心理検査の施行や解釈について体験的に学ぶ。
- (5) 事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
- (6) 学外実習では、医療や教育の専門機関が持つ機能と、その中での臨床心理士の視点、役割等について学ぶ。
- (7) 学外実習では、各機関において、他の専門職との連携、協調、臨床心理士の専門性の特徴などについて考えていく。
- (8) 実習記録の書き方について学ぶ。
- (9) 実習で困ったこと、悩んだことなどについて個別に学内の担当教員とともに考える時間を持ち、指導を受けることで実習での経験を意味のあるものにする。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、実際の事例を担当する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、担当ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。学外実習は、教育機関と医療機関で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行うほか、各機関での実習内容について全体での報告会を行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分りやすい報告となるよう準備すること。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学内実習については、ケース検討会への発表、討論などへの参加、担当事例の報告、電話受付などによって評価される。学外実習については、実習への参加状況、参加態度、実習記録の内容などによって評価される。さらに学期末に試験を行い、それらをもって総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学外実習 学内実習または事例検討会①
- 第3回 学外実習 学内実習または事例検討会②
- 第4回 学外実習 学内実習または事例検討会③
- 第5回 学外実習 学内実習または事例検討会④
- 第6回 学外実習 学内実習または事例検討会⑤

- 第7回 学外実習 学内実習または事例検討会⑥
- 第8回 学外実習 学内実習または事例検討会⑦
- 第9回 学外実習 学内実習または事例検討会⑧
- 第10回 学外実習 学内実習または事例検討会⑨
- 第11回 学外実習 学内実習または事例検討会⑩
- 第12回 学外実習 学内実習または事例検討会⑪
- 第13回 学外実習 学内実習または事例検討会⑫
- 第14回 学外実習報告会
- 第15回 期末試験

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する ・ 持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

学内実習におけるケース担当（およびカンファレンス）は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。ケースを担当するということについての、臨床家として自覚が求められる。学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

講義コード (Course Code)	270136N0J	
授業名 (Course Title)	臨床心理実習Ⅱ	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間	
担当者 (Instructor)	村松 朋子、伊藤 一美、河瀬 雅紀、 佐藤 睦子、空間 美智子、田中 誉樹、 三好 智子、向山 泰代	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	M2	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備考 (Note)	(週4時間+外部実習) 「臨床心理基礎実習Ⅱ」を修得済みであること。	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、「臨床心理実習Ⅰ」ならびに「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまよめの意味も持つ。

「臨床心理実習Ⅰ」に続いて行われる学内実習では、担当する事例について責任をもってその運営に当たりながら、カンファレンスを通じて、さまざまな事例についての対応や、相談機関の運営について学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 事例の見立てとそれに基づく面接計画を考え、クライアントにとって最も良い心理療法的アプローチを探る。
- (2) 心理面接における技法を習得しつつ、個々の担当事例に関するケース検討会と小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら今後の見通しを立てていけるような臨床的視点を養う。
- (3) 担当事例はもちろん、他の受講生の事例報告も含め、さまざまな事例を経験する中で、臨床実践のための理論と方法を学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室における事例を担当し、ケース検討会においてその発表を行う。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。

また、学内心理臨床センター心理相談室におけるインターケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討する。

・ 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インターケースや事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分かりやすい報告となるよう準備すること。

・ 準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学内実習については、カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、担当事例の実施状況の報告内容、電話受付態度などによって評価される。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学内実習または事例検討会①
- 第3回 学内実習または事例検討会②
- 第4回 学内実習または事例検討会③
- 第5回 学内実習または事例検討会④
- 第6回 学内実習または事例検討会⑤
- 第7回 学内実習または事例検討会⑥
- 第8回 学内実習または事例検討会⑦
- 第9回 学内実習または事例検討会⑧
- 第10回 学内実習または事例検討会⑨
- 第11回 学内実習または事例検討会⑩
- 第12回 学内実習または事例検討会⑪
- 第13回 学内実習または事例検討会⑫
- 第14回 学内実習または事例検討会⑬
- 第15回 期末試験

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する ・ 持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

実習ではあっても、心理臨床家としての自覚を持ち、責任を持って取り組むこと。

講義コード (Course Code)	270140N0J
授 業 名 (Course Title)	理科教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	小川 博士
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業のための書籍や資料は、適宜提示する。
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

理科教育学の主要なトピックをレビューし、今後の理科居言う句に関わる研究と実践の方向性を探ることができる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・先行研究を検討し、理科教育学の主要なトピックについて理解することができる。
- ・理論と実践の往還について考え、理科授業の改善について考察することができる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- ・関連文献の購読とディスカッションを主とする。
- ・レポートについては、ディスカッション時に口頭でフィードバックする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- 関連文献を読み、レポートをまとめる
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

レポート80%、授業参加度20%により総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国内外の調査結果に見る日本の理科教育の問題点
- 第3回 素朴概念とその性質
- 第4回 理科教授学習論① (問題解決学習論)
- 第5回 理科教授学習論② (構成主義学習論)
- 第6回 理科教授学習論③ (状況論)
- 第7回 概念変容に関わる先行研究
- 第8回 理科学習評価論① (オーセンティック・アセスメント)
- 第9回 理科学習評価論② (ポートフォリオ評価)
- 第10回 理科学習評価論③ (パフォーマンス評価)
- 第11回 様々な評価手法 (概念地図法、関連図法など)
- 第12回 小学校理科を対象とした指導法に関わる学術論文の購読
- 第13回 小学校理科を対象とした評価法に関わる学術論文の購読
- 第14回 諸外国の理科教育の動向
- 第15回 総括

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の実態に応じて、授業内容を変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	270141N0J
授 業 名 (Course Title)	音楽教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	古庵 晶子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	適宜指示する。
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

我が国及び諸外国の音楽教育の歴史・目的 (内容を含む) について比較・考察し、音楽教育のあり方について研究し、音楽教育の今日的課題を明確にし、その解決に向けて望ましい教育方法を考案する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

我が国及び諸外国の音楽教育の歴史・目的について理解する。今日的課題を明らかにし、その解決方法を編み出す。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

文献講読

専攻研究をもとに、望ましい音楽教育の在り方を研究する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指示した文献については事前に読み込み、内容を把握しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究に対する積極的な姿勢、レポートや文献講読によるディスカッションをもとに総合的に判断して評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学校教育における音楽教育
- 第3回 5領域における音楽
- 第4回 教授・学習過程の検証① 学習内容
- 第5回 教授・学習過程の検証② 指導方法
- 第6回 幼小連携と小中連携について
- 第7回 サウンドエデュケーションと創造的音楽学習
- 第8回 他教科との連携
- 第9回 多様な音楽文化とニューカマーの問題
- 第10回 インクルーシブ教育における音楽
- 第11回 音楽教育の必要性和教師に求められる実践力
- 第12回 成人学習と音楽学習
- 第13回 高齢者学習と音楽学習
- 第14回 音楽教育の必要性和教師に求められる実践力
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270144N0J
授業名 (Course Title)	教育実践特別演習 専修免許教員としての実力をつけよう
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	参考文献はその都度提示する。
備考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

専修免許を取得するものとして修了後、実践的課題に即時対応できるようにするため、現場実習などのインターンシップを含めた、実践による教員としての演習を行う。

教育現場で起こりうる課題を解決するための方法や手段を学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

基本的な授業の方法や、心理学的な学習理論を応用した学習デザインを立案し、実践現場にて実習を行う。

実践研究から学習者間のディスカッションを行い、授業や課外活動における教育実践の方法を習得する。

実践的課題から演習のトピックは変更されることがある。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

教育効果や評価は、単に直観的なものではなく、データをとり、そのデータと向き合い、客観的に見るようにする。

そのため、心理統計は多く用いることになる。

また、テキスト分析や質的なデータの分析法としてのグラウンディッドセオリー・アプローチなどを用いる場合もある。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

模擬授業等の準備をすることや学校等の事前研究が求められる

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に対する取り組み (40%)

課題レポート (40%)

授業に対する相互評価、自己評価 (20%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 インTRODクダクション
- 第2回 実践演習Ⅰ (黒板、教材教具を用いた授業計画)
- 第3回 実践演習Ⅰ (模擬授業または協力校における授業実践演習)
- 第4回 実践演習Ⅰ (相互評価、指導助言を受ける)
- 第5回 実践演習Ⅱ (道徳教育についての授業計画)
- 第6回 実践演習Ⅱ (模擬授業または協力校における授業実践演習)
- 第7回 実践演習Ⅱ (相互評価、指導助言を受ける)
- 第8回 観察実習Ⅰ① (協力校において半日の観察実習)
- 第9回 観察実習Ⅰ② (協力校において半日の観察実習)
- 第10回 実践演習Ⅲ (特別活動・外国語活動についての授業計画)
- 第11回 実践演習Ⅲ (模擬授業または協力校における授業実践演習)
- 第12回 実践演習Ⅲ (相互評価、指導助言を受ける)
- 第13回 観察実習Ⅱ① (協力校において半日の観察実習)
- 第14回 観察実習Ⅱ② (協力校において半日の観察実習)
- 第15回 自己評価、相互評価、まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

演習であるので、主体的に学ぶ姿勢が必要である。

実習・演習後は、レポートの提出を毎回求める。

実践演習を学会等の参加に置き換えることもある。

講義コード (Course Code)	270147N0J
授業名 (Course Title)	教科教育演習 (理科)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	小川 博士
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	2017年告示の「小学校学習指導要領解説理科編」を文部科学省HPよりダウンロードして使用できるようにしておくこと。
参考文献 (References)	適宜、提示する。
備考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

教材研究、指導案作成、模擬授業、振り返りという授業研究のプロセスを通して、実践的に学習し、理科授業実践の高度化を目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

・小学校における理科の目標及び内容を理解し、教材研究することができる。

・理科教授学習論や評価論を学習指導に適用することができる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

演習 (教材開発、指導案作成、模擬授業) を主とする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

・学習指導要領や小学校理科教科書を熟読すること。

・学習指導案を作成すること

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

学習指導案80%、授業参加度20% により総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 優れた理科授業の分析 (DVD視聴とディスカッション)
- 第2回 教材開発① (生命)
- 第3回 指導案作成① (生命)
- 第4回 模擬授業① (生命) 及びディスカッション
- 第5回 教材開発② (地球)
- 第6回 指導案作成② (地球)
- 第7回 模擬授業② (地球) 及びディスカッション
- 第8回 B区分の (生命・地球) の振り返りとまとめ
- 第9回 教材開発③ (粒子)
- 第10回 指導案作成③ (粒子)
- 第11回 模擬授業③ (粒子) 及びディスカッション
- 第12回 教材開発④ (エネルギー)
- 第13回 指導案作成④ (エネルギー)
- 第14回 模擬授業④ (エネルギー) 及びディスカッション
- 第15回 B区分の (物質・エネルギー) の振り返りとまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の実態に応じて授業内容を変更する場合がある。

講義コード (Course Code)	270148N0J
授業名 (Course Title)	教科教育演習 (音楽)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	古庵 晶子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	適宜指示する。
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

音楽の学習指導についての教材の位置づけ及び取り扱いの問題点などを通して、音楽教材の吟味と楽曲分析を行い、学習指導に適切な教材の教材集を作る。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・音楽の教科書に示されている教材を分析する。
- ・教材の実践的活用の方法を探る。
- ・音楽科教育における理想的な音楽教材を具体化する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

教科書に掲載されている教材の楽曲分析をする。

望ましい教材の在り方を構築する。

楽譜作成ソフトで教材を作成する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

音楽科教育ばかりでなく、生涯教育や音楽心理学・音楽社会学・音楽学の文献にも積極的に目を通しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

研究に対する積極的姿勢と教材開発への創造性やオリジナリティ、及び音楽科教育に対する視野の拡大と研究の深化を総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学習指導要領と教科書との関係及び教材開発の視点
- 第3回 現行教科書の分析① 歌唱領域を中心として
- 第4回 現行教科書の分析② 器楽領域を中心として
- 第5回 現行教科書の分析③ 鑑賞領域を中心として
- 第6回 楽譜作成ソフトによる楽譜作成① ピアノ曲
- 第7回 楽譜作成ソフトによる楽譜作成② 合唱曲および合奏曲
- 第8回 歌唱活動教材の開発
- 第9回 器楽活動教材の開発
- 第10回 創作活動教材の開発
- 第11回 鑑賞活動教材の開発
- 第12回 音楽教育の展開と音楽活動
- 第13回 教授・学習過程の検証と考察① 楽曲分析と活用方法
- 第14回 教授・学習過程の検証と考察② 教材選択と設定
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270150N0J
授業名 (Course Title)	社会科教育特論
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	大西 慎也
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	特に指定しない。必要な資料は講義時に配布する。
参考文献 (References)	『社会科固有の授業理論30の提言』 岩田一彦 明治図書 2001 『「習得・活用・探究」の社会科授業 & 評価問題プラン 小学校編』 米田豊 明治図書 2011 講義時に紹介する。
備考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

社会科教育の授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論を理解し、先人による実践を分析、検討することをとおして、社会科授業を批判的に検討する力を身に付けることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 社会科教育の授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論を理解する。
2. 学会誌等の論文を精読し、レポートし、議論する。
3. 先人の実践を分析、検討する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義形式で行う。しかし、論文精読や授業分析を行う際は、演習も交えながら進める。講義時間外の自主学習 (論文精読やレポート作成など) を要する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業での討議 (50%)、レポート (50%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 社会科の成立と歩み
- 第2回 学習指導要領の変遷とその背景
- 第3回 「わかる子ども」を育てる授業構成理論
- 第4回 「考える子ども」を育てる授業構成理論
- 第5回 社会科教育における目標論
- 第6回 社会科教育における評価論
- 第7回 社会科教育における内容論
- 第8回 社会科教育におけるカリキュラム論
- 第9回 個人研究と討議① (授業構成理論に関する内容)
- 第10回 個人研究と討議② (目標論、評価論に関する内容)
- 第11回 個人研究と討議③ (内容論、カリキュラム論に関する内容)
- 第12回 社会科授業の分析、検討① (地理的分野の内容)
- 第13回 社会科授業の分析、検討② (歴史的分野の内容)
- 第14回 社会科授業の分析、検討③ (公民的分野の内容)
- 第15回 社会科教育の課題と解決のための方略

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270151N0J
授 業 名 (Course Title)	教科教育演習 (社会)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	大西 慎也
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	指定しない。講義において配布する。
参考文献 (References)	『社会科固有の授業理論30の提言』 岩田一彦 明治図書 2001 『「習得・活用・探究」の社会科授業 & 評価問題プラン 小学校編』 米田豊 明治図書 2011 授業にて紹介する。
備 考 (Note)	隔年開講2 修了に必要な単位とならない

1. 科目の研究目標 (Course Description)

先人が行ってきた授業事例に学びながら、授業構成理論、目標論、評価論、内容論、カリキュラム論に基づいた、社会科の授業開発を行う。開発した授業の模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 社会科の授業開発ができる。
2. 学習指導案の作成方法を理解する。
3. 授業の展開方法や発問、板書の方法を理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

模擬授業などの演習中心。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートに記述しておく。学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、開発した社会科授業 (50%)、模擬授業 (50%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 模擬授業の在り方と意義
- 第2回 学習指導案の作成方法
- 第3回 授業開発① (教材研究と単元構成につて)
- 第4回 授業開発① (目標と評価について)
- 第5回 授業開発① (学習指導案の作成)
- 第6回 授業開発① (模擬授業の実施と事後検討会)
- 第7回 授業開発② (教材研究と単元構成につて)
- 第8回 授業開発② (目標と評価について)
- 第9回 授業開発② (学習指導案の作成)
- 第10回 授業開発② (模擬授業の実施と事後検討会)
- 第11回 授業開発③ (教材研究と単元構成につて)
- 第12回 授業開発③ (目標と評価について)
- 第13回 授業開発③ (学習指導案の作成)
- 第14回 授業開発③ (模擬授業の実施と事後検討会)
- 第15回 まとめ (社会科授業開発について)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270153A0J ~ 270153Q0J
授 業 名 (Course Title)	特別研究
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	120時間
担 当 者 (Instructor)	専任教員
単 位 数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	M2
備 考 (Note)	必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

- ① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
- ② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
- ③ データ処理の適否
- ④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
- ⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員2名による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 120時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

修士論文への取り組み方、修士論文発表会でのフロア評価、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

5. 留意事項 (Other Information)

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

講義コード (Course Code)	270200N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理事例研究法演習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 智子・伊藤 一美・佐藤 睦子・ 空間 美智子・向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていくか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返りたりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

臨床心理事例研究法 I (前期) では、スーパービジョンでの報告内容や事例運営における意欲が評価の対象となる。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 担当事例のスーパービジョン (1)
- 第3回 担当事例のスーパービジョン (2)
- 第4回 担当事例のスーパービジョン (3)
- 第5回 担当事例のスーパービジョン (4)
- 第6回 担当事例のスーパービジョン (5)
- 第7回 担当事例のスーパービジョン (6)
- 第8回 担当事例のスーパービジョン (7)
- 第9回 担当事例のスーパービジョン (8)
- 第10回 担当事例のスーパービジョン (9)
- 第11回 担当事例のスーパービジョン (10)
- 第12回 担当事例のスーパービジョン (11)
- 第13回 担当事例のスーパービジョン (12)
- 第14回 担当事例のスーパービジョン (13)
- 第15回 担当事例のスーパービジョン (14)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

*定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。

講義コード (Course Code)	270201N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理事例研究法演習 II
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 智子・伊藤 一美・佐藤 睦子・ 空間 美智子・向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていくか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返りたりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。

学期末には、全担当事例についてブリーフレポートを作成する。さらに、心理相談に関する先行文献も参照しながら、担当事例に関する事例論文執筆に取り組む。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

スーパービジョンでの報告内容や事例運営の意欲、全担当事例についてのブリーフレポート、担当事例に関する事例論文等が評価の対象となる。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 担当事例のスーパービジョン (1)
- 第2回 担当事例のスーパービジョン (2)
- 第3回 担当事例のスーパービジョン (3)
- 第4回 担当事例のスーパービジョン (4)
- 第5回 担当事例のスーパービジョン (5)
- 第6回 担当事例のスーパービジョン (6)
- 第7回 担当事例のスーパービジョン (7)
- 第8回 担当事例のスーパービジョン (8)
- 第9回 担当事例のスーパービジョン (9)
- 第10回 担当事例のスーパービジョン (10)
- 第11回 担当事例のスーパービジョン (11)
- 第12回 担当事例のスーパービジョン (12)
- 第13回 担当事例のスーパービジョン (13)
- 第14回 担当事例のスーパービジョン (14)
- 第15回 担当事例の振り返り

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

*定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。

*担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。

講義コード (Course Code)	270231A0J・270231B0J
授 業 名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅰ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	尾崎 仁美・神月 紀輔・薦田 未央・ 高井 直美・廣瀬 直哉・松島 るみ・ 後藤 伸彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
2. 文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
3. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員の全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表のしかた、資料の作り方、質疑応答 (他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題 (夏季休暇などに課せられるもの)などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第6回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第7回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第8回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第9回 英文雑誌論文講読発表
- 第10回 英文雑誌論文講読発表
- 第11回 英文雑誌論文講読発表
- 第12回 英文雑誌論文講読発表
- 第13回 研究計画および研究経過発表
- 第14回 研究計画および研究経過発表
- 第15回 研究計画および研究経過発表

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業の順番は入れ替わることがある。

講義コード (Course Code)	270232A0J・270232B0J
授 業 名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	尾崎 仁美・神月 紀輔・薦田 未央・ 高井 直美・廣瀬 直哉・松島 るみ・ 後藤 伸彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
2. 文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
3. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員の全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表のしかた、資料の作り方、質疑応答 (他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題 (夏季休暇などに課せられるもの)などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 研究計画および研究経過発表
- 第6回 研究計画および研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 研究計画および研究経過発表
- 第11回 研究計画および研究経過発表
- 第12回 研究計画および研究経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270233A0J・270233B0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	尾崎 仁美・神月 紀輔・薦田 未央・高井 直美・廣瀬 直哉・松島 るみ・後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
2. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表のしかた、資料の作り方、質疑応答 (他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第6回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第7回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第8回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第9回 英文雑誌論文講読発表
- 第10回 英文雑誌論文講読発表
- 第11回 英文雑誌論文講読発表
- 第12回 英文雑誌論文講読発表
- 第13回 研究計画および研究経過発表
- 第14回 研究計画および研究経過発表
- 第15回 研究計画および研究経過発表

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業の順番は入れ替わることがある。

講義コード (Course Code)	270234A0J・270234B0J
授業名 (Course Title)	発達・学校心理学専門演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	尾崎 仁美・神月 紀輔・薦田 未央・高井 直美・廣瀬 直哉・松島 るみ・後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	発達・学校心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。

そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
2. 他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に属する院生と教員全員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表のしかた、資料の作り方、質疑応答 (他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究計画および研究経過発表
- 第5回 研究計画および研究経過発表
- 第6回 研究計画および研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 研究計画および研究経過発表
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270235A0J・270235B0J	
授 業 名 (Course Title)	臨床心理学専門演習 I	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担 当 者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子	
単 位 数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M1	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備 考 (Note)	臨床心理学専攻必修	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 修士論文経過発表
- 第4回 修士論文経過発表
- 第5回 修士論文経過発表
- 第6回 研究計画発表
- 第7回 研究計画発表
- 第8回 研究計画発表
- 第9回 研究計画発表
- 第10回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第11回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第12回 合同演習 (M2 修士論文中間発表会)
- 第13回 修士論文経過発表
- 第14回 修士論文経過発表
- 第15回 修士論文経過発表

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270236A0J・270236B0J	
授 業 名 (Course Title)	臨床心理学専門演習 II	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間	
担 当 者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子	
単 位 数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M1	
テキスト (Textbook)		
参考文献 (References)		
備 考 (Note)	臨床心理学専攻必修	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究経過発表
- 第5回 研究経過発表
- 第6回 研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第10回 合同演習 (M1 修士論文計画発表会)
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M2 修士論文発表会)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270237A0J・270237B0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学専門演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	臨床心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表(プレゼンテーション)の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 修士論文経過発表
- 第4回 修士論文経過発表
- 第5回 修士論文経過発表
- 第6回 研究計画発表
- 第7回 研究計画発表
- 第8回 研究計画発表
- 第9回 研究計画発表
- 第10回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第11回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第12回 合同演習 (M 2 修士論文中間発表会)
- 第13回 修士論文経過発表
- 第14回 修士論文経過発表
- 第15回 修士論文経過発表

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270238A0J・270238B0J
授業名 (Course Title)	臨床心理学専門演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学習時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 空間 美智子・田中 蒼樹・三好 智子・ 向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	臨床心理学専攻必修

1. 科目の研究目標 (Course Description)

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に生かす。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表(プレゼンテーション)の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 研究計画および研究経過発表
- 第2回 研究計画および研究経過発表
- 第3回 研究計画および研究経過発表
- 第4回 研究経過発表
- 第5回 研究経過発表
- 第6回 研究経過発表
- 第7回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第8回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第9回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第10回 合同演習 (M 1 修士論文計画発表会)
- 第11回 修士論文経過発表
- 第12回 修士論文経過発表
- 第13回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)
- 第14回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)
- 第15回 合同演習 (M 2 修士論文発表会)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270402N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	三好 智子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に適宜、指示する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では、力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法、これら理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への実践的応用、心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学ぶ。本科目の教育目標は以下のとおりである。①力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法について理解し、概要を説明することができる。②①で学んだ理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。③心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- 各種文献の購読や教材の視聴を通して、各種心理療法の理論と方法を学ぶ。
- (1) を踏まえて全体もしくは小グループでディスカッションを行う。
- 事例の検討やロールプレイ等の実践練習を通して、心理に関する相談、助言、指導等や、適切な支援方法の選択・調整に関する実践的なスキルを身につける。
- 各テーマに関してレポートを作成し、さらに理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

- 各文献の購読、教材の視聴と、それらを踏まえたディスカッション。
 - 事例の検討。
 - ロールプレイ等による実践練習。
 - 各テーマに関するレポート作成。
 - 準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
 - 文献等の資料には必ず目を通していただくこと。
 - ロールプレイ等の実践練習については、適宜指示された準備を必ず行うこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業時の課題 (30%)、ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度 (40%)、レポート (30%) から、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- オリエンテーション
- 心理支援における基礎 (個人面接)
- 心理支援における基礎 (見立て)
- 力動論に基づく心理療法の理論と方法 (文献の購読・教材の視聴)
- 力動論に基づく心理療法の理論と方法 (事例の検討)
- 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 (文献の購読・教材の視聴)
- 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 (事例の検討)
- その他に基づく心理療法の理論と方法 (文献の購読・教材の視聴)
- その他に基づく心理療法の理論と方法 (事例の検討)
- ロールプレイとディスカッション (実践への応用) (グループ1)
- ロールプレイとディスカッション (実践への応用) (グループ2)
- ロールプレイとディスカッション (実践への応用) (グループ3)
- ロールプレイとディスカッション (実践への応用) (グループ4)
- ロールプレイとディスカッション (実践への応用) (グループ5)
- 心理支援における倫理

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

- 受講状況によって、適宜、授業予定を変更する可能性がある。
- 実践体験や受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えで臨んでいただきたい。

講義コード (Course Code)	270404N0J
授業名 (Course Title)	障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開 a)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	片岡 基明
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配付する。
参考文献 (References)	適宜指示する。
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

発達障害や適応上の問題がある子どもの心理を理解し、豊かな生活をすごしていくための子どもへの支援の方法を学ぶ。そのために、支援のための現場でのアセスメントの考え方・方法を学び、障害児と健常児の統合保育の現場や障害児療育の現場における保育者への支援や保護者への支援の内容と支援の具体的流れについて理解する。さらには子どもを支援する地域社会のネットワークの現状を知り、地域社会への働きかけのありかたを探る。

これらを通して、福祉の現場での心理臨床とその課題を考える。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

「障害」の理解・支援ニーズの把握に関する理論

ダウン症の理解と療育

自閉症の理解と療育

保護者理解

障害児保育・保育現場での支援の考え方

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義とディスカッション

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

ダウン症あるいは自閉症関係の書籍をこの授業のために新たに一冊読んで、内容と感想をA4一枚以内にまとめてください。(授業中にその概要を紹介してもらいます。)

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加状況 (40%)、総合評価 (60%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

- オリエンテーション：障害を考える-出生前診断をめぐって
- ダウン症の理解 (1) 原因と症状
- ダウン症の理解 (2) 社会参加の現状
- ダウン症児の療育
- 「障害」とはなにか-現場での支援の考え方
- 自閉症スペクトラム障害の理解 (1) 症状
- 自閉症スペクトラム障害の理解 (2) 歴史と現状
- 自閉症スペクトラム障害児の療育 (1) 行動論的アプローチ
- 自閉症スペクトラム障害児の療育 (2) 関係発達のアプローチ
- 障害幼児の療育システム-保育をめぐる問題と支援の事例、コンサルテーションを通して
- 障害幼児の保護者の理解
- 障害のアセスメント (1) WISC検査
- 障害のアセスメント (2) 新版K式発達検査
- 障害児保育-保育現場での支援の実践
- まとめと総合評価

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業予定は変更することがあります。

講義コード (Course Code)	270406N0J
授業名 (Course Title)	老年心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開b)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	伊藤 一美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『成人発達とエイジング』 シャイエ／ウィリス プレーン出版 2006 『高齢期の心理と臨床心理学』 下仲順子 培風館 2007
備考 (Note)	隔年開講1

1. 科目の研究目標 (Course Description)

生涯発達の後半部にあたる中年期から老ん期について、身体機能面の変化、認知・学習・記憶といった精神機能面の変化、パーソナリティや対人関係などの心理社会的変化をとらえる。そのうえで、人生の統合期にある主体的存在としての高齢者について、老いへの適応と人生の再構築について学ぶ。さらに、認知症をはじめとした精神疾患について、アセスメントと心理的支援の方法について、事例を通して実践的に学ぶ。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 中年期から高齢期にかけての心理的变化に関して、諸研究の知見を踏まえながら外観を捉える。
2. 高齢期の心理アセスメントについて、知能検査や認知症に関連する神経心理学的検査、パーソナリティ検査などを学び、支援計画に結びつける方法について学ぶ。
3. 高齢期における地域参加や多世代との交流など社会関係や社会活動について、心理社会的適応との関連で学ぶ。
4. 老いや人生の終末期について実践的体験的に学ぶことで、若年層も含めた心理教育について学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 生涯発達の観点からの中年期・高齢期に関する文献を取り上げ、代表的な知見に触れる。
2. 個人心理面接だけでなく、グループでの回想法、学習療法、アクティビティも含めての心理的支援の方法について実習形式で学び、現場での心理的支援の方法につなげる。
3. 個人レベルでの横断的アセスメントだけでなく、家族や地域といった背景要因、また長い人生という縦断的な視点も含めての包括的なアセスメントについて学ぶ。
3. 体験的な学習を通じて、自身のライフパースペクティブについて考察する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・日ごろから、超高齢化社会における社会問題や個人レベルでの高齢者の営みについて、アンテナを張るように努力する。
- ・基本的な知見について文献を読んだり、外国語も含めた最新の知見に触れるようにする。
- ・福祉施設や医療機関における高齢者の暮らしや、死の迎え方について、直接あるいは間接的に触れるようにする。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加態度 (20%)、授業中の発表および実習ワーク等 (50%)、期末レポート (30%) に基づき、総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生涯発達における中年期・高齢期
- 第3回 高齢期における身体的変化
- 第4回 高齢期における認知的変化 (1) 感覚レベルでの変化
- 第5回 高齢期における認知的変化 (2) 記憶を中心に
- 第6回 高齢期における心理アセスメント (1) 認知症テストを中心に
- 第7回 高齢期における心理アセスメント (2) パーソナリティ検査など
- 第8回 高齢期における心理療法とアクティビティ (1) 回想法を中心に
- 第9回 高齢期における心理療法とアクティビティ (2) さまざまなアクティビティ
- 第10回 高齢期におけるアイデンティティ再構築-老いへの適応について-
- 第11回 人生の終末期の迎え方
- 第12回 高齢期の心理的支援の計画-個人アセスメントに基づく

支援計画-

第13回 高齢期の心理的支援の計画-家族やコミュニティを含めた支援計画-

第14回 老いと死の心理教育について-人生の語りを受け止める-

第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

本科目は、公認心理師受験資格取得のための指定科目のひとつでもある。

具体的事例も取り上げながらの授業となるため、職業倫理を守り、心理的支援の専門家を目指すものとしての自覚を持ち、受講してほしい。

講義コード (Course Code)	270408N0J
授 業 名 (Course Title)	社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) 職場における自己の役割と影響
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	後藤 伸彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『The Self at Work: Fundamental Theory and Research』 D. L. Ferris, R. E. Johnson, and C. Sedikides Taylor & Francis Group 2017 授業内で教材を配布する。
参考文献 (References)	授業内で適宜、紹介する。
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

職場における自己 (self) の影響について学び、議論する。自己効力感、自尊心感情、自己制御、アイデンティティの問題などについて、産業組織心理学、組織行動、社会心理学の観点からの最新の研究成果について知識を獲得する。また社会心理学の知識をこれらの分野に応用することの限界について理解を目指す。それらを通じて各自の研究との接点を見出し、発展に繋げられるよう目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・自己概念の基礎的な理論、知識を理解する。
- ・職場における様々な問題・課題について基礎的な知識を得る。
- ・社会心理学の知見が職場の問題解決に以下に応用・活用されてきたかを学び、その限界についても理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

社会心理学の新たな動向に関連するテキストや論文から教材を選び、各自が担当部分をまとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業時間に次回以降の課題を指示する。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業時間中の発表と質疑への取り組み、レポートを基に総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 職場における自己について
- 第2回 自己効力感
- 第3回 自尊心感情
- 第4回 職場における自己同一視
- 第5回 自己高揚動機
- 第6回 自己制御
- 第7回 自己決定動機
- 第8回 職場における罪悪感の役割
- 第9回 職場内の社会的地位の影響
- 第10回 文化の研究と産業組織の研究の相互作用
- 第11回 印象操作
- 第12回 自己評価とアルコールの影響
- 第13回 フィードバックの影響
- 第14回 リーダーシップとフォロワーシップ
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。

講義コード (Course Code)	270410N0J
授 業 名 (Course Title)	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開 a) 精神症状を呈する事例の見たてと対応を学ぶ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	河瀬 雅紀
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『うつ病 知る・治す・防ぐ』 福居 顯二 金芳堂 『DSM-V 精神疾患の診断・統計マニュアル』 高橋三郎他 (訳) 医学書院 『精神医学 (MINOR TEXTBOOK) 第12版』 加藤伸勝 金芳堂 2013 『僕のことを病名で呼ばないで』 青木省三 ちくま文庫 『若者の「うつ」』 傳田健三 ちくまブリマー新書
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理臨床の現場では、クライアントや患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、

- ①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
- ②精神症状を呈する事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて支援の具体的なプランを立てることができる
- ③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
- ④他職種との連携、社会資源の活用の方を説明することができる
- ⑤精神科薬物療法の基本的な事項について説明できることを目標とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 不安・抑うつなど主な病態を挙げ、それぞれの特徴を説明することができる
- (2) 不安・抑うつなど主な病態について、心理的介入をする際の留意点を説明することができる
- (3) 不安・抑うつなど主な病態について、事例に適した心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
- (4) 思春期・青年期の特徴的な事例について、発達の課題や家族機能にも留意し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。

事例を用いての討論を多く取り入れる。

毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

精神医学の教科書 (精神医学 (MINOR TEXTBOOK), 金芳堂など) から、統合失調症、気分障害、不安障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討論の参加状況などを総合し評価を行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について
- 第2回 事例に対する心理学的アセスメントの基本的事項について
- 第3回 精神医療と心理学的介入との関連について
- 第4回 うつ理解の原則について
- 第5回 うつ症状を呈する事例について
- 第6回 不安・うつ・行動化について
- 第7回 精神科薬物療法の基礎
- 第8回 精神科薬物療法の実際
- 第9回 リエゾン精神医学について
- 第10回 喪失・悲嘆と精神医学 (個人への支援)

- 第11回 喪失・悲嘆と精神医学（家族への支援）
- 第12回 虐待事例と精神医学
- 第13回 発達障害児・者と家族への支援
- 第14回 精神医療における社会資源について
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

講義コード (Course Code)	270412N0J	
授 業 名 (Course Title)	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開 b) 心と身体の対話	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間	
担 当 者 (Instructor)	神原 憲治	
単 位 数 (Credits)	2	
配当学年 (Eligible Year)	M12	
テキスト (Textbook)	『バイオフィードバックとリラクゼーション法』 竹林直紀、神原憲治、志田有子 金芳堂 2011	
参考文献 (References)	『心身医学標準テキスト 第3版』 久保千春 医学書院 2009	
備 考 (Note)	隔年開講2	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心身医学は「心身相関」を基本概念とした医学であり、臨床に適用したものが心療内科、心身相関の病態を持つ疾患が心身症である。病院各科はもちろんのこと、心理臨床の現場においても心身症や機能的な身体症状に関連した事例は増加しており、心身医学の基本的な知識は必須のものとなっている。社会的にも心身症関連の疾患は増加の傾向にあり、今後も重要性を増していくと思われる。これを踏まえて、本科目では以下を目標とする。

- ・心身医学に関する基本概念、主に心理臨床、病院臨床の現場において必要な基礎及び臨床的内容について理解し、論じることができる。
- ・臨床応用としての心療内科について理解し、どのような疾患に対してどのようなアプローチがなされており、心理療法とどのように関連・連携しているのかについて理解し、応用できる。
- ・精神生理学 (バイオフィードバック)、行動科学の実習を通して、心身相関、ストレスと身体の関係、心身の気づきについて実践的に理解できる。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・心身医学の背景について理解する
- ・心身医学の基礎となる生理、情動理論などについて学習する
- ・心身症の定義、代表的な心身症を把握する
- ・心身症の病態、及び心身相関について理解し、概説できるようになる
- ・心身症の治療的アプローチを理解する
- ・ストレスと疾患の関係について、実習を通して理解を深める
- ・応用精神生理学、バイオフィードバックとストレスアセスメントについて体験的に理解する
- ・心療内科臨床の実際について理解する
- ・心身医学と心理療法の関係を理解し、応用できる

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義はプリントとスライドを用いて行う。実習はバイオフィードバックシステムを用いて行う。講義、実習では、適宜グループディスカッションも取り入れる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- テキストのうち、「各論」の1に眼を通しておくこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
5時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 1. [心身医学序論] 心身医学、心身症、心療内科とは
- 第2回 2. [心身医学序論] 心身医学の基礎、大脳辺縁系と自律神経系
- 第3回 実習 (1) : 心身医学とストレスプロファイル
- 第4回 3. [病態論].アレキシサイミア (失感情症)、情動と身体
- 第5回 4. [病態論] 応用精神生理学と心身医学
- 第6回 実習 (2) : 心身症とバイオフィードバック
- 第7回 5. [疾患論] 代表的な心身症と身体症状
- 第8回 6. [病態論] 機能的な身体疾患
- 第9回 実習 (3) : 心身症とバイオフィードバック
- 第10回 7. [ストレス学] ストレスとホメオスタシス
- 第11回 8. [ストレス学] 内受容感覚と心身の気づき
- 第12回 実習 (4) : 心と身体の対話
- 第13回 9. [治療論] 心身の気づきと治療プロセス
- 第14回 10. [治療論] 心身医学的アプローチと心療内科学
- 第15回 総括: 心身医学と心療内科のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270416N0J
授業名 (Course Title)	学校カウンセリング特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	佐藤 睦子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

学校カウンセリングは、現在、急速にその守備範囲を拡げてきている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への支援も注目されている。本講義においては、学校カウンセリングに必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通じて、学校カウンセリングのあり方についての理解を深めていきたい。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・学校カウンセリングとは何かを学ぶ
- ・学校における心理士の存在意義について学ぶ
- ・学校カウンセリングにおいて使用できる各種療法に関して、実習を通じて学ぶ

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

学校とは、独特な場である。学校心理士は、学校で出会うクライアントを理解する前に学校を理解する必要がある。そのため、本講義では、実習・フィールドワークも併用しながら、学校における学校心理士のあり方を探索していきたい。

講義・実習・フィールドワークを行なうごとにレポートの提出を求める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

学校心理士とは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

講義への参加態度40%・課されたレポートの内容60%の評価とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 学校心理士とは何か
- 第2回 学校心理士が行う仕事を学ぶ
- 第3回 学校におけるカウンセリングについて
- 第4回 学校におけるカウンセリングに関する問題点について
- 第5回 学校におけるコンサルテーションについて
- 第6回 学校におけるコンサルテーションに関する問題点について
- 第7回 コーディネーションとは何か
- 第8回 学校に対する緊急対応について
- 第9回 学校に対する緊急対応の実践事例を学ぶ
- 第10回 フィールドワーク (適応指導教室)
- 第11回 フィールドワーク (適応指導教室)
- 第12回 学校で行うことのできる技法を学ぶ (箱庭療法)
- 第13回 学校で行うことのできる技法を学ぶ (コラージュ療法)
- 第14回 学校におけるカウンセリングの注意点を再確認する
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270418N0J
授業名 (Course Title)	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	向山 泰代
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。
備考 (Note)	隔週2コマ連続

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と技能を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、その他の心理検査についても、実施例等を素材としてスコアリング実習等を行う。加えて、テスト・バッテリーの組み方、実施にあたっての倫理的配慮、結果の有効な活用に関する学習を通じて、心理アセスメントについての実践的な知識と技能の修得を目指す。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 心理アセスメントの理論と技法を実践的に学ぶ。
- (2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。
- (3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。
- (4) 有用な記録の取り方や結果のまとめ方、所見の書き方について学ぶ。
- (5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけてゆくかを考える。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生が互いに検査者と被検者となって心理検査を体験したり、心理検査の実施例のスコアリングや結果についての検討を行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論や特徴についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講生は配布された reading assignment に従い、事前に準備した上で演習に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) 各種の心理検査についてのまとめと発表。(2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめる期末レポート。(3) 授業参加度、課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 心理アセスメント概説
- 第2回 性格検査 (質問紙法) (1) : 特性論にもとづく検査
- 第3回 性格検査 (質問紙法) (2) : 連想にもとづく検査
- 第4回 知能検査 (1) : WAISの解説と実習 (検査1~2)
- 第5回 知能検査 (2) : WAISの実習 (検査3~7)
- 第6回 知能検査 (3) : WAISの実習 (検査8~13)
- 第7回 知能検査 (4) : WAISのスコアリングと結果の解釈
- 第8回 知能検査 (5) : WISCの実習
- 第9回 発達検査 (1) : 発達障害概説
- 第10回 発達検査 (2) : 発達検査の実習
- 第11回 神経心理学的検査 (1) : 高次脳機能障害概説
- 第12回 神経心理学的検査 (2) : 遂行機能のアセスメント
- 第13回 神経心理学的検査 (3) : 記憶のアセスメント
- 第14回 アセスメントにおける倫理
- 第15回 アセスメント結果の活用

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序を調整することがある。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。

講義コード (Course Code)	270420N0J
授業名 (Course Title)	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	藤川 洋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	『子どもの面接ガイドブック』 藤川洋子監訳 日本評論社 2003
参考文献 (References)	『触法発達障害者への複合的支援』 藤川洋子・井出浩編著 福村出版 2011
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

司法機関においても、臨床心理学、発達心理学を含む心理学の視点の必要性は増すばかりである。ただし、司法機関では、学校や精神科クリニックといった治療機関とは異なる面接方法 (司法面接) が必要な場面が多々有る。公認心理師、臨床心理士の資格取得を視野に、非行臨床で特に用いられるアセスメントや面接のテクニックの修得をめざす。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

司法領域で経験しうるテーマにつき、学生が自ら掘り下げてまとめ、発表する。また、司法機関を直接見学し、現役の職員から犯罪心理学がどのように生かされているかを学ぶ。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

講義、発表、司法機関での実習

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストを熟読し、事実を聞き出す司法面接のテクニックを身につける。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点50% プレゼンテーションや実習の能力50%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 犯罪心理学が明らかにできること
- 第2回 司法機関について—少年事件の流れと処遇機関の役割
- 第3回 司法機関について—成人事件の流れと処遇機関の役割
- 第4回 法律の目的と犯罪心理学—少年法 児童福祉法
- 第5回 法律の目的と犯罪心理学—少年鑑別所法、少年院法
- 第6回 法律の目的と犯罪心理学—刑法、刑事訴訟法
- 第7回 法律の目的と犯罪心理学—心神喪失者等医療観察法など
- 第8回 法律の目的と犯罪心理学—いじめ防止対策 児童虐待防止法など
- 第9回 精神鑑定・心理鑑定が担ってきたもの
- 第10回 司法面接の実際—冤罪防止という視点から (総論)
- 第11回 司法面接の実際—身につけるべきテクニック
- 第12回 司法面接の実際—実践的演習
- 第13回 司法機関の見学：少年鑑別所
- 第14回 司法機関の見学：見学についてのまとめ
- 第15回 全体のまとめと意見交換

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270424N0J
授業名 (Course Title)	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	鶴田 薫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M12
テキスト (Textbook)	授業内で資料を配布する。
参考文献 (References)	『健康心理学概論』 日本健康心理学会実務教育出版 2002 『健康・医療心理学』 岸太一・藤野秀美 ナカニシヤ出版 2017 授業内で資料を配布する。
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

健康心理学は、心理学がいかにかに人々の健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。そしてそれは、今まさにスタートしようとしている心理職の国家資格である、公認心理師に期待される役割の一つであるとも言える。

そのような時代の社会的なニーズを背景に、本講義では、心の健康教育についての理論を学び、その技法について体験実習を通して習得する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・心の健康とは何かについて学ぶ
- ・心の健康に影響を与えるストレス、性格、行動 (認知や行動を含む) についての理論を学ぶ
- ・心の健康教育とは何か、その理論と目的について学ぶ
- ・心の健康教育の技法について、体験実習を通して学ぶ

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

心の健康および心の健康教育の理論の学習は講義形式で行い、心の健康教育の技法の学習は体験実習で行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心の健康に影響を与えるストレス、性格、行動について、文献を検索し、熟読して講義に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、出席状況と参加態度 (50%)、課されたレポートの内容 (50%) に基づいて総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション：健康心理学とは何か
- 第2回 心の健康とは
- 第3回 心の健康とストレス
- 第4回 心の健康と性格
- 第5回 心の健康と行動
- 第6回 心の健康のアセスメント
- 第7回 心の健康教育とは
- 第8回 心の健康教育の場と方法
- 第9回 心の健康教育の実践 (ストレスマネジメント)
- 第10回 心の健康教育の実践 (怒りのマネジメント)
- 第11回 心の健康教育の実践 (認知行動療法を用いた行動の変容)
- 第12回 心の健康教育の実践 (自己理解・他者理解)
- 第13回 心の健康教育の実践 (人間関係トレーニング)
- 第14回 心の健康教育の実践 (コミュニケーション能力)
- 第15回 まとめ：健康心理学の可能性、公認心理師への期待

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270428N0J
授業名 (Course Title)	心理実践実習Ⅱ a (学内実習) 心理相談の基本
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15時間
担当者 (Instructor)	伊藤 一美・向山 泰代・三好 智子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	M1
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

- 1) 心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
- 2) 心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
- 3) 心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
- 4) 心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
- 5) 地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいたした社会的資源等に関する知識を習得する。
- 6) 心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
- 7) 心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
- 8) 心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅱ b」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者(心理臨床センター専門相談員を含む)の指導を受ける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

「心理実践実習Ⅱ b」においてケース担当する中で、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習課題の遂行(出欠、ディスカッションやワークへの参加など)(70点)、その他提出物・実習ノートなど(30点)によって、総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	270429N0J
授業名 (Course Title)	心理実践実習Ⅱ b (学内実習) 心理相談の実践
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	向山 泰代・伊藤 一美・河瀬 雅紀・ 佐藤 睦子・三好 智子・空間 美智子・ 村松 朋子・田中 誉樹
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営(受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など)に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

本学附設の心理相談室において、80時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. インテーク面接に関する陪席・報告
 2. ケース(心理相談)担当とそれに伴う準備・事後対応(記録など)
 3. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応(所見作成など)
 4. 心理検査担当(フィードバック面接を含む)とそれに伴う準備・事後対応
 5. 心理相談室カンファレンス等への陪席
 6. 関係機関とのカンファレンス等への陪席
- 実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

「心理実践実習Ⅱ a」での学びを踏まえ、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習課題の遂行(70点)、その他提出物・実習ノート・など(30点)によって、総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	270434A0J
授 業 名 (Course Title)	心理実践実習 V (学外実習) A 福祉分野等を含む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	藤田 未央, 高井 直美, 空間 美智子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
 1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
 4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
 5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 指定された福祉機関等に関する学外実習施設において56時間以上(原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
 2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
 3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
 4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
 5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
 6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

配属先の福祉機関に関する情報(歴史、理念、概要、利用者等)について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
 20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習施設での実習課題の遂行(60点)、実習施設(実習指導者)による評価(15点)、実習担当教員による評価(15点)、その他提出物・実習ノートなど(10点)で総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	270435A0J
授 業 名 (Course Title)	心理実践実習 VI (学外実習) A 教育分野等を含む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	三好 智子, 向山 泰代, 佐藤 睦子
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
 1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
 4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
 5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 指定された教育機関等に関する学外実習施設において56時間以上(原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
 2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
 3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
 4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
 5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
 6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

配属先の実習機関に関する情報(沿革、理念、概要、利用者等)について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

・準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))
 20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習施設での実習課題の遂行(60点)、実習施設(実習指導者)による評価(15点)、実習担当教員による評価(15点)、その他提出物・実習ノートなど(10点)で総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	270436N0J
授業名 (Course Title)	心理実践実習Ⅶ (学外実習) 保健医療分野等を含む
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	河瀬 雅紀・伊藤 一美・村松 朋子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	M1
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

2. 教育・学習の研究課題 (Course Objectives)

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

1. 指定された保健医療等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

配属先の実習機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

・準備学習に必要な標準時間数（合計）(Standard Prep Study hours (Total))
20時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

講義コード (Course Code)	270802N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊研究 B (発達心理学)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	高井 直美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

発達心理学に関する重要な理論について理解を深め、さらに内外の最近の研究動向をレビューすることを通して、現在の研究課題を認識し、発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを探る能力を身に着ける。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 発達心理学の重要な理論について、学ぶ。
2. 内外の研究論文を読解する。
3. 受講生の研究テーマに関係する研究論文を講読する。
4. 発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを立案する。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生による発表と討論を中心に進める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日本発達心理学会や日本心理学会など、学会にはできる限り積極的に参加し、心理学研究者の研究テーマの最近の動向をつかんでおくことよ。

日頃より英語文献の講読に親しんでおくことよ。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表と討論への参加状況を70%とし、レポートを30%とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 認知発達の理論に関する文献講読
- 第3回 認知発達の理論に関する文献講読と討論
- 第4回 社会性の発達の理論に関する文献講読
- 第5回 社会性の発達の理論に関する文献講読と討論
- 第6回 言語発達の理論に関する文献講読
- 第7回 言語発達の理論に関する文献講読と討論
- 第8回 受講生の研究テーマに関する文献講読①
- 第9回 受講生の研究テーマに関する文献講読と討論①
- 第10回 研究の倫理性について①事例を扱う研究の場合
- 第11回 研究の倫理性について②質問紙調査や実験的研究の場合
- 第12回 受講生の研究テーマに関する文献講読①
- 第13回 受講生の研究テーマに関する文献講読と討論②
- 第14回 発達心理学の発展に寄与できる研究テーマについて①日本の研究から
- 第15回 発達心理学の発展に寄与できる研究テーマについて②海外の研究から

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業順序は変わることがある。

講義コード (Course Code)	270804N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊研究 D (教育評価)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	松島 るみ、尾崎 仁美
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

教育評価に関する基本概念や歴史的展開、教育評価をめぐる現代的課題について理解を深めるとともに、教育的決定のための評価資料の収集方法や整理および解釈の仕方について理解することを目的とする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

1. 教育評価の意義と目的、歴史的展開について理解する。
2. さまざまな評価方法の長所と短所を理解する。
3. 評価資料の収集方法や解釈の方法を学ぶ。
4. 教育評価をめぐる現代的課題について理解を深める。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

受講生による発表とディスカッションを中心に進める。参考資料は、授業中に適宜指示をする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

・日頃より教育評価の方法や課題について最新の情報を得るようにすること。

・発表内容の背景となる文献や関連文献を熟読しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、発表・ディスカッションへの参加状況 (70%)、レポート (30%) により総合的に行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育評価の基本概念
- 第3回 教育評価の意義・目的
- 第4回 教育評価の歴史的展開
- 第5回 教育目標と教育評価の関係
- 第6回 指導に活かす評価のあり方と評価に影響を与える要因
- 第7回 教育評価と心理的影響
- 第8回 教育評価の方法
- 第9回 評価資料の収集法
- 第10回 評価資料の解釈と利用
- 第11回 学校における評価の実際
- 第12回 授業・教師・学校の評価
- 第13回 教育評価の現代的課題
- 第14回 諸外国における教育評価
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270806N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊研究F (心理アセスメント)
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担当者 (Instructor)	河瀬 雅紀・向山 泰代
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D12
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	隔年開講2

1. 科目の研究目標 (Course Description)

本科目では、学部・博士前期課程で学んだ種々の心理アセスメント理論と、さまざまな臨床実践での経験を基に、研究テーマを具現化して行くツールとして必要な心理アセスメント理論を選択し応用していく手順を理解する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

(1) 心理学的研究と心理アセスメントとの関連を、観察法・面接法・心理検査・調査法から理解する

(2) 臨床実践において心理アセスメントをどのように研究に生かしていくかを各種心理療法から理解する

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

事例、文献等を用いて討議する

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

学会誌の研究論文、学会や研究会での発表論文などから、関心領域として自ら選択したもの、あるいは、予習用に指定した文献を授業前に熟読しておく

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
40時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

受講者自身の自発的な学びと討論を中心とするため、発表と討論(70%)、適宜実施されるレポート等(30%)に基づいて総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 オリエンテーション

第2回 研究テーマとアセスメント理論について－質問紙法との関連で

第3回 研究テーマとアセスメント理論について－観察法との関連で

第4回 研究テーマとアセスメント理論について－性格検査との関連で

第5回 研究テーマとアセスメント理論について－知能検査との関連で

第6回 研究テーマとアセスメント理論について－発達検査との関連で

第7回 研究テーマとアセスメント理論について－高次脳機能検査との関連で

第8回 研究テーマとアセスメント理論について－投映法との関連で

第9回 研究テーマとアセスメント理論について－来談者中心療法との関連で

第10回 研究テーマとアセスメント理論について－力動的心理学療法との関連で

第11回 研究テーマとアセスメント理論について－認知・行動療法との関連で

第12回 研究テーマとアセスメント理論について－ブリーフセラピー・システム論との関連で

第13回 研究テーマとアセスメント理論について－グループ療法との関連で

第14回 研究テーマとアセスメント理論について－ナラティブセラピーとの関連で

第15回 心理アセスメントと研究倫理について

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270831N0J
授業名 (Course Title)	心理学特殊演習 I
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担当者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・尾崎 仁美・河瀬 雅紀・田中 蒼樹・廣瀬 直哉・松島 るみ・向山 泰代・村松 朋子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Iは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 オリエンテーション

第2回 演習 (課題の設定) (1)

第3回 演習 (課題の設定) (2)

第4回 演習 (課題の設定) (3)

第5回 演習 (課題の設定) (4)

第6回 演習 (課題の設定) (5)

第7回 演習 (課題の設定) (6)

第8回 3専攻による合同演習 (1)

第9回 3専攻による合同演習 (2)

第10回 3専攻による合同演習 (3)

第11回 3専攻による合同演習 (4)

第12回 3専攻による合同演習 (5)

第13回 経過発表 (1)

第14回 経過発表 (2)

第15回 経過発表 (3)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270832N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・尾崎 仁美・ 河瀬 雅紀・田中 蒼樹・廣瀬 直哉・ 松島 るみ・向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D1
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅱは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 経過発表 (1)
- 第2回 経過発表 (2)
- 第3回 経過発表 (3)
- 第4回 経過発表 (4)
- 第5回 経過発表 (5)
- 第6回 経過発表 (6)
- 第7回 3専攻による合同演習 (1)
- 第8回 3専攻による合同演習 (2)
- 第9回 3専攻による合同演習 (3)
- 第10回 3専攻による合同演習 (4)
- 第11回 経過発表 (7)
- 第12回 経過発表 (8)
- 第13回 3専攻による合同演習 (5)
- 第14回 3専攻による合同演習 (6)
- 第15回 3専攻による合同演習 (7)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270833N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・尾崎 仁美・ 河瀬 雅紀・田中 蒼樹・廣瀬 直哉・ 松島 るみ・向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅲは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 演習 (課題の設定) (1)
- 第3回 演習 (課題の設定) (2)
- 第4回 演習 (課題の設定) (3)
- 第5回 演習 (課題の設定) (4)
- 第6回 演習 (課題の設定) (5)
- 第7回 演習 (課題の設定) (6)
- 第8回 3専攻による合同演習 (1)
- 第9回 3専攻による合同演習 (2)
- 第10回 3専攻による合同演習 (3)
- 第11回 3専攻による合同演習 (4)
- 第12回 3専攻による合同演習 (5)
- 第13回 経過発表 (1)
- 第14回 経過発表 (2)
- 第15回 経過発表 (3)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270834N0J
授 業 名 (Course Title)	心理学特殊演習Ⅳ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美・伊藤 一美・尾崎 仁美・ 河瀬 雅紀・田中 誉樹・廣瀬 直哉・ 松島 るみ・向山 泰代・村松 朋子
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	D2
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通じて、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科3専攻による合同専門演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 経過発表 (1)
- 第2回 経過発表 (2)
- 第3回 経過発表 (3)
- 第4回 経過発表 (4)
- 第5回 経過発表 (5)
- 第6回 経過発表 (6)
- 第7回 3専攻による合同演習 (1)
- 第8回 3専攻による合同演習 (2)
- 第9回 3専攻による合同演習 (3)
- 第10回 3専攻による合同演習 (4)
- 第11回 経過発表 (7)
- 第12回 経過発表 (8)
- 第13回 3専攻による合同演習 (5)
- 第14回 3専攻による合同演習 (6)
- 第15回 3専攻による合同演習 (7)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

講義コード (Course Code)	270835N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅰ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D1
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅰでは、主論文(博士論文)についての研究テーマと研究計画の立案を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。

講義コード (Course Code)	270836N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅱ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D2
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅱでは、主論文(博士論文)についての研究テーマと研究計画の立案そして方法論の確立を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。

講義コード (Course Code)	270837N0J
授 業 名 (Course Title)	後期特別研究Ⅲ
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60時間
担 当 者 (Instructor)	高井 直美
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	D3
備 考 (Note)	

1. 科目の研究目標 (Course Description)

博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。

2. 教育・研究の個別課題 (Course Objectives)

- ・研究テーマと研究計画の立案
- ・文献による先行研究の検討
- ・方法論の確立
- ・データの分析
- ・論文の執筆

3. 教育・研究の方法 (Course Methods)

院生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 60時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。

5. 留意事項 (Other Information)

後期特別研究Ⅲでは、主論文(博士論文)についてのデータの分析と論文の執筆を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかを理解し、研究目的に沿ってデータの分析を進め、論文執筆を指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。